

セザルナク、隨テ財力ヲ維持スルコトハ國家ノ總テノ目的ノ爲ニ必要ニシテ、此ノ意味ニ於テハ財政ハ國家ノ一切ノ目的ノ爲ニスル作用ナリト謂フヲ得ベシト雖モ、是レ國家ガ財力ヲ手段トシテ到達セントスル結果ニ外ナラズ。其ノ結果ニ到達スルコトハ財政ニ取リテハ唯間接ノ目的タルニ止マル、其ノ直接ノ目的トスル所ハ其ノ手段タル財力其レ自身ニ在リ。國家ノ他ノ總テノ作用ニ對シテハ財力ハ唯手段タルニ止マル、財政ヲ獨立ナル行政ノ一區域トシテ觀察スルトキハ財力ハ其ノ目的ナリ。

財政ハ國家ノ財力ヲ直接ノ目的トスル作用ナルコトニ於テ、國家ノ他ノ目的ノ爲ニスル作用ニ伴ヒ之ニ附隨シテ財力ヲ生ズル作用ト區別セラル。警察、保育、法政又ハ刑政ノ如キ他ノ目的ノ爲ニスル國家ノ作用ニ在リテモ、之ニ伴ヒ國家ノ收入ヲ生ズルモノ甚多シ。手數料、使用料、特權料、負擔金、官營企業收入、寄附、所有權ノ國庫歸屬、公共團體ノ分擔納付金、罰金科料過料沒收其ノ他ノ處罰收入等其ノ例ナリ。此等ハ何レモ國家ノ財力ニ寄與スルモノナルコトニ於テ財政ト相關聯シ、殊ニ國家ガ此等ノ收入ヲ取得シタル後ニ於テ國庫金トシテ之ヲ管理スル作用ハ財政ニ屬スト雖モ、其ノ收入自身ハ他ノ目的ノ爲ニスル作用ニ伴ヒ其ノ結果トシテ生ズルモノニシテ、其ノ收入ヲ得ルコトハ財政ノ作用ニ屬セズ。刑罰トシテ罰金ヲ課スルハ刑罰權ノ作用タリ、民法ニ依リ相續人ナキ財產ガ國庫ニ歸屬スルハ法政權ノ作用タリ、何レモ財政ノ作用ニ非ザルハ勿論ナルノミナラズ、手數料負擔金企業收入ノ如キ收入ヲ得ルガ爲ニスルモノト雖モ、他ノ目的ノ爲ニスル作用ニ伴ヒ其ノ作用ノ經費ヲ充タス

爲ニ其ノ作用ニ特別ノ關係アル者ヲシテ之ヲ分擔セシメ、又ハ其ノ作用ニ依リ特別ノ利益ヲ受クル者ニ對シ其ノ報償トシテ料金ヲ納付セシムルモノハ財政ノ作用ニ屬セズ。警察許可ノ手數料ヲ課スルハ警察行政ノ作用タリ、道路負擔金又ハ道路占用料ヲ課スルハ道路行政ニ、鐵道收入ハ鐵道行政ニ屬ス。何レモ他ニ主タル目的ヲ有シ、其ノ目的ヲ充タスノ手段トシテ之ニ附隨シテ收入ヲ得ルモノニ外ナラズ。財政ガ此等ノ作用ト異ナル所ハ他ノ目的ノ爲ニスル作用ト無關係ニ獨立シテ收入ヲ得ルガ爲ニスル作用ナルコトニ在リ。財政ニ在リテハ財力其レ自身ガ目的ナリ、他ノ司法又ハ行政ノ目的ノ爲ニ其ノ手段トシテ財力ヲ得ルハ財政ニ非ズ。

財政ハ其ノ手段ニ於テハ警察ト相類スルモノ尠カラズ。殊ニ專賣貨物ノ密造ヲ防止シ及ビ間接稅又ハ關稅ノ不正ノ遁脫ヲ取締ル爲ニハ、警察ト同様ノ手段ヲ必要トス。隨テ又稅務官吏ハ警察官吏ト等シク或ル限度ニ於テハ實力強制ノ權力ヲ與ヘラル。此等ガ警察ト區別セラルル所以ハ一ニ唯其ノ直接ノ目的トスル所ガ國家ノ財力ヲ擔保スルコトニ在リテ、社會ノ秩序ヲ保持スルニ在ラザルコトニ存ス(前出一二頁參照)。

二 財政ノ手段

財政ハ其ノ手段ニ於テハ權力ヲ以テ人民ニ金錢ヲ賦課徵收シ及ビ國家ノ財產並收入支出ヲ管理スル作用ナルコトニ於テ其ノ特色ヲ有ス。

財政ノ作用ハ大體ニ於テ之ヲ二種ニ大別スルコトヲ得。一ハ管理ノ作用ニシテ、一ハ權力ノ作用ナリ。

(一) 管理作用ハ國家ガ其ノ財産及收入支出ヲ管理スル作用ニシテ、之ヲ國ノ會計ト謂フコトヲ得。會計ノ作用ハ國家機關ノ内部ノ作用又ハ國家ガ私人ト同様ノ地位ニ於テ私法上ノ法律行為ヲ爲ス作用ニシテ、人民ニ對シ權力ヲ行使スル作用ニ非ズ。其ノ作用ノ本質ニ於テハ一人又ハ私人ノ團體ガ其ノ會計ヲ處理シ財産ヲ管理スルト異ナルコトナシト雖モ、唯國ノ經費ハ國民ノ分擔スル所ニシテ、其ノ管理ハ國民ノ利害ト離ルベカラザル關係ヲ有シ、其ノ公正ヲ確保シ非違ヲ抑制スルコトハ國政上最モ重要ナルヲ以テ、國家ハ特別ノ公法的規律ヲ設ケテ其ノ管理ノ任ニ當ル行政應ヲシテ之ヲ遵守セシメ、國民ノ代表機關トシテノ議會ヲシテ之ニ關與セシメ、又獨立ノ機關トシテノ會計検査院ヲ設ケテ其ノ監督ノ任ニ當ラシム。國ノ會計ニ付キ此ノ如キ公法上ノ規律アルヲ以テ、會計ニ關スル法ハ國法ノ重要ナル一部ヲ爲スモノナリ。會計ニ關スル國法ハ一部分ハ憲法ニ屬シ一部分ハ行政法ニ屬ス。其ノ中心ヲ爲スモノハ豫算法ニシテ、豫算ハ議會ノ議決ヲ要シ、而シテ議會ノ權限ニ屬スル限度ニ於テハ會計法ハ憲法ノ範圍ニ屬ス。會計ニ關スル行政法ハ政府ト議會トノ關係以外ニ於テ行政應ヲ拘束スル法的規律ヲ含ムモノナリ。

管理作用ハ財産ノ管理ト收入支出ノ管理トニ分ツコトヲ得。國ノ財産ハ一部分ハ直接ニ各種ノ公ノ目的ニ供用セラル、公物タル國有財産ハ是ナリ。公物タル國有財産ニ付テハ直接ニハ其ノ供用セラルル目的ニ應ジ其ノ目的ノ爲ニスル行政ノ主管應ガ之ヲ管理スルモノニシテ、其ノ管理ハ財政ノ作用ニ屬セズ。財政作用トシテノ財産ノ管理ハ直接ニ公ノ目的ニ供用セラルルニ非ズシテ専ラ經濟的ノ價格ニ於テ國家ノ資産ヲ構成スル財産ノ管理ニ關ス。普通ニ國有財産ヲ分チテ公產又ハ行政財産ト私產又ハ收益財産(又ハ財政財產)トノ二種トス。國有財産法ニ公共用財産、公用財産及營林財産ト稱セルモノハ總テ行政財産ニシテ、直接ニ公ノ目的ニ供用セラル、其ノ雜種財産ト稱セルモノハ即チ收益財産ニシテ公ノ目的ニ供用セラレザルモノナリ。財政ノ作用トシテノ國有財産ノ管理ハ主トシテ雜種財産ノ管理ニ關ス。唯行政財産ト雖モ一面ニ於テ國家ノ經濟上ノ資産ヲ構成スルコトハ勿論ナルヲ以テ其ノ管理作用ニ對シ全體トシテノ監督ヲ加フルコトハ等シク財政ノ作用ニ屬ス。

國ノ收入支出ノ管理ハ會計作用ノ最モ重ナルモノナリ。國ノ收入ハ司法及行政ノ各種ノ作用ニ伴ヒテ生ズト雖モ、其ノ原因ノ何ニ在ルカヲ問ハズ、收入トシテ國庫ニ歸屬シタル上ハ其ノ管理ハ總テ財政ノ作用ニ屬ス。支出モ亦國ノ總テノ目的ノ爲ニ必要ニシテ、其ノ各種ノ目的ノ爲ニ必要ナル支出ヲ爲スコトハ各其ノ目的ノ爲ニスル作用ノ範圍ニ屬スト雖モ、各種ノ支出ノ間ニ適當ノ割合ヲ保タシメ、不必要ナル濫費ヲ制シ、收入ト支出トノ權衡ヲ得セシムルコトハ財政ノ主眼トスル作用ノ一ナリ。

(二) 權力作用ハ國家ノ收入ヲ得ルガ爲ニ權力ヲ以テ人民ニ命令シ強制スル作用ニシテ、其ノ權力

ヲ財政權ト謂フ。其ノ命令強制ノ作用ナルコトニ於テハ警察權ノ作用ニ等シ。唯警察權ハ社會的秩序ヲ目的トシ、隨テ其ノ秩序ヲ害スベキ作爲ヲ禁止シ又ハ其ノ秩序ノ維持ニ必要ナル作爲ヲ命ズルコトヲ主眼トスルニ反シテ、財政權ハ收入ヲ目的トスルモノナルヲ以テ、金錢ノ給付ヲ命ズルコトヲ主眼トシ、其ノ他ノ命令又ハ強制ハ唯附隨ノ作用トシテ行ハルルニ過ギザルノ差アリト雖モ、此ノ差異ハ兩者ノ主タル傾向ヲ示スニ止マリ、兩者ノ區別ノ標準トナルモノニ非ズ。警察ノ作用モ時トシテハ金錢ノ給付ヲ命ズルモノナルコトアリ、財政ノ作用モ作爲不作爲ヲ命ズルモノナルコト少カラズ。兩者ノ區別ハ一ニ其ノ目的ニ存シ、其ノ手段ニ於テハ之ヲ區別スルコトヲ得ザルモノナリ。

財政ニ關スル權力作用ノ最モ主要ナルモノハ租稅ノ賦課徵收ナリ。租稅外ノ國家ノ收入ハ概ネ司法又ハ行政ノ他ノ作用ニ伴ヒ他ノ目的ヲ達スル手段トシテ取得セラルルモノナルニ反シテ、獨リ租稅ハ他ノ特別ノ原因ニ基カズ他ノ目的ノ爲ノ手段ニ非ズ、專ラ國家ノ收入其レ自身ヲ目的トシテ課徵セララルモノナリ。即チ課稅權ノ作用ハ財政權ノ主要部ヲ爲スモノニシテ、財政權ト課稅權トハ殆ド同意義ノ語トシテ用キラル。唯國家ハ租稅ノ外ニ專賣制度ヲ設ケテ自ラ或ル貨物ノ販賣ヲ獨占シ、之ト同種ノ營業ヲ爲スコトヲ一般ニ禁止スルコトアリ。專賣權ニ依ル營業ノ禁止モ收入ヲ直接ノ目的トスルコトニ於テ租稅ト性質ヲ等シクシ亦財政權ノ作用ニ屬ス。命令及強制ノ外ニ財政權ノ附隨的作用トシテハ財產ヲ差押へ之ヲ公賣シ擔保權ヲ設定スル等形成的ノ作用ヲモ包含ス。

三 財政權

財政權ハ國家ノ一般統治權ノ一部ニシテ、統治權ガ收入其レ自身ノ目的ノ爲ニ人民ニ對スル命令強制ノ權力トシテ發動スル場合ニ於テ、其ノ目的ヨリ見テ其ノ權力ヲ財政權ト稱スルナリ。

財政權ハ國家ノ一般統治權ノ一部ナリト雖モ、國家ハ地方自治團體ノ爲ニモ或ル限度ニ於テ其ノ權力ヲ付與シ、自治團體ヲシテ自己ノ權利トシテ權力的ニ人民ヨリ租稅ヲ賦課徵收スルコトヲ得セシム。地方自治團體モ其ノ事務ヲ處理スル爲ニ財力ヲ要スルコトハ勿論ニシテ、而モ自治團體ハ營利會社ニ非ザルヲ以テ、私法的ノ手段ヲ以テハ其ノ財力ヲ全クスルコトヲ望ミ得ベカラザルヲ以テ、國家ハ自治團體ヲシテ此ノ目的ノ爲ニ必要ナル權力ヲ行フコトヲ得セシムルナリ。警察權及法政權ガ國家ニ專屬シ國家ハ之ヲ自治團體ニ付與スルコトナキニ反シテ、財政權ハ公用負擔特權ト共ニ法律ノ定ムル限度ニ於テ自治團體ニモ付與セラレ、國ノ租稅ノ外ニ自治團體モ亦課稅權ノ主體タルナリ。

財政權ノ作用ハ一般統治權ニ基クモノナルヲ以テ特別ノ權力關係ニ基ク作用ハ之ヲ財政權ト區別スルコトヲ要ス。就中(イ)公共組合ガ其ノ組合員ヨリ經費ヲ徵收スルハ私ノ社團ガ其ノ社員ニ經費ヲ分賦スルト其ノ法律上ノ性質ヲ同ジクスルモノニシテ、唯社團權タルニ止マリ統治權ノ性質ヲ有セズ、國家ヨリ與ヘラレタル權力ニ非ズシテ總テノ社團ニ共通ナル權利ナリ。公共組合ト組合員トノ間ニハ特別ノ權力關係ガ成立シ、此ノ特別ノ權力ニ基キ經費ヲ分賦スルモノナルコトニ於テ租稅ト性質ヲ異

ニス。法律ハ時トシテ其ノ經費ノ不納者ニ對シ民事訴訟ニ依ラズ行政上ノ手段ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ベキ特權ヲ認ムルコトアリト雖モ、是レ唯其ノ徵收手續ニ於テ租稅ト同様ノ手段ニ依ルコトヲ得セシムルニ止マリ、之ガ爲ニ組合經費ガ租稅ノ性質ヲ有スルモノト爲スヲ得ズ。(ロ)國家ガ公共團體ニ對シ或ル事業ニ要スル經費ヲ分擔納付セシムルモ亦特別ノ權力關係ニ基クモノニシテ、租稅ト性質ヲ異ニシ、財政權ノ作用ニ非ズ。公共團體ト雖モ其ノ公共團體タル地位ニ基カズ國家ノ統治權ニ服從スル者トシテ一般私人ト等シク租稅ヲ課セラルルコトアリト雖モ、其ノ公共團體トシテノ地位ニ於テ國家ヨリ金錢義務ヲ課セラルルハ租稅トハ全ク性質ヲ異ニスルモノナリ。

四 國ノ財政ト地方財政

財政權ハ國家ニ屬スルノ外國家ノ授與ニ基キ地方團體ニモ屬スルノミナラズ、地方團體ガ自己ノ財產及收入支出ヲ管理スル作用ヲ要スルコトハ勿論ナルヲ以テ、財政ニハ國ノ財政ト地方財政トヲ區別スルコトヲ要ス。若シ廣ク財政ノ語ヲ解シテ總テノ公ノ財務ヲ意味スルモノトセバ、地方團體ノ財政ノ外ニ公共組合ノ營造物法人ノ財政モ其ノ一部ヲ爲スモノナリト雖モ、此等ノ團體ガ其ノ會計ヲ處理シ財產ヲ管理スルハ、唯國家ノ特別ノ監督ニ服シ及ビ其ノ財產權ノ行使ニ付キ公法上ノ制限ヲ受クルコトニ於テ私團體ニ於ケルト異ナルニ止マリ、其ノ收入ノ爲ニ特別ノ統治的權力ヲ與ヘラルルコトナク、其ノ財務ニ關スル作用ハ一般ニ私經濟ノ作用ト異ナルコトナシ。隨テ行政法上ノ問題トシテハ

國ノ財政ノ外ニハ唯地方團體ノ財政ヲ論ズルヲ以テ足レリトス。

第二節 國ノ會計

一 國ノ收入

(一) 收入ノ種類 國ノ收入ハ法律上ノ觀察點ヨリ見テ先ヅ之ヲ公法上ノ收入ト私法上ノ收入トニ分ツコトヲ得。此ノ區別ハ其ノ收入ノ生ズル法律原因ガ公法上ノ名義ニ依ルト私法上ノ名義ニ依ルトニ基クモノナリ。

私法上ノ收入ハ國ノ確定ノ收入タルモノノ外國債及郵便貯金保管金等一時政府ガ受入ルルモ後ニ拂戻ノ義務ヲ負フモノ(法律ハ之ヲ「歲出歳入外現金」ト稱ス)ヲ包含ス。後ノ二種ニ付テハ別ニ之ヲ述ブベク、其ノ確定收入タルモノニハ任意ノ寄附ニ係ルモノノ外、(イ)財產收入(ロ)事業收入(ハ)所有權ノ國庫歸屬ヲ舉グルコトヲ得。(イ)財產收入ハ國有財產ノ拂下代、貸付料、株式配當、預金又ハ貸付金利子等總テ民法上ノ關係ニ於テ國家ガ其ノ財產ヲ處分シ又ハ之ヲ利殖スルニ依リテ生ズル收入ハ之ニ屬ス。(ロ)事業收入ハ國家ノ經營ニ屬スル各種ノ事業ニ依リ民法上ノ名義ニ於テ取得スル收入ナリ。鐵道運賃、衛生試驗所、蠶業試驗場等ノ分析手數料、病院ノ入院料、種畜牧場ノ種付料、造幣局ノ地金銀品位證明精製

手數料、生産品ノ販賣ニ依ル收入等其ノ例ニ屬ス。(ハ)所有權ノ國庫歸屬ハ相續人ナキ財產(民法一〇)、解散シタル法人ノ不處分財產(二條)、無主ノ不動產(同二三)、交付ヲ受クル者ナキ遺失物(遺失物法一五條)、交付ヲ受クル者ナキ假領置物(行政執行法七條)、行政廳ノ保管ニ歸シタル禁制品(同上)、配達及還付不能ノ郵便物(郵便法一五條)、受取人ナキ郵便爲替金(郵便爲替法一三條)、時効ニ依ル取得等總テ法律ニ依リ所有權ガ當然國庫ニ歸屬スルモノトシテ定メラルルモノハ之ニ屬ス。

公法上ノ收入ニハ國際法上ノ收入ト國法上ノ收入トノ別アリ。國際法上ノ收入ハ例ヘバ國際條約ニ基ク賠償金ノ類ナリ。國法上ノ收入ニハ更ニ公共團體ノ分擔納付金ト人民ニ課スルモノトノ別アリ。其ノ人民ヨリ徵收スルモノニハ財政權ニ基ク收入タル租稅ト其ノ他ノ原因ニ基ク收入トヲ分ツコトヲ得。租稅外ノ公法上ノ收入ハ處罰收入(罰金、科料、過料、過怠金、沒)ノ外、負擔金(前出二九)、特權料(財產利得ヲ生ズベキ特權ヲ付與セルコトニ對スル報償トシテ徵收スルモノ)、及手數料ヲ重ナルモノトス。其ノ他實費辨償金(例、裁判費用、非訟事件費用、代)、官吏恩給法納金、官吏ノ損害賠償金等亦國ノ公法上ノ收入ナリ。

此等ノ手數料ニ付テハ、他ノ場所(前出二一八頁以下、二五七頁)ニ於テ既ニ述ベタリト雖モ、手數料ハ行政ノ特定ノ區域ニ特有ナルモノニ非ズシテ、司法及行政ノ各種ノ區域ニ互リテ其ノ適用ヲ見ルモノナルヲ以テ茲ニ一括シテ其ノ性質及種類ニ付キ再言スル所アルベシ。

公法上ノ手數料トハ特定人ノ爲ニスル公ノ役務ニ付キ又ハ特定人ニ許容スル公物ノ使用ニ付キ其ノ

反對給付トシテ徵收スル公法上ノ料金ヲ謂フ。役務又ハ物ノ使用ニ對スル反對給付ノ性質ヲ有スルコトニ於テ租稅ト區別セラレ、隨テ租稅ノ如ク人民ノ資力ヲ標準トシテ賦課スベキ率ヲ異ニスルモノニ非ズシテ、其ノ役務又ハ物ノ使用ヲ標準トシテ一定ノ率ヲ定メ其ノ役務ヲ要求シ又ハ之ヲ必要ナラシメタル者又ハ物ノ使用者ニ平等ニ之ヲ課スルモノナリ。手數料ニハ四種ヲ分ツコトヲ得。(イ)司法上ノ手數料 司法裁判所ノ權限ニ屬スル訴訟手續又ハ非訟事件手續ニ關シ司法權ノ行爲ヲ要求スル者ニ對シテ課スル所ノ手數料ナリ。法律ニ依リテノミ之ヲ課スルコトヲ得(憲法六二條二項但書ニ「報償ニ屬スル行料ヲ除外スルノ意ニシテ即チ司法上ノ手數料ニ」)。(ロ)行政權ノ公ノ行爲ニ對スル手數料 手數料ノ公法的性質ヲ付テハ法律ヲ要スルノ趣意ヲ明示セルモノナリ。(ハ)行政權ノ公ノ行爲ニ對スル手數料 手數料ノ公法的性質ヲ有スルコトノ最モ明瞭ナルハ司法上ノ手數料ノ外ニハ唯統治權ノ行爲ト認ムベキ行政作用ニ對シ其ノ反對給付トシテ課スル所ノ手數料ナリ。高等試驗、普通試驗、教員檢定試驗、醫師試驗、藥劑師試驗等國家ノ行フ公ノ試驗ニ對スル受験料、工業所有權、著作權、鑛業權、漁業權等ニ關スル登録手數料(登録手數料ハ登録稅ト區別スルヲ要ス、登録稅ハ登録手續トシテ課スル所ノ租稅ニシテ手數料ニ非ズ)、租稅督促手數料、稅關ノ臨時開廳其ノ他ノ特別取扱手數料、警察許可手數料、旅券交付手數料等ハ其ノ例ナリ。此等ノ手數料ハ何レモ公ノ權力ノ作用ニ對スル報償タル性質ヲ有シ契約ニ基クモノニ非ズ、國家ノ權力ニ依リ一方的ニ之ヲ賦課スルモノナルヲ以テ、唯法規ニ基キテノミ之ヲ課スルコトヲ得。其ノ法律ニ依ルコトヲ要スルヤ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ルヤハ其ノ反對給付タル行政權ノ作用ガ法律又ハ命令ノ何レニ依リ定メラルルカニ依リ同ジ

カラズ。法律ヲ以テ定メラルル行政作用ニ對シ手数料ヲ徵收スルハ亦必ズ法律ノ根據ニ基クコトヲ要シ、命令ヲ以テ定メラルル行政作用ニ付テハ亦命令ヲ以テ之ニ對スル手数料ヲ定ムルコトヲ得ベシ。何トナレバ或ル行政作用ヲ有償ナラシムルト否トハ唯其ノ行政作用ノ規律ヲ定ムルノ權アル者ノミ之ヲ爲スヲ得ベケレバナリ(憲法六二條二項ハ唯行政上ノ手数料其ノ他ノ收納金ガ必ズシモ法律ニ依ルヲ要セ)。(ハ)公企業ノ役務ニ對スル手数料 此ノ種ニ屬スルモノハ大部分ハ私法上ノ收入トシテ取扱ハレ自由意思ニ依ル契約ニ其ノ根據ヲ有スルモノナルヲ以テ法規ノ根據アルコトヲ要セズ。唯公企業ノ利用ガ法律上ニ強制セラルル場合又ハ日常生活ノ需要ヲ充ス爲ニ其ノ利用ヲ餘儀ナクセラルル場合ニ於テハ其ノ手数料ハ契約ニ基カズ一方的ニ賦課セラルルモノナルヲ以テ、公法的性質ヲ有スルモノト認ムベク、法規ニ基クコトヲ要ス。其ノ他ノ場合ニ於テモ法律ガ特ニ其ノ不納者ニ對シ行政上ノ手段ヲ以テ強制徵收ヲ爲シ得ベキコトヲ定ムルモノハ法律ガ之ヲ公法的事件トシテ取扱フノ意ヲ示セルモノニシテ等シク公法的性質ヲ有スル手数料ナリ。(ニ)公物ノ使用料 公共物ニ對スル報償トシテ徵收スルモノハ一般ニ公法的性質ヲ有スルニ反シテ、公用物ノ使用ハ普通ニ民法上ノ契約ニ依ルモノトシテ取扱ハルルコトハ公物ノ章ニ於テ述ベタルガ如シ。

(二) 收入ノ機關 收入ノ機關ニハ命令機關即チ收入スベキ金額ヲ決定シテ之ヲ債務者ニ告知スル機關ト執行機關即チ現金ヲ受領スル機關トヲ區別スルヲ要ス。收支ノ實行ニ關シテ命令機關ト執行機

關トヲ分離スルコトハ近代各國ニ於ケル會計法上ノ共通ノ原則ニシテ、支出ニ付キ其ノ命令ヲ發スルノ職務ト現金ヲ支出スル職務トガ分離セラルルト同ジク、收入ニ付キテモ收入ヲ命令スル職務ト其ノ命令ニ從ヒテ現金ヲ受領スル職務トハ分離セラレ、別々ノ機關ニ屬スルコトヲ原則トスルナリ。

收入ヲ命令スル機關ハ各種ノ收入ニ付テ法令ニ依リ其ノ權能ヲ與ヘラレタル機關ナルコトヲ要ス。之ヲ歲入徵收官ト謂フ。會計法(一二條)ニ『法令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非ザレバ租稅其ノ他ノ歲入ヲ徵收又ハ收納スルコトヲ得ズ』ト曰ヘルハ此ノ意ヲ示スモノナリ(但シ各廳事務員チシテ收納ヲ分掌セシムル場合又ハ日本銀行チシテ收納ヲ取扱ハシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ)法律ガ徵收ト曰ヘルハ租稅其ノ他ノ公法上ノ收入ニ付テ曰ヒ收納ト曰ヘルハ私法上ノ收入ニ付テ曰ヘルナリ。

現金ヲ受領スル機關ハ究竟ニ於テハ常ニ日本銀行ナリ。總テ國庫金出納ノ事務ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムルモノナルヲ以テ國ノ一切ノ收入ハ必ズ日本銀行ニ受入セラルルコトヲ要ス。然レドモ日本銀行ハ必ズシモ常ニ直接ニ債務者ヨリ之ヲ受領スルニ非ズ。債務者ハ或ハ直接ニ日本銀行ニ納入スルコトアレドモ、通常ハ或ル仲介機關ニ納入シ仲介機關ヨリ更ニ之ヲ日本銀行ニ納入スルナリ。

現金ノ受領ニ付キ仲介者ノ任ニ當ル機關ハ (イ)郵便官署 (ロ)收入官吏 (ハ)市町村 (ニ)特ニ收入受領ノ委任ヲ受ケタル者ナリ。(イ)郵便官署ハ各官廳ノ徵收スル歲入金ニ付其ノ受入ノ事務ヲ取扱フ (大正四勅令六)。(ロ)收入官吏ハ各廳長官ガ部下ノ官吏中ヨリ之ヲ命ズルモノニシテ、收入受領ノ任ニ當リ、而シテ其ノ受領シタル金額ハ之ヲ日本銀行ニ納入ス。(ハ)市町村ハ國稅徵收法(五)ニ依リ地租

及ビ勅令ヲ以テ指定セラレタル國稅ヲ徵收シ其ノ稅金ヲ日本銀行ニ納付スル責任ヲ負フ。市町村ノ機關トシテ現金受領ノ任ニ當ル者ハ其ノ收入役ナリ。(ニ)所得稅法(六七條)ハ第二種所得即チ公債又ハ社債ノ利子ニ對スル所得稅ニ付其ノ徵收ヲ其ノ利子ヲ支拂フ銀行、會社又ハ其ノ他ノ團體ニ委任ス。其ノ他資本利子稅及取引稅モ同様ノ例ニ屬ス。委任ヲ受ケタル者ハ其ノ委任ノ限度ニ於テ國ノ收入ヲ受領スルノ任ニ當リ、其ノ受領シタル金額ハ之ヲ日本銀行ニ納付スル義務ヲ負フ。

(三) 收入ノ方法 收入ノ方法ニハ、(イ)納稅又ハ納入告知書ヲ發スル場合、(ロ)口頭ヲ以テ納稅又ハ納入ヲ告知スル場合、(ハ)告知行爲ヲ要セズシテ收納スル場合、(ホ)印紙ニ依リ收納スル場合ノ四種ヲ分ツコトヲ得。

(イ) 收入ノ最モ通常ナル方法ハ歳入徵收官ヨリ義務者ニ對シ徵收令書ヲ發シ其ノ納付スベキ金額、場所及納期ヲ告知スルニ依リテ徵收スルモノ是ナリ。徵收令書ハ租稅ニ在リテハ納稅告知書ト謂ヒ(國稅徵收法施行規則一條二條)、其ノ他ノ收入ニ在リテハ納入告知書ト謂フ(會計規則三一條)。告知書ノ法律上ノ性質ハ場合ニ依リ一様ナラズ。或ハ法令ニ基キ金錢給付義務ヲ命ズル行政行爲ナルコトアリ、或ハ既ニ完全ニ成立セル債務ニ付キ之ヲ催告スル行爲タルニ止マルコトアリ。前ノ場合ハ下命行爲ニシテ、後ノ場合ハ通知行爲ナリ。納稅告知書ハ前者ノ例ニ屬ス。納稅義務ハ法律ニ依リテ定メラルト雖モ未ダ現實ノ效果ヲ生ゼズ、告知書ニ依リ始メテ其ノ效果ヲ完成スルナリ。市町村ニ徵收ヲ委任シタル國稅ニ在リテハ、

收稅官廳ヨリ各納稅義務者ノ納付スベキ金額ヲ市町村ニ通知シ、市町村ハ其ノ通知ニ基キ納稅義務者ニ對シ納稅告知書ヲ發ス(國稅徵收法施行規則二條)。

(ロ) 給付義務ガ行政行爲ニ依リテ命ゼラルルモノニ在リテモ、徵收令書ノ形式ヲ用キズ、口頭ヲ以テ之ヲ命ジ、直ニ之ヲ徵收スルモノアリ。關稅ハ其ノ例ニ屬ス。納稅義務ガ行政行爲ニ依リ完成スルコトハ納稅告知書ヲ發スル場合ニ同ジト雖モ、其ノ行政行爲ガ書面ニ依ラズ口頭ヲ以テ行ハルルナリ。此ノ場合ニ於テハ收入ヲ命令スル機關ト之ヲ受領スル機關トガ分離セラレズシテ、稅關長及稅關官吏ハ特ニ歳入徵收官タル職務ト收入官吏タル職務トヲ兼ネ行フノ變例ヲ見ル。

(ハ) 給付義務ガ直接ニ法令ニ依リテ發生シ行政行爲ヲ以テ之ヲ命ズルヲ要セザルモノニ在リテハ納稅又ハ納入告知書ヲ發スルコトナク、收入ヲ受領スル機關ニ於テ直接ニ之ヲ受納スルモノアリ。此ノ場合ニ於テハ收入ヲ命令スル行政行爲ノ介在スルモノナク、法律上ノ義務ガ直ニ履行セラルルナリ。國稅中第二種所得ノ所得稅ハ此ノ例ニ屬シ、手数料又ハ其ノ他ノ收入ニ付テモ此ノ例ニ屬スルモノ多シ。

以上(イ)(ロ)及(ハ)ノ何レノ場合ニ於テモ、其ノ納入ハ現金ヲ以テスルノ外、小切手、爲替手形、郵便爲替證書等ノ證券ヲ以テスルヲ妨グズ(大正五法律一〇證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律、大正五法律二五六歳入納付ニ使用スル證券ニ關スル件)。

(ニ) 收入ノ方法ニ付テ特殊ノ形態ヲ爲スモノハ印紙ニ依ル收入ナリ。登録稅、印紙稅、骨牌稅、其

ノ他法律ノ指定スル特殊ノ租税、主務大臣ノ指定スル手数料又ハ其ノ他國庫ニ屬スル歳入金ハ特ニ收入印紙ヲ以テ之ヲ納メシムルモノアリ(大正九勅令一九〇)。郵便料モ亦原則トシテ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付セシム。收入印紙及郵便切手ハ政府ガ其ノ製造、發行及販賣ヲ獨占スルモノニシテ、外形上ハ稍專賣ニ類スト雖モ、專賣ノ目的物タルハ常ニ實質的ノ價值アル貨物ナルニ反シテ、印紙及切手ハ其レ自身ニ實質的價值アル物ニ非ズ、單ニ金錢上ノ價格ヲ表象スル證券ニシテ、國家ガ金錢ヲ收納スル手段トシテ用キラルルニ過ギザルコトニ於テ、專賣ト其ノ性質ヲ異ニス。國家ハ一面ニ於テ印紙ノ發行及販賣ヲ獨占スルト共ニ、一面ニ於テ納入義務者ニ對シ其ノ義務履行ノ手段トシテ印紙ヲ使用スルコトヲ命ジ而シテ一タビ使用シタル印紙ハ其ノ使用ニ依リ當然價格ヲ失ヒ何人モ再ビ之ヲ使用スルコトヲ得ザルモノタラシメ、之ニ依リ收入ノ目的ガ達セラルルナリ。國家ガ現金ヲ受領スルハ印紙ノ賣捌ニ依ルモノニシテ、此ノ點ニ於テ他ノ收入ト異ナリト雖モ、印紙ノ購買ガ義務ノ履行ナルニ非ズシテ其ノ使用ガ義務ノ履行ナリ。

(四) 國債 國債トハ國家ガ其ノ歳入ノ不足ヲ補フガ爲ニ他ノ者ヨリ金錢ノ借入ヲ爲シタルニ因リ負フ所ノ債務ヲ謂フ。國債ハ歲計上ノ一時ノ不足ヲ補フ爲ニ借入ヲ爲シ當該年度ノ歳入ヲ以テ償還スルモノト其ノ年度以後ニ互ルベキ歳入ノ不足ヲ充ス爲ニ借入ヲ爲スモノトニ分ツコトヲ得。前者ハ大藏省證券及一時借入金ニシテ、後者ハ狹義ノ國債(或ハ之ヲ固定公債ト謂フ)ナリ。

狹義ノ國債ハ無記名證券ヲ發行スルヲ常例トシ、債權者ノ請求アルトキハ、證券ヲ發行セズシテ國債登録簿ニ登録シ、又ハ記名證券ヲ發行スルコトヲ得(三九法律三四國債ニ關スル法律二條)。國債ハ之ヲ任意國債ト強制國債トニ分ツコトヲ得。前者ハ任意ノ契約ニ基クモノニシテ、之ヲ普通ト爲ス。後者ハ契約ニ依ラズ法律ノ力ニ依リ設定セラルルモノニシテ、直接ノ強制國債ト間接ノ強制國債トノ別アリ。直接ノ強制國債ハ人民ノ資産ニ應ジテ強制的ニ金額ヲ賦課シ而シテ國家ガ其ノ元利償還ノ義務ヲ負擔スルモノニシテ、強制的ノ金錢賦課ナルコトニ於テ租税ニ類スト雖モ國家ガ元利償還ノ義務ヲ負フコトニ於テ之ト異ナリ。間接ノ強制國債ハ國家ガ人民ニ對シ金錢給付ノ義務ヲ負フ場合ニ於テ其ノ債務ノ辨濟ニ代ヘテ國債證券ヲ交付スルモノナリ。故ニ普通ニ之ヲ交付公債ト謂フ。直接ノ強制公債ハ我が國法上其ノ例ヲ見ズト雖モ、間接ノ強制公債ハ鐵道ノ買收、臨時ノ賜金等ニ付キ其ノ實例頗ル多シ。即時ニ金錢ヲ給付スルコトノ代リニ強制的ニ國債證券ヲ交付シ、以テ債務ノ辨濟ヲ延期スルモノナルヲ以テ、其ノ法律ノ定ヲ要スルコトハ勿論ナリ。

國債ノ元金償還ノ方法ニハ抽籤償還法ト買入銷却法トノ二種アリ。前者ハ一定ノ据置年限經過ノ後最終ノ償還期限ニ至ル迄ノ間ニ毎年度ノ豫算ノ範圍内ニ於テ政府ガ臨時抽籤ニ依リ額面金額ヲ以テ償還スルヲ謂ヒ、後者ハ政府ガ隨時市價ヲ以テ國債證券ヲ買入レ之ガ銷却ヲ爲スヲ謂フ(二九法律五國債證券買入銷却法)。我が國法ハ前者ヲ常則トシ、便宜後者ノ方法ヲ採リ得ベキモノト爲セリ。

國債償還ノ計畫ヲ秩序的ナラシムルガ爲ニ國債整理基金(三九法律六國債整理基金特別會計法)ノ制アリ。國債ノ償還ニ充ツベキ資金トシテ、毎年度一般會計又ハ特別會計ヨリ一定ノ割合ヲ下ラザル金額ヲ整理基金ニ繰入ルルノ外、毎年度ノ歲計剩餘金中ノ一部ヲモ之ニ繰入ルベキモノト爲シ、而シテ其ノ繰入金中ヨリ毎年度一定ノ割合及一定ノ金額以上ニ必ズ國債元金ヲ償還スベキモノト定ム。國債整理基金ハ之ヲ一ノ特別會計ト爲ス。

(五) 歳入歳出外現金 國ノ收入トシテ豫算及決算上歳入中ニ計上セラルルモノノ外ニ、確定ノ收入トシテニ非ズシテ一時的ニ政府ニ受入レ後ニ政府ガ返還ノ義務ヲ負フモノニ供託金、保管金、郵便貯金、郵便爲替金等アリ。此等ハ一般ニ大藏省預金部ニ預入ルベキモノト定メラル(會計規則一二一條、預金部預金)。政府ノ管掌スル健康保險及簡易生命保險ニ於ケル保險料、郵便年金事業ニ於ケル掛金モ亦支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルルコトヲ得(健康保險特別會計法六條、簡易生命保險特別會計法三條ノ二、郵便年金特別會計法四條)。國有財産整理資金、賠償金特別會計ニ屬スル資金、公債金、國債整理基金、教育基金、教育改善及農村振興基金等ニ付テモ亦同ジ(國有財産整理特別會計法五條、賠償金特別會計法二條、公債金特別會計法三條、國債整理基金特別會計法四條、教育基金特別會計法五條、教育改善及農村振興基金特別會計法五條)。

凡テ此等ノ法令ニ依リ大藏省預金部ニ預入ルル現金ハ之ヲ預金部預金トシ、大藏大臣之ヲ管理シ、日本銀行ヲシテ其ノ受拂ノ事務ヲ取扱ハシム。預金部預金ノ運用ニ關シテハ從來別段ノ法律ノ定ナク

政府ノ專權ニ委ネラレタリシガ、大正十四年ニ始メテ預金部預金法(大正一四法律二五、同年四月一日ヨリ施行)ヲ制定シテ、預金部資金運用委員會ヲ設置シ、大藏大臣ハ其ノ運用ニ關シ此ノ委員會ニ諮問スルヲ要スルモノト爲シタリ(其ノ運用方法ノ制限及ビ運用委員會ノ組織ニ付テハ大正一四勅令五、五預金部資金運用規則及ビ大正一一一六藏省令六預金部預金取扱規程)。

預金部預金其レ自身ノ受入及拂戻ニ付テハ豫算ヲ以テ議會ノ協賛ヲ經ルコトナキニ反シテ、預金部預金ノ運用利殖金及其ノ支出ニ付テハ別ニ大藏省預金部特別會計(大正一四法律一三六藏省令預金部特別會計法)ヲ設置シ、其ノ收支ニ關シ毎年豫算ヲ以テ議會ノ協賛ヲ經ベキモノト定メラル。

二 國ノ支出

(一) 國庫金ノ支出ニ關スル法律上ノ拘束ハ主トシテ豫算ニ基クモノニシテ、豫算ハ支出ノ目的支出ノ金額及支出ノ時期ノ三點ニ於テ政府ヲ拘束スル力ヲ有ス。此等ノ點ニ付テノ豫算ノ性質及效力ハ事憲法ノ問題ニ屬シ茲ニ述ブベキ所ニ非ズ。

憲法ノ意義ニ於テノ豫算ノ下ニ於テ、各省大臣ハ毎年決定ノ豫算定額ニ基キ支出官毎ニ所要ノ費額ヲ定メテ支拂豫算ヲ調製シ之ヲ支出官ニ命ズ(會計規則一四條)。支拂豫算ハ憲法ノ定ムル豫算ト異ナリ單純ナル官廳ノ職務上ノ訓令ニシテ、其ノ效力ニ於テモ一般ノ訓令ト異ナルコトナシ。時トシテハ政府ハ豫算定額ノ範圍内ニ於テ別ニ實行豫算ヲ編製シテ之ヲ執行スルコトアリ。實行豫算ハ豫算不成立ノ爲ニ前年度ノ豫算ヲ施行スルトキ又ハ豫期セラレザル故障ノ爲ニ收入ノ不足ヲ生ジタルトキ等、豫算ヲ其

ノ儘執行スルコトノ困難ナル場合ニ於テ豫算ノ範圍内ニ於テ政府ガ自ラ其ノ支出シ得ベキ目的及金額ヲ制限スルガ爲ニスルモノニシテ、此ノ場合ニ於テハ支拂豫算ハ之ニ基キテ調製セラル。實行豫算モ亦憲法ノ意義ニ於テノ豫算ニ非ズ、政府ノ内部ノ定タルニ止マル。

(一) 支出ガ豫算ニ從フコトヲ要スルノ原則ニハ多少ノ例外アリ。

(イ) 避クベカラザル豫算ノ不足(豫算超過支出)ヲ補フ爲ニ第一豫備金ノ設アリ。第一豫備金ヲ以テ補充シ得ベキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(會計規則一八條)。蓋シ豫備金ノ補充ヲ許スハ官廳ノ自制ニ依リテ避クルコトヲ得ザル他動的原因ニ基キ不足ヲ生ジ得ベキ費目ナラザルベカラザレバナリ。其ノ支出ノ必要アルトキハ各省大臣ハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス、大藏大臣其ノ支出ヲ承認シタルトキハ會計検査院ニ其ノ旨ヲ通知ス(同一九條)。其ノ承認ヲ得タル金額ハ之ヲ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ズ(同四)。

(ロ) 豫算ノ外ニ生ジタル必要ノ費用(豫算外支出)ニ充ツルガ爲ニハ第二豫備金ノ設アリ(會計法九條)。各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付ス、大藏大臣之ヲ調査シ意見ヲ附シテ勅裁ヲ請ヒ、勅裁アリタルトキハ大藏大臣ハ之ヲ官報ニ公示シ且ツ會計検査院ニ通知ス(會計規則二一條乃至二三條)。其ノ金額ハ之ヲ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ズ(同四)。

(ハ) 第二豫備金ノ定額ヲ以テ豫算外支出ノ必要ヲ充タス能ハザル場合ニ於テ、若シ國庫ニ剩餘金アルトキハ剩餘金ヲ以テ之ニ充ツルヲ例トス。剩餘金トハ前年度ノ收支ニ於テ實際ノ歳入ヨリ實際ノ歳出ヲ差引キテ生ジタル殘金ヲ謂フ。剩餘金ハ正確ニハ主計簿ノ締切及決算ノ調製ヲ待チテ始メテ之ヲ知ルヲ得ベク、會計法(二六條)ニハ各年度ノ歳計剩餘金ハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルベキモノト爲セリト雖モ、豫算編製ノ際ニハ現年度ノ剩餘金ハ尙不明ナルノミナラズ、前年度ノ剩餘金モ翌年度ノ財源トシテ用ナル金額ハ之ヲ歳入豫算ニ計上セザルヲ例トス。剩餘金支出トハ豫算ニ計上セラレザル剩餘金ヲ支出スルノ謂ニシテ、或ハ主計簿締切前ニ於テ既ニ剩餘金ヲ生ズベキコトヲ豫想シテ之ヲ支出スルコトアリ(豫想的剩餘金)。或ハ主計簿締切ノ後剩餘金アルコトヲ確認シテ之ヲ支出スルコトアリ(確定的剩餘金)。後者ヲ普通ノ例トス。剩餘金支出ノ手續ニ付テハ會計法ニハ別段ノ規定ヲ爲サズト雖モ、豫算外支出ナルヲ以テ第二豫備金ノ例ニ準ジ、各場合ニ付キ勅裁ヲ經ルヲ要スルコト言フ俟タズ。

(ニ) 支出ノ時期ニ關シテハ、或ル年度ニ屬スル歳出ハ其ノ年度内ニ支出ヲ完了スルヲ要スルヲ原則ト爲スト雖モ、歳入ノ受入ニ付キ會計年度經過後尙或ル猶豫期間ノ定アルト共ニ、支出ニ付テモ其ノ手續ヲ完結スル爲ニ或ル猶豫期間ヲ設ク。之ヲ出納整理期間ト謂フ。歳入ニ關シテハ日本銀行ニ於テ毎年度所屬ノ歳入金ヲ受入スル期間ヲ四月三十日(出納官吏又ハ市町村ヨリ)限(會計規則五條)トシ、歳出ニ關シテハ國務大臣又ハ支出官ガ小切手ヲ振出し得ベキ期間ヲ四月三十日限(同五)、日本銀行ニ於テ支拂ヲ爲

スベキ期間ヲ五月三十一日限^(五)トシ、而シテ毎年七月三十一日ヲ以テ大藏大臣ハ會計検査官立會ノ
上前年度ノ主計簿ヲ締切ルベキモノト爲セリ^(一六)。之ニ依リテ毎年度ノ出納ガ結了セラルルモノニ
シテ、即チ年度經過後四ヶ月ノ整理期間ガ認めララルルナリ<sup>(會計法一條二項「一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ
關スル事務ハ翌年度七月三十一日迄ニ悉皆完結スベ
シ」)</sup>。

(ホ)豫算ニ定メタル各年度ノ經費定額ハ、其ノ年度ノ經費ニノミ充ツルコトヲ得ベク、他ノ年度ニ
屬スベキ經費ニ充ツルコトヲ得ザルヲ原則トス^(會計法一三條)。此ノ原則ニ對シテモ亦二ノ例外アリ、一ハ定
額繰越ノ制ニシテ一ハ委任經理ノ制ナリ。(1)定額繰越ハ其ノ年度ニ於テ支出ヲ終ヘザリシ經費ヲ翌
年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得ベカラシムルモノニシテ、各特別會計ニ付キ定メラルルモノノ外、一
般會計ニ付テハ三ノ場合ニ之ヲ認ム<sup>(一、豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ、二、一年度内ニ終ルベキ工事製造又ハ物品ノ買
入若ハ運搬ニシテ避クベカラザル事故ノ爲ニ竣功又ハ納入若ハ運搬ヲ遅延シ年度内ニ
其ノ經費ノ支出ヲ終ヘザリシモノ、三、數年ヲ期シテ竣功スベキ工事製造其ノ)</sup>。(2)委任經理ハ二三ノ特殊ノ經費<sup>(二三
他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノ是ナリ。會計法二七條二八條)</sup>ニ付テノミ認メラルルモノニシテ、經費定
額ヲ當該官吏ニ交付シテ其ノ使用ヲ一任シ、其ノ支出殘額ハ之ヲ積立テ繰越シ使用スルコトヲ得ベカ
ラシムルモノナリ。

(三)支出ノ機關ニ付テハ、支出ヲ命令スル機關ト其ノ命令ニ基キ現金ノ支拂ヲ爲ス機關トノ相分
離セラルルコトハ收入ニ於ケルト同ジ。

支出ノ命令ハ小切手ノ振出ニ依リ之ヲ行フ^(會計法一五條)。小切手振出ノ權ヲ有スル機關ハ國務大臣又ハ國
務大臣ノ委任ヲ受ケタル支出官ナリ。國務大臣又ハ支出官ハ正當ナル債權者ノ爲ニスルニ非ザレバ小
切手ヲ振出スコトヲ得ズ^(六一條)。

現金ノ支拂ヲ爲ス機關ハ日本銀行ニシテ、日本銀行ハ小切手ノ呈示ニ對シ其ノ正當ナルコトヲ認メ
テ之ガ支拂ヲ爲ス^(會計規則五一條)。小切手振出ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼スルコトヲ得ズ<sup>(法三
八條)</sup>。

國庫金ノ支出ガ日本銀行ニ對スル小切手振出ノ方法ニ依ルニ至リシハ大正十一年以後ニシテ、國庫
金ノ取扱ニ付キ預金制ヲ取ルニ至リシニ因ル。國庫金ノ出納ニ關スル制度ハ明治二十三年會計法及金
庫規則ノ實施ニ至ル迄ハ大藏省ニ金庫局ヲ置キテ之ニ當ラシメ、即チ政府ガ自ラ其ノ出納ヲ掌ルノ制
ヲ取リシガ<sup>(固有金
庫制度)</sup>、同年以後之ヲ日本銀行ニ委任シ、政府ハ金庫ニ對シ仕拂命令ヲ發シ金庫ヲシテ其
ノ仕拂ヲ爲サシムルノ制<sup>(委託金
庫制度)</sup>ヲ取リ、更ニ大正十年ノ會計法改正ニ依リ之ヲ預金制度ニ改メ、翌十
一年四月一日ヨリ之ヲ實施シタルモノナリ。會計法<sup>(五
條)</sup>ニハ政府ハ日本銀行ヲシテ國庫金出納ノ事務
ヲ取扱ハシム、日本銀行ノ受入シタル國庫金ハ之ヲ政府ノ預金トスト曰ヘリ。委託金庫制ニ在リテハ
國庫金ト銀行ニ屬スル營業資金トハ判然分離セラレ銀行ハ國庫金ヲ營業上ニ運用スル自由ナキニ反シ
テ、預金制ニ在リテハ國庫金ハ銀行ノ預金トシテ取扱ハレ、國庫金ト銀行資金トハ分離セラルルコト
ナク、銀行ハ一般預金ト等シク之ヲ運用スルコトヲ得ベク、隨テ又政府預金ニハ大藏大臣ノ特ニ定ム

ルモノ及政府ノ爲ニスル支拂ノ準備ニ必要ナル金額ヲ除クノ外、總テ相當ノ利子ヲ附スベキモノトセラル(會計規則四條)。日本銀行ニ於ケル國庫金取扱ノ手續ニ付テハ日本銀行國庫金取扱規程(大正一〇)ニ詳細ノ定アリ。

(四) 國庫金ノ支出ガ日本銀行ニ對スル小切手ノ振出ニ依リテ行ハルルノ原則ニ對シテハ二三ノ例外アリ。(イ)資金前渡(ロ)渡切經費(ハ)委任經理(ニ)繰替拂是ナリ。

(イ)資金前渡ハ主任官吏ニ對スルモノト日本銀行ニ對スルモノトノ別アリ。何レモ或ル目的ヲ定メテ一定ノ現金ヲ交付シ、之ヲシテ其ノ目的ノ爲ニ支出スルコトヲ得シムルモノナリ(主任ノ官吏ニ對シ資金前渡ヲ爲シ得ベキ場合ハ會計法一七條、會計規則五七條五八條、日本銀行ニ對シ資金前渡ヲ爲シ得ベキ場合ハ會計法一八條二〇條)。

(ロ)渡切經費ハ在外官廳其ノ他特殊ノ經理ヲ必要トスル場合ニ於テ其ノ應ノ事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給スルモノヲ謂フ(會計法二二條規則六一條)。渡切經費ノ支給ヲ受ケタル官吏ハ其ノ範圍内ニ於テ自己ノ計算ヲ以テ之ヲ支辨スルナリ。

(ハ)委任經理ハ特定ノ目的ノ爲ニ經費定額ヲ主任官吏ニ交付シテ其ノ使用ヲ一任スルモノニシテ、其ノ委任ヲ受ケタル官吏ガ自ラ現金ヲ保管シ之ヲ支出スルノ責ニ任ズルコトニ於テ渡切經費ニ類スト雖モ、渡切ノ場合ニ於テハ官吏ガ自己ノ計算ニ於テ之ヲ支出スルモノニシテ、若シ殘金アルトキハ其ノ私有ニ歸スルニ反シテ、委任經理ノ場合ニ於テハ自己ノ有ニ歸スルコトナク、殘金ハ次年度ニ繰越

シ使用スベキモノナルコトニ於テ之ニ異ナリ。

(ニ)繰替拂ハ國務大臣ガ資金前渡ヲ受ケタル官吏又ハ收入官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル現金ヲ他ノ特定ノ目的ノ爲ニ繰替使用セシムルヲ謂フ(會計法一九條會計規則六二條六三條)。

三 特別會計

特別會計トハ國ノ收入支出ニ關シ特別ノ須要ニ因リ特定ノ目的ノ爲ニ一般會計ヨリ分離シテ獨立ニ計算ヲ爲スヲ謂フ。特別會計ヲ設クルハ唯例外的ノ必要アル場合ニ限り、而シテ之ヲ設クルニハ法律ヲ以テスルコトヲ要ス(會計法三九條)。特別會計ノ設置ハ敢テ統一國庫主義ノ例外ヲ爲スモノニ非ズ、一般會計ニ屬スルト特別會計ニ屬スルトヲ問ハズ、總テノ國ノ收入支出ハ唯一ノ國庫ニ歸屬スルモノニシテ特別會計ハ唯計算上及帳簿上ニ分離セラルルノミ。之ニ反シテ豫算ノ單一主義ニ對シテハ特別會計ハ大ナル例外ヲ爲スモノニシテ、各特別會計ニ付キ特別ノ豫算ヲ編製シ、隨テ特別會計ノ數多キトキハ財政ノ統一ヲ害シ、豫算ノ通覽ヲ妨ゲ、延テ其ノ膨脹ヲ來スノ虞少カラズ、其ノ濫設ハ努メテ之ヲ避クルコトヲ要ス。

現時ノ制ニ於テ特別會計ノ設置セラルルモノハ頗ル多シ。大體ニ於テ之ヲ四種ニ大別スルコトヲ得。(イ)作業特別會計 國家ガ自己ノ計算ニ於テ經營スル事業ニシテ其ノ收益ニ依リ略收支相償フコトヲ得、若クハ利得ヲ剩スモノニ付テ設ケラルルモノナリ。帝國鐵道會計、作業會計、造幣局特別會計、

陸軍作業會計、製鐵所特別會計、健康保險特別會計、簡易生命保險特別會計、郵便年金特別會計、米穀需給調節特別會計等之ニ屬ス。

(ロ) 營造物特別會計 初ヨリ收支相償フコトノ豫期セラレザル國ノ事業ニ付キ設ケラルルモノニシテ、大學特別會計、學校及圖書館特別會計等之ニ屬ス。毎年度一般會計ヨリ支出金ヲ受入ルルコトニ於テ其ノ特色ヲ有ス。對支文化事業特別會計モ此ノ種ニ屬スルモノナレドモ、一般會計ヨリ支出金ヲ受入ルルコトナク、支那ヨリ受取ル賠償金ヲ資金トシ之ヨリ生ズル收入ヲ以テ其ノ事業ヲ行フモノナルコトニ於テ他ノ營造物特別會計ト異ナリ。

(ハ) 基金特別會計 事業經營ノ爲ニスルニ非ズシテ、單ニ計算ヲ獨立ナラシムルガ爲ニ特別ノ基金ヲ置キ其ノ收支ノ計算ヲ他ノ會計ト區別スルモノナリ。或ハ專ラ財政ノ目的ノ爲ニスルモノアリ國債整理基金、公債金、大藏省預金部、賠償金、國有財產整理資金等ノ特別會計ハ之ニ屬ス。或ハ他ノ行政上ノ目的ノ爲ニスルモノアリ、教育基金特別會計、教育改善及農村振興基金特別會計等ハ之ニ屬ス。

(ニ) 殖民地特別會計 各殖民地ハ一般會計ヨリ分離シテ其ノ歲入歲出ヲ計算スルモノト爲セリ。朝鮮總督府、臺灣總督府、關東廳、樺太廳、南洋廳ノ各特別會計ハ是ナリ。

特別會計ノ多クハ自己ノ資金ヲ有シ、資金ヨリ生ズル收入ヲ以テ其ノ支出ニ充ツルコトヲ得。資金ハ必ズシモ現金ノミナラズ、不動産其ノ他ノ財產ヲ包含ス。會計法ニハ「各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ

以テ規定シタルモノヲ除クノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ズ」(四)ト曰ヘリ。特別會計ハ此ノ原則ニ

對スル例外ヲ爲ス(但シ各殖民地特別會計ハ資金ヲ有セズ)モノニシテ、外形上恰モ財產權ノ主體タルガ如クニ取扱ハルト雖

モ、特別會計ニ屬スル資金ハ等シク國家ニ屬スル資金ニシテ、國家以外ニ別箇ノ權利主體アルニ非ズ、唯計算上特別ノ用途ノ爲ニ存スルモノトシテ別箇ニ取扱ハルルノミ。

特別會計ト一般會計トノ關係ハ各特別會計ニ依リ異ナリ。或ハ兩者互ニ獨立ニシテ雙方ノ間ニ受入、支出ノ關係ナキモノアリ、例ヘバ臺灣總督府特別會計、帝國鐵道會計ノ如シ。大多數ノ特別會計ニ在リテハ一般會計トノ間ニ受授ノ關係ヲ有ス。或ハ營造物會計又ハ多クノ殖民地會計ノ如ク一般會計ヨリ支出金又ハ補充金ヲ仰ギ之ヲ以テ其ノ歲入ノ一部ト爲スモノアリ、或ハ多クノ作業會計ノ如ク其ノ收益ノ一部ヲ益金トシテ一般會計ニ繰入ルルモノアリ、或ハ基金會計ニ於ケルガ如ク其ノ支出ハ之ヲ一般會計ニ繰入レテ其ノ歲入トシ而シテ一般會計ノ歲出トシテ之ヲ支出スルモノアリ。

四 決算及會計検査

毎會計年度ノ收支結了後ニ於テ政府ハ其ノ年度ノ收支ニ付キ決算ヲ調製スルコトヲ要ス。決算ハ總決算ト各特別會計決算トニ分タルコト豫算ニ於ケルト同ジ。總決算ハ歲入歲出共ニ總豫算ト同一ノ區分ニ依リ大藏大臣之ヲ調製ス。總決算ニハ歲入ノ部ニ於テハ歲入豫算額、調定濟歲入額、收入濟歲入額、不納缺損額、收支未濟歲入額ノ計算ヲ明記シ、歲出ノ部ニ於テハ歲出豫算額、豫算決定後増加

歳出額、支出済歳出額、翌年度繰越額、不用額ノ計算ヲ明記スルコトヲ要ス。總決算ハ歳入決算明細書、各省決算報告書及國債計算書ヲ添ヘテ大藏大臣ヨリ之ヲ會計検査院ニ送付ス。總決算送付ノ時期ニ付テハ明文ノ規定ナシト雖モ各省大臣ヨリ各省決算報告書ヲ大藏大臣ニ送付スルハ翌年七月三十一日迄トセラレ、而シテ會計検査院ノ検査ヲ經テ議會ニ提出スルハ翌年度ノ通常會ニ於テスベキモノトセラルルヲ以テ、遅クモ九月頃迄ニハ大藏大臣ヨリ會計検査院ニ送付スベキモノト認ムベシ。各特別會計ノ決算ニ付テハ各特別會計法ニ於テ同様ノ規定アリ、各主務大臣之ヲ調製シテ會計検査院ニ送付スベキモノトス。

主トシテ決算審査ノ任ニ當ル者ハ會計検査院ナリ(検査院ノ組織ニ付テハ憲法提要六二五頁)。會計検査院ノ權限ハ主トシテ左ノ三ナリ(二二法律一五會計検査院法三三勅令四五七同事務章程)。

(一) 決算検査ノ權 會計検査院ノ検査ハ殆ド國ノ會計ノ全般ニ互リテ及バザルナシ。検査院法(一三)ニ依レバ、其ノ検査ヲ要スルモノハ、(イ)總決算、(ロ)各官廳及官立諸造營ノ收支及官有物ニ關ル決算、(ハ)政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸造營ノ收支ニ關ル決算、(ニ)法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算ノ四種トス。國ノ會計ニ關シテ特ニ検査院ノ検査範圍外ニ置カルルモノハ機密費ナリ。政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラズ(検査院法二三條)。

會計検査ノ内容ハ、計算正シキヤ否ヤ、法令ニ適合スルヤ否ヤ(實例ニ於テハ政策上適當ナリヤ否ヤヲモ含ムモノト解セラル)、豫算ニ遵由セルヤ否ヤノ三點ニ及ブモノニシテ、法律ハ検査確定ト共ニ、(イ)總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ、(ロ)歳入ノ賦課徴收、歳出ノ使用、官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ、(ハ)豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケザルモノナキヤ否ヤニ付キ報告書ヲ作成スベキコトヲ命ゼリ(院法一四條)。

検査ノ方法ニハ書面検査、實地検査、委託検査ノ別アリ。(イ)書面検査ハ其ノ最モ通常ノ方法ニシテ、其ノ書面ハ或ハ法律上當然ニ提出ノ義務ヲ認メラルルモノアリ、或ハ検査院ヨリ其ノ提出ヲ命ズルモノアリ。會計法及會計規則ニ依レバ大藏大臣、各省大臣、歳入事務管理廳、支出官ハ検査院ノ定ムル様式ニ依リ各種ノ計算書及決算證明書ヲ調製シテ之ヲ検査院ニ送付スルコトヲ要シ、而シテ検査院法(一九條一)ニ依レバ、検査院ハ期限ヲ定メテ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及ビ主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得。(ロ)實地検査ハ主任官吏ヲ派遣シ實地ニ付キ検査ヲ爲サシムルモノニシテ、書面検査ノ補充トシテ必要ノ場合ニ之ヲ行フ(二九條)。(ハ)委託検査ハ各官廳中一部ニ屬スル計算、政府ヨリ補助又ハ保證ヲ受クル團體又ハ事業ノ決算、委任經理ニ屬スル決算ノ検査ニ付キ其ノ監督者タル官廳ニ委託シテ検査ヲ行ハシムルヲ謂フ(一六條、大學特別會計法一一條)。(其ノ他委任經理ニ關スル規定)。

決算検査ノ結果ハ検査院ノ總會議ニ於テ検査報告書ヲ確定シ、一面ニハ之ヲ政府ニ送付シ政府ヨリ
總決算ニ添ヘテ之ヲ帝國議會ニ提出シ一面ニハ検査院ヨリ直接ニ其ノ成績ヲ天皇ニ上奏ス。

(二) 上奏權及政府ニ交渉スルノ權 検査院ニ於テ會計検査ノ結果會計上ノ非違ヲ發見シタリトス
ルモ、検査院ハ直接ニ政府ヲ彈劾シ其ノ他強制力ヲ以テ其ノ非違ヲ矯正スルノ權ヲ有セズ、唯其ノ檢
査報告ガ議會ニ於ケル決算審査ノ資料トセラルルノ外、検査院ハ天皇ニ上奏シ及政府ニ對シテ交渉ヲ
爲スノ權ヲ與ヘラル。

検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスベキ事
項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得(院法一、五條)。

政府ニ對スル交渉ハ三點ニ於テ認メラル。(イ)各省ニ於テ收入支出又ハ國庫金ノ出納及簿記ニ關ス
ル一般命令ヲ發スル場合ニ於テハ其ノ發布前ニ其ノ通知ヲ受クルノ權アリ(一七條)。(ロ)國庫金ノ出納
及簿記上ニ關スル各省ノ命令ニ付其ノ發布前ニ通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルノ權アリ(七
條一)。(ハ)出納官吏計算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラザルトキハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒
處分ヲ要求スルノ權アリ(二二條)。

(三) 出納検査及判決ノ權 會計検査院ハ一面ニ於テ決算検査ノ權能ヲ有スルト共ニ、一面ニハ出
納検査ノ權能ヲ有ス。決算検査ハ收入支出ノ命令ヲ爲ス機關(各省大臣歳入事務管理廳、歳入徴收官、支出官)ニ對シテ其ノ検査

ヲ行フモノナルニ反シテ、出納検査ハ現金出納ノ任ニ當ル機關ニ對シテ其ノ出納ノ正否ヲ検査スルモ
ノナリ。現金出納ノ主タル機關ハ日本銀行ニシテ、日本銀行ハ其ノ取扱ヒタル國庫金及預金部預金ノ
出納、國債ノ發行ニ依ル收入金ノ收支、國債ノ元利拂又ハ隔地者ニ對スル支拂ニ充ツル爲ニ政府ヨリ
前渡ヲ受ケタル資金ノ收支、政府ヨリ取扱ヲ命ゼラレタル有價證券ノ受拂ニ付キ會計検査院ノ検査ヲ
受クルコトヲ要ス(會計法四一條)。日本銀行ハ其ノ検査ヲ受クル爲ニ國庫金ノ出納計算書及有價證券受拂計算
書ヲ調製シテ之ヲ大藏大臣ニ送付シ、大藏大臣ハ之ヲ調査シテ會計検査院ニ送付ス(會計規則一四、日
本銀行ノ外、現金ノ出納保管ヲ掌ル者ハ出納官吏(租稅其他ノ歳入金ノ收納ヲ掌ル官吏、資金ノ前渡ヲ
受ケタル官吏、歳入歳出外現金ノ出納ヲ掌ル官吏)ニシテ、
出納官吏ハ其ノ出納ノ計算ニ付キ検査院ノ検査ニ服ス。

出納検査ノ方法ハ決算検査ニ於ケルト同ジト雖モ、其ノ效果ニ於テハ重要ナル差異アリ。決算検査
ノ場合ニ於テハ検査院ハ非違アリト認ムルモ、唯検査報告書ニ其ノ旨ヲ記載スルニ止マリ自ラ其ノ責
任ヲ裁斷スルノ權ヲ有セザルニ反シテ、出納検査ノ場合ニ於テハ、検査院ハ單ニ其ノ正否ヲ檢スルノ
ミナラズ、自ラ日本銀行及出納官吏ノ責任ニ付キ判決ヲ爲スノ權ヲ有ス。若シ其ノ提出セル計算書及
證憑書類ヲ検査シ、正當ナリト判決シタルトキハ之ニ認可狀ヲ交付シ其ノ責任ヲ解除ス、若シ正當ナ
ラズト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム(検査院法二〇條)。

會計検査院ノ判決ハ裁判々決ノ如ク直接ノ執行力ヲ有スルモノニ非ズ。殊ニ日本銀行ガ國庫金ノ取

扱又ハ有價證券ノ受拂ニ關シ國家ニ損害ヲ與ヘタルニ因リ負フ所ノ賠償責任ハ民法及商法ニ依ルベキモノニシテ(會計規則一五一條)日本銀行ガ自ラ検査院ノ判決ニ服シ任意ニ其ノ賠償責任ヲ履行スル場合ノ外、國家ハ普通ノ民事訴訟ニ依リテノミ賠償ヲ請求スルコトヲ得ベシ。出納官吏ノ賠償責任ハ之ニ反シテ公法的性質ヲ有シ一般ニハ民事裁判所ノ管轄ニ屬セズ(上卷二五六頁)會計検査院ノ判決ガ確定ノ效力ヲ生ズト雖モ、此ノ場合ニ於テモ其ノ判決ガ直接ニ本人ニ對シテ執行力ヲ生ズルニ非ズ、判決ハ直接ニハ唯本屬長官ヲ拘束シ本屬長官ガ判決ノ内容ニ隨ヒ義務者ニ對シ其ノ履行ヲ命ズルニ依リ始メテ義務者ニ對スル效力ヲ生ズルナリ。検査院ノ判決ニ依ル賠償責任ハ天皇ノ恩赦ニ依ルノ外本屬長官之ヲ減免スルコトヲ得ズ(院法二一條)。検査院ノ判決ニ對シテハ再審ノ制アリ(同二四條)。

出納官吏ノ賠償責任ニ付テモ二ノ場合ニハ司法裁判所ノ裁判ニ屬スルコトアリ。一ハ會計検査院ノ判決ニ拘ラズ義務者ガ其ノ賠償義務ヲ履行セザルニ因リ國ノ代表者ガ民事訴訟ヲ以テ其ノ強制執行ヲ求ムル場合ナリ。出納官吏ノ身元保證金ノ制度ハ既ニ廢止セラレ、而シテ法律ハ其ノ賠償義務ニ付キ行政上ノ強制徴收ノ權利ヲ認メザルヲ以テ、義務者ガ其ノ義務ヲ履行セザルトキハ主務大臣ハ民事訴訟ニ依ルノ外其ノ履行ヲ強制スベキ手段ヲ有セズ。但シ此ノ場合ニ於テモ賠償義務ハ既ニ會計検査院ノ判決ニ依リ確定セルモノナルヲ以テ、司法裁判所ハ再ビ賠償義務ノ有無又ハ其ノ金額ニ付キ審理スルコトヲ得ズ、其ノ確定債務ヲ前提トシ其ノ強制執行ヲ爲スノ權アルノミ。一ハ出納官吏ノ行爲ガ刑

事犯罪トシテ刑事ノ訴追ヲ受ケタルニ因リ國ノ代表者ガ公訴附帶ノ私訴ヲ提起スル場合ナリ。此ノ場合ニ於テハ刑事裁判所ハ刑事裁判ニ附帶シテ其ノ賠償責任ニ付テモ之ヲ審理裁判スル權ヲ有シ、會計検査院ハ其ノ裁判ノ結果ニ依リ検査判決ヲ爲スベキモノトス(會計検査院事務章程二九條)。

五 國有財產

國有財產ニ關スル一般的ノ法規トシテハ國有財產法(大正一〇法律四三)及物品會計規則(二二勅令八四)ノ定アリ。國有財產法ハ國有ノ不動産及ビ勅令ヲ以テ指定セル國有ノ動産及權利(國有財產法施行令ハ一、船舶、浮標、浮橋、三、事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具、四、地上權地役權鑛業權砂鑛權、其ノ他之ニ準ズベキ權利、五、株式及出資ニ依ル權利ノ五種ヲ指定セリ)ニノミ適用セラル。其ノ他ノ動産ニ付テハ專ラ物品會計規則ニ從フ。

(一) 國有財產法 ハ國有財產ヲ四種ニ區別ス。(イ)公共用財產(國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ、ハ供スルモノト決定シタルモノ)、(ロ)公用財產(國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ)、(ハ)營林財產(國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ、ハ供スルモノト決定シタルモノ)、(ニ)雜種財產(前各號ニ屬セザルモノ)是ナリ。此等ノ公共用財產公用財產及營林財產ハ何レモ公産ニ屬シ、其ノ融通能力ヲ制限セラルルコト公物ニ付キ述ベタルガ如シ。法律ハ之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルヲ得ザルコト(但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケザル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラズ)ヲ明言セリ(四條)。私産ノ性質ヲ有スルモノハ專ラ雜種財產ナリ。

雜種財產ハ原則トシテ民法ノ支配ヲ受クルモノニシテ、民法ニ依リ之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定

スルコトヲ得。唯法律ハ其ノ(イ)無償讓渡(五)、(ロ)出資ノ目的ト爲スコト(六)、(ハ)交換(七條)、(ニ)貸付(一五條乃至二〇條貸付ハ雜種財產以外ノ國有財產ニモ適用アリ)、(ホ)賣却讓與又ハ貸付ノ豫約(二一條乃至二二條)ニ付キ特別ノ制限ヲ定ム。此等ノ制限ガ民法ノ特別法ナリヤ又ハ單ニ當局官吏ノ職務上ノ拘束ニ止マルヤハ法律ノ規定ニ依リテハ明白ナラズト雖モ、國有財產法ハ從來ノ官有財產管理規則、官有地取扱規則ガ勅令ニ過ギザリシニ反シ、法律ヲ以テ定メラレタルモノナルヲ以テ、事項ノ性質上官吏ノ職務上ノ義務ヲ定メタルモノト認ムベキモノノ外ハ、民法ノ特別法ヲ定メタルモノト見ルベク、若シ此等ノ規定ニ違反スルトキハ其ノ之ニ違反スル限度ニ於テ其ノ契約ハ法律上無効タルベキモノナリ。

國有地ノ境界査定又ハ測量ニ關シテハ、法律ハ其ノ土地ガ公物タルト私物タルト問ハズ、國家ノ爲ニ一般私有地ニハ認メラレザル特權ヲ認ム。其ノ特權ハ二アリ。(イ)一ハ境界査定權ナリ。國有地ノ境界分明ナラザルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ隣接地所有者ノ立會ヲ求メテ其ノ境界ヲ査定ス(若シ期日ニ於テ隣接地所有者立會ハザルトキハ其ノ立會ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得)。境界査定終リタルトキハ之ヲ隣接地所有者ニ通知ス。境界査定ニ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ起スコトヲ得。一般私有地ニ關スル境界ノ爭ハ專ラ司法裁判所ノ權限ニ屬スルニ反シテ、國有地ニ付テハ雜種財產ニ屬スルモノニ在リテモ、尙之ヲ行政事件ト爲シ、專ラ行政權ノ作用ニ依リ之ヲ決定シ得ベキモノト爲セルナリ(一〇條乃至一三條、施一四條乃至一五條)。(ロ)一ハ境界査定又ハ測量ノ爲ニ他人ノ土地ニ立入り

目標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除却シ得ベキ權利ナリ(一四條)。雜種財產ハ直接ニ公ノ目的ニ供セラルルモノニ非ズト雖モ、尙國有ニ屬スル結果トシテ必然ニ公益ノ目的ヲ有シ隨テ國有地ニ付テハ一般ニ此ノ公用負擔ノ特權ヲ認メラルルナリ。

國有財產ハ各省大臣之ヲ管理シ、而シテ大藏大臣ハ其ノ全體ニ付キ總轄ノ管理ヲ爲ス。公物ガ各其ノ用途ニ從ヒ主務大臣ノ管理ニ屬スルハ勿論、雜種財產ニ付テモ國有林野ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ其ノ他ノ國有地モ或ハ法令又ハ慣習ニ依リ或ハ大藏大臣トノ協定ニ依リ各省大臣ノ管理ニ屬スルモノアリ。唯雜種財產ハ原則トシテハ大藏大臣ノ管理ニ屬スベキモノニシテ、各省大臣公共用財產又ハ公用財產ノ用途ヲ廢止スルトキハ特ニ大藏大臣ト協定シタルモノヲ除クノ外遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ引繼グベキモノトス(施二條)。

國有財產ハ其ノ所管ノ各省ニ於テ其ノ種類ニ從ヒ臺帳ヲ備ヘテ之ヲ記録ス(二五條、施三〇條、施三三條)。各省大臣ハ又毎會計年度間ニ於ケル國有財產増減報告書ヲ調製シテ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付シ、大藏大臣ハ之ニ基キ國有財產増減總計算書ヲ調製シ、之ヲ會計検査院ニ送付スルノ義務アリ。此ノ外各省大臣ハ每五年三月三十一日ノ現在ニ於ケル國有財產現在額報告書ヲ調製シテ九月三十日迄ニ大藏大臣ニ送付シ、大藏大臣ハ之ニ基キ國有財產現在額總計算書ヲ調製シテ會計検査院ニ送付スルヲ要ス。會計検査院ハ此等ヲ検査シ其ノ検査報告ト共ニ政府ハ之ヲ帝國議會ニ提出ス(二六條、施三五條、施三七條)。

(二) 物品會計 國有財産法ニ所謂國有財産ハ主トシテ不動産ヲ意味スルモノニシテ普通ノ動産ニハ適用ナク、諸官廳ニ屬スル器具、器械、備品、消耗品其ノ他ノ動産ニ付テハ專ラ物品會計規則ニ依ル。物品會計規則ニ定ムル所ハ總テ物品ノ出納保管ニ關スル行政機關ノ職務上ノ拘束ニ關スルモノニシテ民法ノ特別法ヲ定ムルノ趣意ニ非ズ、會計規則ノ違反ハ官吏ノ責任ヲ生ズルノ原因タルニ止マリ法律行為ノ效力ニ直接ノ影響ヲ有セズ。陸海軍ノ兵備品ニ關シテハ別ニ陸軍兵備品會計規則(二四勅)海軍兵備品會計規則(二三勅)ノ規定アリ、各其ノ規定ニ從フ。

物品會計ニ付テモ其ノ購入、賣拂等物品ノ出納ヲ命令スル機關ト其ノ命令ヲ執行シテ物品ノ出納ヲ掌ル機關トハ相分離セラル。物品ヲ保管シ其ノ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏ト謂フ。物品會計官吏ハ各省大臣ノ定ムル規程ニ依ル命令アルニ非ザレバ物品ヲ出納スルコトヲ得ズ。物品會計官吏ハ其ノ保管ニ係ル物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ、會計検査院ノ検査判決ヲ受クルノ義務アリ、其ノ判決ニ依リ責任ヲ解除セラルルニ非ザレバ其ノ亡失毀損ニ付キ辨償ノ責ヲ免ルルヲ得ザルコトハ出納官吏ニ於ケルト同ジ。

(三) 國有財産特別法 國有財産ニ關スル特別法トシテハ國有林野法(三二法)及北海道國有未開地處分法(四一法)ノ定アリ。

國有林野ニハ營林財産トシテ定メラレタルモノト然ラザルモノトノ別アリ。前者ハ公産トシテ不融

通性ヲ有ス。後者ハ雜種財産ニ屬シ、賣拂、賣拂ノ豫約、貸付、交換、讓與等法律行為ノ目的物ト爲ルコトヲ得ベク、此等ノ法律行為ニ付テハ國有財産法ニ從フノ外尙國有林野法ノ制限ニ服スルナリ。國有林野ニ特別ナル法律關係トシテハ、社寺保管林(法一七條、施一五條乃至)、委託林野(法一八條、施二六條乃至)部分林(法一九條乃至二三條、施三一條)官有民木林(舊來ノ慣習ニ依リ)ノ制アリ。國有林野法ハ北海道ニハ之ヲ施行セズ。

北海道國有未開地ニ付テハ其ノ開墾ヲ獎勵スルノ必要ニ因リ、國有財産法及國有林野法ノ例ニ依ラズ、貸付及賣拂ニ付キ特別ヲ認め、一般ニ競争契約ノ例ニ依ラズ又無償貸付又ハ事業ノ成效ヲ條件トスル無償讓渡等ノ場合ヲ認ム。

六 契約及時效

(一) 契約ノ法律上ノ制限 政府ニ於テ賣買、貸借、請負其ノ他財産上ノ契約ヲ爲ス場合ニ於テハ、國債ノ募集ノ如キ特別ノ法律ノ定アルモノノ外、一般ニ會計法及會計規則ノ定ムル制限ニ服ス。此等ノ制限ハ官吏ノ私曲ヲ防ギ會計上ノ非違ヲ除クノ趣意ニ出ヅルモノニシテ、官吏ノ職務上ノ義務ヲ命ズルモノタルニ止マリ、民法ノ特別法ヲ定ムルノ趣意ニ非ズ、若シ其ノ制限ニ違反スルトキハ官吏ノ職務違反ニシテ官吏ハ其ノ責ニ任ズルヲ要スト雖モ、契約ノ效力ハ之ガ爲ニ妨ゲラルルコトナシ。

會計法(三一條會計規則八)ニ依レバ政府ノ爲ス所ノ財産上ノ契約ハ一般競争契約ニ依ルコトヲ原則トシ

例外トシテ指名競争契約又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得シム。(イ)一般競争契約トハ契約ヲ爲サントスルニ當リ豫メ其ノ旨ヲ公告シ一定ノ資格アル者ハ何人ニテモ其ノ申込ヲ爲スコトヲ得シメ、其ノ中最モ政府ニ有利ナル申込ヲ爲シタル者ト契約ヲ締結スル方法ニシテ、動産ノ賣拂ニ付糶賣ニ付スルコトアルノ外、總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ。入札ニ加ハラントスル者ニハ保證金ヲ納付セシメ、落札者ニシテ若シ契約ヲ結バザルトキハ保證金ハ政府ノ所得トス。(ロ)指名競争契約ハ政府ガ若干ノ入札者ヲ指定シテ之ニ入札ヲ爲サシムル方法ニシテ、保證金納付ノ義務ニ付テハ一般競争ノ場合ニ同ジ。(ハ)隨意契約ハ競争ノ方法ニ依ラズシテ契約ヲ爲ス方法ヲ謂フ。

政府ノ爲ス所ノ契約ニハ契約書ヲ作成シテ當該官吏之ニ記名捺印スベキヲ原則トス(規則八五(條八六條))。但シ是モ唯命令規定タルニ止マリ、其ノ形式ヲ以テ契約ノ有效要件ト爲スノ趣意ニ非ズ。契約ノ相手方ハ各省大臣ガ特ニ其ノ義務ヲ免除スル場合ノ外保證金納付ノ義務アリ、契約者其ノ義務ヲ履行セザルトキハ保證金ハ政府ノ所得トス。

(二) 會計法上ノ時効 國家ト人民トノ間ニ生ズル金錢債權ノ消滅時効ニ關シテハ、會計法ハ國家ヨリ私人ニ對シテ有スル權利ト私人ヨリ國家ニ對シテ有スル權利トノ兩者ニ通ジテ原則トシテ五年間其ノ權利ヲ行ハザルニ因リ消滅スベキモノト爲シ、若シ時効ニ關シ他ノ法律ニ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フベキモノト爲セリ(三二)。舊會計法(一八條)ニモ略之ト同様ノ規定アリシモ、舊法ノ下ニ於テ

ハ其ノ規定ガ公法上ノ債權ニノミ適用スルノ趣意ナリヤ又ハ私法上ノ債權ニモ適用スルノ趣意ナリヤ疑ハシク、寧ロ兩者ニ通ジテ共ニ之ヲ適用スルノ趣意ナリト解セラルベキ傾アリシガ、新法ニハ其ノ規定ヲ改メテ、他ノ法律ニ規定ナキ場合ニ限り五年ノ時効ヲ適用スベキコトヲ明言シ、以テ民法ニ規定アルモノニ付テハ民法ノ時効ニ依ルベキモノナルコトヲ明ニシタリ。故ニ例ヘバ工事ニ關スル請負人ノ債權(七一)不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權(二四)ノ如キハ、國家ガ當事者タル場合ト雖モ、尙民法ノ規定ニ依ルベキモノナリ。私法的性質ヲ有スル債權ニ付テモ、若シ法律ニ依リ時効ニ關シ特別ノ定ヲ爲セルトキハ、民法ニ依ラズ其ノ特別規定ニ依ルベキコトハ勿論ニシテ、例ヘバ國債ノ消滅時効ハ元金ハ十年利子ハ五年ト定メラレタルガ如シ(國債ニ關スル法律九條)。會計法ノ定ムル消滅時効ハ唯公法上ノ債權ニシテ且ツ他ノ法律ニ時効ノ定ナキモノニノミ適用セラル。其ノ特別ノ定アルモノハ例ヘバ關稅ノ徵收權ハ二年ヲ以テ時効ニ罹ルモノト爲セルガ如シ(關稅法七條)乃至九條)。

消滅時効ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ別段ノ法律ノ定アル場合ノ外民法ノ規定ニ依ル(會計法三)。蓋シ公法上ノ時効ニ關シテモ此等ノ點ニ付テハ民法上ノ時効ト區別スベキ理由ナキヲ以テナリ。但シ政府ガ法令ニ依リ爲ス所ノ納入告知ハ其ノ性質ニ於テハ催告ニ相當スト雖モ、民法上ノ催告ト異ナリ、民法(三五)ノ規定ニ拘ラズ、無條件ニ時効中斷ノ效力ヲ生ズ(會計法三四條)。其ノ他(一)請求(二)差押、假差押又ハ假處分(三)承認ガ時効中斷ノ原因タルコトハ民法上ノ時効ニ同ジ。

第三節 國ノ租稅

一 租稅ノ性質

租稅トハ國家又ハ地方團體ガ收入ノ目的ヲ以テ其ノ統治權ニ基キ報償トシテニ非ズシテ一般人民ヨリ均等ニ徵收スル金錢又ハ金錢的價格ニ於テノ給付ヲ謂フ。

(一) 租稅ハ金錢又ハ金錢的價格ニ於テノ給付ナリ。近代ノ貨幣經濟ノ社會ニ於テハ租稅ハ常ニ金錢ノ給付義務ノ形態ヲ爲スト雖モ、金錢債務タルコトハ必ズシモ租稅ノ觀念上ノ要素ニ非ズ。我ガ實際ノ制度ニ於テモ、最近ニ至ル迄小笠原島及伊豆七島ニ於テハ租稅ノ物品納ヲ認容スル慣習アリタリ(三五法律二三伊豆七島國稅徵收ニ關スル法律、二二勅令一四一小笠原島國稅徵收ノ件)。物品ヲ以テ給付セシムル場合ト雖モ、物品其ノ物ヲ要求スルニ非ズシテ其ノ金錢的價格ニ於テ國ノ收入トシテ一般費用ニ充ツル爲ニ徵收スルモノハ尙租稅タルコトヲ妨グズ。唯我ガ現時ノ國法ニ於テハ總テノ租稅ハ皆金錢ヲ以テ課徵セララルモノナルヲ以テ、此ノ現在ノ狀態ニ付テ言ヘバ租稅ハ公ノ課徵金ナリト謂フコトヲ得。

(二) 租稅ハ收入ノ目的ヲ以テスルモノナリ。此ノ點ニ於テ、租稅ハ罰金、料料、過料、過怠金、違約金等制裁ヲ目的トスル公ノ課徵金ト區別セラル、此等ハ唯結果トシテ國庫ノ收入ヲ生ズルニ止マ

リ、收入ヲ目的トシテ之ヲ課スルニ非ズ。

租稅ガ收入ヲ目的トスト謂フハ必ズシモ租稅ガ政策上ノ見地ニ於テ收入ノミヲ唯一ノ目的ト爲ストスルノ意ニ非ズ。時トシテハ收入ヲ得ルト同時ニ國內ノ產業ヲ保護シ又ハ社會政策ノ目的ヲ達スルコトモ租稅政策ノ重要ナル一部ヲ爲スコトアリ(例、保護關稅、累進所得稅、相續稅、增價稅)ト雖モ、此等ハ唯立法ノ背後ニ匿レタル政策ノ問題タルニ止マリ、法律ノ表面ニ見ハルル目的ニ非ズ。租稅ニ關スル立法ノ動機ガ何レニ在リトスルモ、其ノ直接ノ目的トスル所ハ常ニ收入ニ在リ、而シテ法律上ノ見地ニ於テハ唯其ノ直接ノ目的ノミガ行爲ノ性質ヲ定ムルノ標準トナルベキモノナリ。例ヘバ所謂保護關稅ハ國內ノ產業ヲ保護スルガ爲ニ設ケラルト雖モ、是レ唯其ノ經濟的ノ性質タルニ止マリ、其ノ法律上ノ性質ニ於テハ專ラ國ノ收入トシテ其ノ一般經費ニ充テラルルモノニシテ、所謂收入關稅ト毫モ其ノ法律上ノ性質ヲ異ニスルコトナシ。

(三) 租稅ハ報償ノ性質ヲ有スルコトナシ。此ノ點ニ於テ租稅ハ手数料、特權料ノ如キ特定ノ役務又ハ利益ニ對スル報償タル性質ヲ有スルモノト區別セラル。手数料又ハ特權料ハ常ニ特定ノ役務又ハ利益ヲ前提トシ、之ガ反對給付トシテ徵收セララルモノニシテ、隨テ其ノ金額モ亦義務者ノ資力ニ應ジテ等差ヲ附スルコトナク、專ラ其ノ役務ニ要スル費用又ハ義務者ノ受クル所ノ利益ヲ標準トシテ之ヲ定ムベキモノナルニ反シテ、租稅ハ何等ノ反對給付ナク單純ニ收入ヲ得ルガ爲ニ徵收スルモノニシ

テ、其ノ稅率ハ義務者ノ擔稅力ヲ標準トシテ定メラル。例ヘバ登録稅ハ登録手数料ニ非ズ、單ニ登錄ニ對スル報償トシテ課徵セラルルニ非ズシテ、法律ハ登録ノ事項ニ依リ義務者ノ擔稅力ヲ推定シ之ヲ以テ課稅物件ト爲セルモノニ外ナラズ。法律ガ登録事項ノ種類ニ應ジ課徵ノ率ヲ異ニセルコトハ其ノ手数料ニ非ズシテ租稅ナルコトヲ證明スルモノナリ。狩獵免許稅モ亦其ノ金額ガ免許ノ反對給付タル程度ヨリモ遙ニ多額ナルコト及ビ其ノ課徵ノ率ガ義務者ノ資力ニ應ジテ差等ヲ附セラルルコト(狩獵法八條)ニ依リ、其ノ手数料ニ非ズシテ租稅ナルコト明白ナリ。手数料又ハ特權料ヲ課スルハ其ノ對價タル行政作用ノ種類ニ應ジ各種ノ行政權(例、警察許可ノ手数料ヲ課スルハ警察權ノ作用ニシテ官吏任用試驗ノ受驗料ヲ課スルハ任官大權ニ其ノ根據ヲ有ス)ニ基ク作用ナルニ反シテ、租稅ヲ課スルハ常ニ財政權ノ作用ナリ。

(四) 租稅ハ一般人民ニ對シ均等ニ課スル所ノ權力的課徵金ナリ。(イ) 租稅ハ權力的ノ課徵ナルコトニ於テ事業收入、財産收入其ノ他總テ相手方ノ承諾ヲ根據トスルモノト區別セラル。其ノ權力ハ國家ノ一般統治權ニ基クモノニシテ、之ヲ課稅權又ハ財政權ト謂フ。(ロ) 租稅ハ一般人民ニ對シ均等ニ課セラルルモノナルコトニ於テ負擔金ト性質ヲ異ニス。負擔金ハ收入ノ爲ニスル財産負擔タルコトニ於テハ租稅ト性質ヲ同ジクスト雖モ、唯特定ノ事業ノ目的ノ爲ニ其ノ事業ニ特別ノ關係アル者ニ對シテ課徵スルモノニシテ、租稅ノ如ク一般人民ニ對シテ一率ニ之ヲ課スルモノニ非ズ。租稅ニ付テモ法律ハ時トシテ其ノ費途ヲ制限シ、特種ノ租稅ニ依ル收入ハ之ヲ特定ノ目的ノ爲ニノミ支出シ得ルコト

ヲ定ムルコトアリ(之ヲ「目的稅」ト謂フコトヲ得。例、都市計畫法八條ニハ都市計畫事業ノ費用ニ充ツル爲ニ公共團體ハ法律ノ定ムル或ル種ノ特別稅ヲ賦課シ得ベキコトヲ定ム)ト雖モ、或ル事業ニ特別ノ關係アル者ニ對シテノミ賦課スルニ非ズシテ一般人民ニ對シテ均等ニ賦課スル公ノ課徵金ハ其ノ費途ニ法律上ノ制限アリトスルモ、之ガ爲ニ其ノ法律上ノ性質ニ影響ヲ及ボスコトナク、等シク租稅タルコトヲ失ハズ。(ハ) 一般人民トハ統治權ニ服從スルノ地位ニ在ル總テノ者ヲ謂フ。唯租稅法ハ一般ニ屬地的效力ヲ有シ、内地ノ租稅法ハ内地ニノミ施行セラルルヲ以テ、日本臣民ト雖モ内地ニ居住シ、内地ニ於テ財産ヲ有シ、營業ヲ爲シ又ハ其ノ他課稅ノ目的物タル行爲ヲ爲ス者ノ外ハ内地ノ租稅法ニ依ル納稅義務ヲ負ハズ。而シテ内地ニ於テ此等ノ事項ニ該當スル者ハ臣民タルト外國人タルト又自然人タルト法人タルトヲ問ハズ原則トシテ均ク納稅義務ヲ負フナリ。憲法(二二條)ニハ「日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス」ト曰フト雖モ、是レ敢テ外國人ノ納稅義務ヲ否定スルノ趣意ニ非ズ、外國人モ内地ニ居住シ、財産ヲ所有シ、營業ヲ爲シ、課稅ノ目的タル行爲ヲ爲ス者ハ治外法權ノ特權ヲ有スル者ヲ除クノ外、日本人ト等シク納稅義務ヲ負フ者ナリ。

(五) 租稅ヲ課徵スルノ權ハ國家及ビ國家ヨリ授權セラレタル限度ニ於テ地方團體ニ屬ス。地方團體ノ租稅ニ付テハ後節ニ別ニ之ヲ論ズ。

二 租稅ノ種類

(一) 租稅ハ之ヲ直接稅及間接稅ニ區別ス。此ノ區別ハ本來財政學ニ出ヅ。然レドモ財政學上ノ見

地ニ於テモ其ノ區別ノ標準ニ關シ學說一ナラズ。(イ)直接税ハ法律上ノ納税義務者ト租税ノ實際ノ負擔者トガ相一致スルコトヲ立法ノ主義ト爲スモノヲ謂ヒ、間接税ハ租税ノ實際ノ負擔ヲ法律上ノ納税義務者ヨリ他ノ者ニ轉嫁セシムルコトヲ立法ノ主義ト爲スモノヲ謂フトスルノ說アリ。(ロ)直接税ハ財産及收益ニ對スル税ニシテ間接税ハ行爲ニ對スル税ナリトスルノ說アリ。(ハ)直接税ハ義務者ノ負擔力ヲ直接ニ表現スルモノヲ課税物件ト爲スモノニシテ間接税ハ其ノ負擔力ヲ間接ニ表現スルモノ即チ義務者ノ支出ニ依リ間接ニ負擔力アリト推測シテ之ニ課税スルモノナリトスルノ說アリ。(ニ)最後ニ直接税ハ繼續的ノ效力ヲ有スル租税臺帳ニ依リ繼續的ノ目的物ニ對シテ課税スルモノニシテ、間接税ハ隨時發生スル事項ニ對シテ課税スルモノナリトスルノ說アリ。此等ハ何レモ兩者ノ主要ナル特色ヲ示スモノナリト雖モ之ヲ以テ法律上ノ區別ノ標準ト爲シ難シ。法律上ノ見地ニ於テハ法律ハ直接税タルト否トニ因リ法律上ノ效果ヲ異ニスル各場合ニ於テ常ニ自ラ何ガ直接税ナルカヲ指定セルヲ以テ其ノ指定セラレタル種類ノ租税ノミガ法律上ノ意義ニ於テノ直接税ニシテ、其ノ他ハ總テ間接税ナリトスルノ外ナク、其ノ實質上ノ區別ノ標準ヲ定ムルノ必要ナシ(法律ガ直接税トシテ指定セルモノハ普通ニハ地租、所得税、資本利子税、營業收益税、礦業税、砂鑛區税、取引、所營業税ナリ)。

(一) 租税ハ其ノ課税物件ニ依リ、收益税、財産税、取引税、消費税ノ四種ニ大別スルコトヲ得。

(イ) 收益税ハ直接ニ收入ヲ以テ課税物件ト爲スモノニシテ、更ニ之ヲ一般所得税ト特別收益税トニ分

ツコトヲ得。我が現時ノ國税ニ於テハ第一種及第三種ノ所得税ハ前者ニ屬シ、第二種ノ所得税、資本利子税、營業收益税、取引所營業税、鑛産税ハ後者ニ屬ス。(ロ) 財産税ハ財産ニ課税スルモノニシテ、或ハ財産所有ノ事實ニ對シ(狹義ノ財産税)、或ハ財産ノ取得ニ對シ(相續税)、或ハ財産ノ價格ノ増加ニ對シ(土地増價)課税ス。我が國税中之ニ屬スルモノハ地租、鑛區税、砂鑛區税及相續税ナリ。(ハ) 取引税ハ賣買、貸借、交換、手形ノ發行其ノ他總テ經濟的性質ヲ有スル法律上ノ取引行爲ニ課税スルモノニシテ、此等ノ行爲ヲ以テ間接ニ行爲者ノ負擔力ヲ推知シ得ベキモノト爲シ、之ヲ課税物件ト爲スナリ。我が國税中登録税、取引税法ニ依ル取引税、印紙税ハ之ニ屬ス。(ニ) 消費税ハ消費ニ依リテ間接ニ負擔力ヲ推測シ、消費者ヲシテ負擔セシメントスル租税ヲ謂フ。内國消費税ト關稅トニ分ツコトヲ得。我が國税中内國消費税ニ屬スルモノハ酒造税、酒精及酒精含有飲料税、麥酒税、清涼飲料税、砂糖消費税、織物消費税、骨牌税、狩獵免許税、噸税、沖繩縣酒類出港税ナリ。此等ノ租税中ニハ法律上ハ物ノ製造、販賣、輸入又ハ引取等ヲ以テ課税物件ト爲シ、隨テ製造人、販賣人、引取人等ヲ法律上ノ納税義務者ト爲スモノアリト雖モ、法律ハ常ニ其ノ實際ノ負擔ヲ消費者ニ歸セシムルコトヲ期待スルモノナルヲ以テ消費税ノ稱アルナリ。

(三) 租税ハ又其ノ課税物件ニ依リ他ノ觀察點ヨリ物税、人税、行爲税ノ三種ニ區別セラル。(イ) 物税ハ物ノ所有、取得、製造、販賣、輸入又ハ物ヨリ生ズル收益ニ課税スルモノヲ謂フ。物ノ價格又

ハ數量ヲ課税ノ標準ト爲スコトニ其ノ特色ヲ有ス。(ロ)人税ハ人ノ生存、居住、勤勞所得又ハ其ノ他物ニ基カザル所得ニ課税スルモノヲ謂フ。(ハ)行爲税ハ直接ニ物ヲ目的ト爲サザル法律的又ハ經濟的行爲ニ課税スルモノヲ謂フ。物税、人税、行爲税ノ區別ハ法律上ニモ其ノ課税權ノ所在ヲ明ニシテ重複課税ヲ避クル上ニ重要ノ關係ヲ有ス。凡テ物税ハ物ノ所在地ニ依リ、人税ハ住所ニ依リ、行爲税ハ行爲地ニ依リ課税スルヲ通則トス。尙此ノ點ニ付テハ後ニ述ブベシ。

(四) 租税ヲ其ノ納付ノ時期ニ依リテ分ツトキハ月税、年税及隨時税ニ分ツコトヲ得。月税ハ毎月定期ニ納付スルヲ要スルモノニシテ、例ヘバ取引所營業税、取引税、麥酒税ハ之ニ屬ス。年税ハ毎年度ニ於テ一年分ノ税金額ヲ決定シ、或ハ一時ニ或ハ二回以上ニ分チ納付セシムルモノニシテ、直接税ハ凡テ之ニ屬シ、間接税中ニハ酒造税ノ如キハ之ニ屬ス。隨時税ハ課税物件ノ發生スル毎ニ隨時徴收スルモノナリ。

(五) 租税ハ又國內ニ在ル課税物件ニ付キ課税スルモノタルト、外國ヨリ渡來シ又ハ外國ニ輸出スル課税物件ニ付キ課税スルモノタルトニ依リ、内國税ト關稅トニ區別セラル。内國税ハ内地ト各殖民地トニ依リ各法規ヲ異ニシ、系統ヲ異ニス。各殖民地ノ内國税ハ朝鮮ニ於テハ制令、臺灣ニ於テハ律令ヲ以テ定メラルルニ反シ、樺太ニ付テハ法律ニ依リ(明治四〇法律二一、樺太ニ)、關東州及南洋群島ニ付テハ勅令ニ依リ(明治四〇勅令五六關東州租稅其ノ他ノ公課徴收ノ件、大正一一勅令於ケル租稅ニ關スル法律三五六南洋群島ニ於テ徴收スル租稅其ノ他ノ公課ノ徴收ニ關スル件)其ノ基礎法ヲ定ム。蓋シ樺太廳、

關東廳、南洋廳ノ長官ニハ廣ク法律ニ代ハル命令ヲ發スルノ權ヲ委任セラレザルニ因ル。殖民地ニ於ケル租税ハ國稅タルコトニ於テハ内地ノ國稅ニ等シト雖モ其ノ收入ハ各殖民地ノ特別會計ニ歸屬ス。關稅ニ關シテハ内國稅ト異ナリ、内地ト殖民地(關東州ヲ除ク)トハ一般ニ單一關稅區域ヲ爲シ、相互ノ間ノ移出入ニ對シテハ關稅ヲ課スルコトナキヲ原則トス。唯酒類其ノ他特殊ノ物品ニ付キ出港稅ヲ課スルモノアリ。關東州ハ關稅ニ關シテハ外國ト看做サル。

三 租税ノ賦課

(一) 租税ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ要ス。是レ租税ヲ定ムルコトガ獨立命令權ノ範圍ニ屬セザルコトニ依リテモ既ニ明瞭ナルノミナラズ憲法ハ特ニ明文ヲ以テ其ノ必ズ法律ニ依ルベキコトヲ定メタリ(六二條一項)。憲法ガ法律ヲ以テ租税ヲ定ムベキコトヲ明言セルハ、一面ニハ其ノ定ガ議會ノ協賛ヲ經ルコトヲ要シ政府ノ專斷ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得ザルコトヲ示スト共ニ、一面ニハ毎年ノ豫算ニ依リテ變更セラレザル永久税ノ主義ヲ取ルコトヲ明ニセルモノナリ。

法律ニ依リ租税ヲ定ムルニハ(イ)課税物件(ロ)課税標準(ハ)稅率(ニ)納稅義務者ヲ定ムルコトヲ要ス。行政ノ他ノ區域ニ於テハ法律ヲ以テ規定スベキ事項ニ付テモ法律ハ或ハ之ヲ命令ニ委任スルコト少カラズト雖モ、租税ニ付テハ法律ハ此等ノ總テノ事項ニ關シテ自ラ之ヲ規定シ命令ニ委任スルコトナキヲ通常トス。

租税ガ常ニ法律ニ依リテ定メラルルノ原則ニ對シ、一ノ例外ヲ爲スモノハ關稅ナリ。關稅ニ付テハ二ノ點ニ於テ此ノ憲法上ノ原則ニ對スル例外ヲ認メラル。一ハ其ノ稅率ガ法律ヲ以テ定ムルモノノ外國條約ヲ以テ定メラルルモノアルコト是ナリ(關稅法一條「輸入貨物ニハ關稅定率法ニ依リ關稅ヲ課ス」)。殊ニ英國及佛國ニ對シテハ日英條約及日佛條約ニ依リ相互ノ間ニ特殊ノ生産品ニ付キ其ノ稅率ヲ協定セリ。法律ニ依リテ定メタルモノヲ國定稅率ト謂ヒ、條約ニ依リテ定メタルモノヲ協定稅率ト謂フ。後者ハ前者ニ勝ル效力ヲ有スルモノニシテ即チ國定稅率ハ協定稅率ノ定ナキモノニノミ適用セラルルナリ。一ハ法律ニ定メタル稅率ヲ特別ノ場合ニ於テ變更スルノ權ガ勅令ニ委任セララルコト是ナリ。關稅定率法ハ特惠關稅、報復關稅及凶作ノ場合ニ於ケル米ノ輸入稅ノ低減ノ三種ノ場合ニ付キ勅令ヲ以テ法律ノ定ムル關稅々率ヲ變更シ得ベキコトヲ認ム。(イ) 特惠關稅トハ特定ノ外國ヨリ輸入スル物品ニ對シ特ニ稅率ヲ輕減スルモノニシテ協定稅率ノ利益ヲ受ケザル地域ノ生産品ニ對シテハ勅令ヲ以テ地域及物品ヲ指定シ協定ノ限度ヲ超エザル限度ニ於テ其ノ利益ヲ與フルコトヲ得(三)。(ロ) 報復關稅ハ特定ノ外國ヨリ輸入スル物品ニ對シ日本ノ商品ニ不利益ヲ與フベキ外國ノ行爲ニ對抗スル爲ニ特ニ稅率ヲ高クスルモノニシテ、法律ハ三ノ場合ニ付キ勅令ニ其ノ權能ヲ委任セリ。日本ノ船舶又ハ生産品ニ對シ特ニ不利益ノ取扱ヲ爲ス國ノ生産品ニ對スル報復關稅(四)、外國ニ於テ輸出獎勵金ヲ受クル物品ニ對スル報復關稅(五)、外國ノ不當廉賣ニ對抗スルガ爲ノ報復關稅(五條)是ナリ。(ハ) 凶作ノ場合ニ於

テハ勅令ヲ以テ一定ノ限度ニ迄米及粳ノ輸入稅ヲ低減スルコトヲ得ルモノトセララル(六)。凡テ此等ノ場合ハ機ニ應ジテ敏速ニ適當ノ所置ヲ取ルヲ必要トスルヲ以テ特別ノ例外トシテ特ニ稅率ノ變更ヲ勅令ニ委任セルナリ。

(二) 租稅ハ法律ヲ以テ定メラルト雖モ、法律ガ租稅ヲ課スルニハ二種ノ方法ヲ區別スルコトヲ要ス。

(イ) 法律ニ依リ直接ニ納稅義務ヲ確定シ、行政行爲ヲ以テ之ヲ賦課スルヲ要セザル場合。此ノ場合ニ屬スルハ課稅物件及課稅標準ガ特別ノ認定ヲ要セズシテ法律ニ依リ外見上ニ明白ナル場合ナリ。第一種ノ所得稅、甲種資本利子稅、登録稅中其ノ課稅標準ニ付キ評價ヲ要セザルモノ、印紙稅、鑛區稅、砂鑛區稅、狩獵免許稅、骨牌稅、從量關稅等ハ之ニ屬ス。納稅義務ガ直接ニ法律ニ依リテ完全ニ成立シ、何等ノ行政行爲ヲ要セズ、法律ノ定ムル義務者ガ課稅原因ノ發生スル毎ニ、法定ノ租稅金額ヲ納付スルノ義務ヲ負フナリ。

(ロ) 納稅義務ノ成立ニ行政行爲ヲ要スル場合。法律ニ依リテハ未ダ執行力アル納稅義務ヲ生ゼズ、特別ノ行政行爲ヲ待チテ始メテ其ノ義務ヲ履行セシメ得ベキ場合是ナリ。其ノ行政行爲ニ二種アリ。一ハ課稅標準ヲ確認スル行爲ニシテ、一ハ一定ノ租稅金額ノ納付ヲ命ズル行爲ナリ。

(1) 課稅標準ヲ確認スル行爲ハ課稅物件ノ數量、價格、其ノ他凡テ租稅金額ヲ定ムベキ標準ガ外見

上明白ナラザル租税ニ付テハ常ニ必要ナリ。法律ハ概ネ納税義務者ヲシテ自ラ之ヲ申告スルノ義務ヲ負ハシムト雖モ、其ノ申告ニ依リテ課税標準ガ直ニ決定セラルルニ非ズ、收税官廳ニ於テ其ノ申告ノ正否ヲ審査シテ之ヲ決定シ、若シ義務者ガ其ノ申告ヲ爲サザル場合ニ於テハ官廳ノ側ニ於テ自ラ之ヲ評定ス。課税標準ノ確認ニハ或ハ人民ノ中ヨリ選舉シタル調査委員ヲ設ケテ其ノ審査ニ當ラシムルモノアリ。第三種ノ所得税、乙種資本利子税及個人ノ營業收益税ハ之ニ屬ス。何レモ所得調査委員會ノ調査ヲ經テ稅務署長其ノ課税標準ヲ決定スルヲ原則トス。或ハ特別ノ調査委員會ノ設ナク收税官廳ニ於テ之ヲ專決スルモノアリ。第一種ノ所得税、法人ノ營業收益税、相續税、酒造税、織物消費税、俸價關稅等之ニ屬ス。課税標準ノ決定ニ對シテハ再審査ヲ請求スルコトヲ得シメ、再審査ニ依ル決定ニ對シテハ更ニ訴願又ハ行政訴訟ヲ起スヲ得シムルヲ通常トス（但シ酒税ノ課税標準タル造石數ノ査定ハ現物ニ付キ之ヲ査定スルモノニシテ爭ノ餘地ナキガ故ニ不服ノ申立ナサズ）。

課税標準ノ決定ハ課税原因ガ臨時ニ發生スルモノ（例、相續税、關稅、織物税等）ニ在リテハ、各場合ニ付キ隨時之ヲ爲スコトヲ要ス。之ニ反シテ所得税、營業收益税ノ如キ課税物件ガ繼續的ノ存在ヲ有スルモノニ在リテハ其ノ決定ハ一定ノ期間其ノ效力ヲ繼續シ、其ノ期間内ハ課税物件ニ變動ヲ生ズルモ原則トシテ其ノ決定ヲ變更スルコトナク、決定セラレタル標準ニ依リ納税義務ヲ負フモノトセラル、其ノ效力ヲ繼續スル期間ハ所得税、乙種資本利子税及營業收益税ニ在リテハ一年ナリ。但シ其ノ期間内ニ於テモ

課税物件ニ特ニ大ナル變動ヲ生ズルトキハ其ノ決定ノ更訂ヲ請求スルコトヲ得シムルモノアリ（例、所得稅法六四條六五條、營業收益稅法一九條二〇條）。

課税標準ヲ確認スル行爲ハ各種ノ租税ニ付キ各別個ノ名稱ヲ附セラル。所得税ニ付テハ所得金額ノ決定、資本利子税ニ付テハ資本利子金額ノ決定、營業收益税ニ付テハ純益金額ノ決定、相續税ニ付テハ課税價格ノ決定、酒造税ニ付テハ造石數ノ査定等是ナリ。

課税標準ノ決定ニ付キ特殊ノ制ヲ爲スモノハ地租ナリ。地租ノ課税標準ハ最近迄ハ土地ノ價格（地價）ニ依ルモノトシ、其ノ價格ハ收税廳ニ於テ之ヲ評定シテ土地臺帳ニ登録シ、其ノ登録セラレタル價格ハ特別ノ事由ニ因リ修正ヲ要スル場合ノ外ハ原則トシテ永久の效力ヲ有セシメ、市價ノ變動ニ應ジテ定期ニ之ヲ改訂スルノ制ナク、即チ永久の土地臺帳ノ制ヲ取ルモノナリシガ、其ノ結果ハ土地臺帳ノ地價ト實際ノ土地ノ價格トノ間ニ甚シキ懸隔ヲ生ズルニ至リシヲ以テ、大正十五年新ニ土地貸賃價格調査法ヲ設ケテ地租ヲ課スベキ土地ノ貸賃價格ヲ調査セシメ、調査成ルノ後、昭和六年新ニ地租法（昭和六法律二八、昭和六勅令四七地租法施行規則）ヲ定メテ從來ノ地租條例ニ代ヘ、改メテ土地ノ貸賃價格ヲ以テ地租ノ課税標準ト爲シ、之ヲ土地臺帳ニ登録スルモノト爲セリ（此ノ改正ニ依リ地租ノ課税金額ガ從來ニ比シ一時ニ激増スルコトトル場合ニハ三倍八割ニ相當スル金額ヲ百分ノ三・八チ以テ除シタル金額ヲ貸賃價格トスルノ特例ヲ設ク）。從來ノ永久の土地臺帳ノ制ヲ改メテ、貸賃價格ハ十年毎ニ一般ニ之ヲ改訂スルモノトシ、第一回ノ改訂ハ昭和十三年ニ行フベキモノト爲セリ。其ノ他特別ノ事

由アル場合（之ヲ「土地ノ異動」ト謂フ。（イ）無租地有租地ノ轉換（ロ）分筆及合筆）ニハ隨時新ニ賃賃價格ヲ設定シ又ハ之ヲ修正ス。

（二）租税ノ給付ヲ命ズル行爲ハ納税告知書ノ形式ヲ以テ行ハルルヲ通常トス。納税告知書ハ納付スベキ租税金額、納付スベキ期日及場所ヲ指定シテ之ヲ義務者（又ハ納税ノ管理人）ノ住所又ハ居所ニ送達ス（國稅徵收法六條ノ四）。納税告知書ハ單純ナル通知行爲ニ非ズシテ、法律ニ基キ納税義務ヲ命ズル行爲ナリ。唯其ノ行爲ハ法律上ニ羈束セラレタル行爲ニシテ、收税廳ハ唯法律ノ規定ヲ執行スルニ止マリ、自由裁量ノ餘地ヲ有セズ、時トシテハ納税告知書ヲ發スルヲ要セズ、口頭ヲ以テ其ノ義務ヲ命ズルヲ得ベキコトヲ認メラルルモノアリ、例ヘバ關稅（關稅法施行規程）砂糖消費稅（施行規則）ノ如シ。

（三）課稅物件ノ定ニ關シテハ同一ノ課稅物件ニ對スル重複課稅ヲ避クルコトヲ要ス。重複課稅ハ或ハ國ト國トノ間ニ、或ハ内地ト殖民地トノ間ニ、或ハ地方團體相互ノ間ニ生ズルコトヲ得ベシ。實際ニ於ケル重複課稅ハ唯條約ニ依リテノミ之ヲ防グヲ得ベク、而シテ此ノ點ニ於テハ未ダ一般條約ノ存スルモノナク、唯各國ノ國法ニ依リ成ルベク之ヲ避クルコトヲ努ムルノミ。之ニ反シテ、内地ト殖民地トノ間及ビ地方團體相互ノ間ニ於テハ國法ニ依リ之ヲ避クルコトヲ得ベシ。地方團體ノ租稅ニ付テハ後ニ述ブル所ニ讓リ、國ノ租稅ニ付キ我が國法ノ採ル所ノ原則ヲ舉グレバ大體ニ於テ左ノ如シ。
（イ）物稅ハ物ノ所在地ニ依リ課稅權ヲ定ム。物稅ノ最モ純粹ナルモノハ財產稅ニシテ、地租ハ土地

ノ所在地ニ依リ、相續稅ハ相續財產ノ所在地ニ依リ（相續稅法一條「相續開始シタルトキハ開始地ガ帝國内ニ在ルト否トヲ問ハズ又ハ被相續人若ハ相續人ガ帝國臣民タルト否トヲ問ハズ本法施行地ニ在ル相續財產」）鑛區稅、砂鑛區稅ハ鑛區ノ所在地ニ依ル。收益稅ニ在リテモ其ノ收益ガ特定ノ有形的設備ニ基キテ生ズルモノニ在リテハ其ノ設備ノ所在地ニ依ル。例ヘバ特定ノ營業所ニ於ケル營業所得ニ對スル營業收益稅ハ營業所ノ所在地ニ依リ（營業收益稅法一條二條ハ「本法施行地ニ本店支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル個人」ニ同法ニ依リ營業收益稅ヲ課スベキモノト定ム）所得稅中特定ノ資產又ハ定地營業ヨリ生ズル所得ニ對スルモノハ其ノニ據ケル營業場ニ對シテ課稅ス（所得稅ハ原則トシテ唯所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上以上居所ヲ有スル者ニ對シテ課稅ス。所得稅法二條）消費稅ニ在リテモ物ノ製造、販賣、輸入、又ハ引取ニ對シテ課稅スルモノニ在リテハ、其ノ當時ニ於ケル物ノ所在地ニ依リ課稅ス。例ヘバ酒類ノ造石稅ノ如キ物ノ製造ニ課稅スルモノハ製造地ニ依リ、骨牌稅ノ如キ販賣ニ課稅スルモノハ販賣地ニ依リ、砂糖消費稅、織物消費稅ノ如キ物ノ引取ニ課稅スルモノハ引取地ニ依リ、關稅ハ輸入地ニ依リ、出港稅ハ出港地ニ依ルガ如シ。
（ロ）人稅ハ原則トシテ住所地ニ依リ課稅シ、唯或ル期間繼續シテ居所ヲ定ムル者ハ住所ナキ者ト雖モ居所ニ依リ課稅ス。人稅ノ最モ著シキモノハ所得稅ニシテ所得稅ハ法人所得ニ付テハ本店又ハ主タル事務所ノ所在地ニ依リ、個人所得ニ付テハ住所地ニ因リ、住所ナキ者ニシテ一年以上居所ヲ有スル者ハ居所地ニ依リ課稅ス（所得稅法一條「本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上以上居所ヲ有スル者」ハ居所地ニ依リ課稅ス。所得稅法二條）消費稅ニ在リテモ物ノ製造、販賣、輸入、又ハ引取ニ對シテ課稅スルモノニ在リテハ、其ノ當時ニ於ケル物ノ所在地ニ依リ課稅ス。例ヘバ酒類ノ造石稅ノ如キ物ノ製造ニ課稅スルモノハ製造地ニ依リ、骨牌稅ノ如キ販賣ニ課稅スルモノハ販賣地ニ依リ、砂糖消費稅、織物消費稅ノ如キ物ノ引取ニ課稅スルモノハ引取地ニ依リ、關稅ハ輸入地ニ依リ、出港稅ハ出港地ニ依ルガ如シ。
（ハ）行爲稅ハ行爲地ニ依リ課稅ス。例ヘバ第二種ノ所得稅、登錄稅、印紙稅、取引稅ノ如シ。

(四) 一般ニ課税ノ客體トセラルル物件中特殊ノ性質ヲ有スルモノニ付テハ法律ハ特ニ之ヲ課税セザルモノト定ムルモノアリ。之ヲ課税除外ト謂フ。課税除外ハ租税ノ免除ト異ナリ、租税ノ免除ハ法律ニ依リ納税義務ヲ負擔セル者ニ對シ其ノ義務ヲ免除スル行爲ナルニ反シテ、課税除外ハ法律ガ初ヨリ課税物件ノ例外トシテ規定シ隨テ全然納税義務ヲ發生セザルモノナリ。租税ノ免除ハ既ニ成立セル義務ヲ消滅セシムルモノニシテ、常ニ行政行爲ニ依リテ行ハレ其ノ利益ヲ受ケントスル者ハ收税應ニ之ヲ出願スルコトヲ要ス。若シ出願セザルトキハ免税ノ利益ヲ受クルコトナク、之ニ對スル課税ハ適法ナリ。課税除外ハ直接ニ法律ニ依リテ定マリ、法律上初ヨリ義務ヲ課セザルモノニシテ、若シ之ニ課税スルトキハ違法ノ課税ニシテ其ノ徵收シタル税金ハ之ヲ返還スルコトヲ要ス。

課税除外ハ各種ノ租税ニ付キ法律ノ定ムル所ニ依ル。其ノ之ヲ除外スル理由ハ一様ナラズト雖モ、殊ニ重要ナルモノニハ左ノ二ヲ舉グルコトヲ得。

(イ) 公企業又ハ公益事業ノ保護ノ爲ニスル課税除外 普通ニ之ヲ免租特權ト稱スト雖モ、其ノ實ハ租税ノ免除ニ非ズシテ初ヨリ課税除外ニ置カルルナリ。(例、地租法二條ニ依レバ公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供溜池、隄塘、井溝、鐵道用地、軌道用地、運河用地、保安林、道路ニハ地租ヲ課セズ。所得税法一七條ニ依レバ公法人及公益法人ニハ所得税ヲ課セズ。營業收益税法七條ニ依レバ政府ノ發行スル印刷紙手類ノ賣捌度量衡ノ製作修繕又ハ販賣新聞紙法ニ依ル出版等ノ營業ニハ營業收益税法ヲ課セズ。其ノ他尙此ノ種ノ例多シ。)

(ロ) 擔税力ノ薄弱ニ基ク課税除外 一般ニ課税物件トセラルルモノニ在リテモ擔税力薄弱ニシテ課

税スルニ適當ナラズトセラルルモノハ特ニ課税除外ニ置カルルモノアリ。(例、所得税法二〇條ニ依レバ所得金額千營業收益税法九條ニ依レバ個人ノ純益金額四百圓ニ滿タザルトキハ營業收益税法ヲ課セズ。相続税法六條ニ依レバ課税價格ガ家督相続ニ在リテハ五千圓遺産相続ニ在リテハ千圓ニ滿タザルトキハ相続税ヲ課セズ。)

四 租税ノ徵收

國ノ租税ノ賦課徵收ヲ主管スル機關ハ大藏大臣ヲ最高官應ト爲シ、其ノ下ニ關稅及噸稅ニ付テハ稅關及稅關支署ヲ置キ、內國稅ニ付テハ稅務監督局及稅務署ヲ置ク。直接ニ人民ニ接シテ租稅徵收ノ任ニ當ル者ハ稅關及稅務署ノ官吏ナリ。然レドモ總テノ租稅ニ付テ此等ノ官吏ガ直接ニ其ノ徵收ノ任ニ當ルニ非ズ。租稅ノ徵收ニハ其ノ機關ノ異ナルニ依リ六種ヲ分ツコトヲ得。

(一) 關稅及噸稅ハ稅關(又ハ稅關支署)ニ於テ之ヲ賦課徵收ス。或ハ稅關官吏ガ口頭ヲ以テ其ノ納付ヲ命ジテ直ニ之ヲ徵收シ、或ハ納稅告知書ヲ發シテ日本銀行(本店支店又ハ代理店)ニ納付セシム。關稅ヲ課スベキ郵便物ニ付テハ稅關ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ニ通知シ、郵便局ヨリ之ヲ名宛人ニ告知ス、名宛人郵便物ノ交付ヲ受ケントスルトキハ其ノ稅金額ヲ印紙ヲ以テ納付スルコトヲ要ス(關稅法四一條四二條。四三條施六條以下)。

(二) 地租及ビ勅令ヲ以テ指定セル國稅(第三種ノ所得稅、個人ノ營業ス(國稅徵收法五條。三〇勅令一九五))。市町村ニ於テ徵收スベキ國稅ハ稅務署長ヨリ書面ヲ以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知シ(之ヲ「納額通知書」ト謂フ)、其ノ通知ニ從ヒ市町村ハ義務者ニ對シテ納稅告知書ヲ發ス。但シ市町村ハ唯下命傳達ノ任ニ當ルニ止マリ、其ノ下命ハ市町村ノ行爲ニ非ズ、稅務署長ノ行爲ナリ。市町村ニ於テ徵收シタル

税金ハ其ノ徴收毎ニ三日以内ニ之ヲ日本銀行ニ送付スルコトヲ要ス。市町村ハ其ノ徴收及納付ニ付テノ責任ヲ負擔スルモノニシテ、若シ不可抗力ニ依リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ大藏大臣ニ申請シテ其ノ責任ノ免除ヲ受クルコトヲ要ス。市町村ニ於テ其ノ徴收ニ要スル費用ニ對シ國庫ハ毎年二期ニ分チ一定ノ金額ヲ市町村ニ交付ス(國稅徵收法五條二項、大正三。大令八市町村交付金交付規程)。

(三) 登録税、印紙税、骨牌税(免許料ヲ除ク)及ビ郵便物ノ關稅ハ印紙ヲ以テ納付セシム。登録申請書、證書、帳簿、骨牌ノ包裹、郵便局ノ通知書等法律ノ指定スル書類又ハ物品ニ相當スル收入印紙ヲ貼付スルコトニ依リ納稅義務ヲ履行セシムルナリ。印紙ヲ以テ納付セシムル租稅ニハ其ノ徴收方法ニ更ニ二種ノ別アリ。一ハ各場合ニ於ケル稅金額ガ直接ニ法律ニ依リ一定シ、義務者ハ何等ノ行政行為ヲ待タズシテ直ニ其ノ金額ニ相當スル印紙ヲ貼付スルモノ是ナリ。登録稅ノ一部、印紙稅、骨牌稅ハ之ニ屬ス。一ハ特別ノ行政行為ニ依リ課稅標準ヲ決定シ納付スベキ稅金額ヲ定メテ之ヲ義務者ニ告知スルヲ要スルモノ是ナリ。登録稅中課稅標準タル價格ノ認定ヲ要スルモノ及ビ郵便物ノ關稅ハ之ニ屬ス。登録稅ニ在リテハ其ノ權能ハ登記所ニ屬ス(登録稅法一九。條ノ二以下)、登記所ハ本來司法機關ナリト雖モ、此ノ點ニ於テハ收稅ニ關スル權能ガ特ニ之ニ委任セラルルナリ。郵便物ニ在リテハ稅關ノ通知ニ基キ郵便局ガ之ヲ義務者ニ通告ス、即チ郵便局ハ自ラ決定權ヲ有セズ、唯其ノ決定ヲ表示スルノ權ヲ委任セラルルナリ。印紙ヲ以テ納付スベキ租稅ニ付テモ場合ニ依リ現金ヲ以テ徴收スルコトヲ許サルモノ

アリ(登録稅法一七條但書同施行規則二條以下、領事官ノ取扱フ登記ノ登録稅ニ關スル勅令四條印紙稅法六條)。現金徴收ノ場合ニ於テハ稅務署長ヨリ納稅告知書ヲ發スルコトヲ要件トスルモノアリ。凡テ印紙ニ依リ徴收スル租稅ニ在リテハ印紙ノ貼用ガ納稅義務ヲ履行スル行為ナリ。

(四) 或ル種類ノ租稅ニ在リテハ特ニ其ノ徴收ヲ徴收ノ便宜ヲ有スル私人ニ委任スルモノアリ。第二種ノ所得稅、甲種ノ資本利子稅及取引稅ハ此ノ例ニ屬ス(舊制ニ於ケル通行稅モ亦同一ノ例ニ屬シタリ)。(イ) 第二種ノ所得稅ハ公債社債又ハ銀行預金ノ利子、貸付信託ノ利益等ニ賦課セラルルモノニシテ其ノ支拂ヲ爲ス銀行、會社等ニ於テ其ノ支拂ノ際之ヲ徴收シ之ヲ國庫ニ納付スル義務ヲ負フ(所得稅法三條。六七條二項)。(ロ) 甲種ノ資本利子稅モ亦公債社債產業債券若クハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益ニ賦課セラルルモノニシテ其ノ金額支拂ノ際支拂者之ヲ徴收スル義務アルコト第二種ノ所得稅ニ同ジ(資本利子稅法。二條一五條)。(ハ) 取引稅ハ取引所ノ取引員又ハ會員ニ課セラルルモノニシテ、取引所ハ稅務署長ノ交付シタル納稅告知書ニ從ヒ其ノ取引員又ハ會員ノ納付スベキ稅金ヲ取纏メテ之ヲ國庫ニ納付スル義務ヲ負フ(取引所稅法。一〇條二項)。凡テ此等ノ場合ニ於テハ法律上ノ納稅義務者ガ直接ニ國家ニ對シテ其ノ義務ヲ履行スルニ非ズ。國家ニ對シテ直接ノ法律關係ニ立ツ者ハ其ノ徴收ヲ委任セラレタル者ニシテ、徴收受任者(法律ハ之ヲ徴收義務者ト稱ス)ハ其ノ徴收及納付ニ關スル一切ノ責任ヲ負擔シ、若シ其ノ徴收ヲ怠リ、又ハ其ノ徴收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ、國家ハ徴收受任者ヨリ之ヲ徴收ス(所得稅法六八條資本利子稅。法一六條取引所稅法一二條)。納稅義務者ハ勿論國家ニ對シテ其

ノ義務ヲ負擔スルモノナレドモ、徵收受任者ニ之ヲ納付スルコトニ依リテ其ノ義務ガ履行セラルルナリ。徵收受任者ト納稅義務者トノ關係ハ私人相互ノ間ニ存スル公法的關係ニシテ、徵收受任者ハ國家公權ノ委任ニ基キ納稅義務者ニ對シテ公法上ノ權利ヲ有スルナリ。

(五) 以上ノ外、一般ノ國稅ニ付テハ稅務署ニ於テ其ノ賦課徵收ヲ掌ル。或ハ納稅告知書ヲ發シ、或ハ口頭ヲ以テ納稅ヲ告知シ、或ハ告知ヲ要セズシテ直接ニ之ヲ徵收ス。稅金ヲ領收スル機關ハ原則トシテ日本銀行ナリト雖モ、法律ハ場合ニ依リ收稅官吏ニ於テ自ラ之ヲ領收シ得ベキコトヲ認ムルモノアリ。口頭ヲ以テ納稅ヲ告知シ得ルハ唯收稅官吏自ラ之ヲ領收スル場合ニ限ル(國稅徵收法施行規則一條)。

(六) 國稅ノ義務者ガ稅法施行地外(殊ニ殖民地)ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ所在地ノ當該官吏ニ其ノ徵收ヲ囑託スルコトヲ得(四〇法律三四)。

五 租稅徵收ノ變態

凡テ租稅ハ其ノ法律上納期ノ定マレルモノニ付テハ其ノ納期ニ於テ、納期ノ定ナキモノニ付テハ課稅原因ノ發生スル毎ニ、之ヲ徵收スルヲ原則トス。然レドモ此ノ原則ニ對シテハ種々ノ例外アリ。或ハ未ダ納期ニ達セズシテ既ニ之ヲ徵收スルコトアリ、或ハ既ニ納期ニ達シテ之ヲ猶豫スルコトアリ、或ハ納稅義務ヲ一時不定ノ狀態ニ置クコトアリ、或ハ一たび之ヲ徵收シタル後特別ノ事由ニ因リ之ヲ返還スルコトアリ。此等租稅徵收ノ變態ニ付キ我ガ現行法ノ定ムル所ハ凡ソ左ノ如シ。

(一) 未ダ納期ニ達セザル租稅ノ徵收 租稅ガ未ダ法律上ノ納期ニ達セザル場合ニ於テモ、義務者ノ資産又ハ其ノ他ノ事情ガ若シ直ニ之ヲ徵收スルニ非ザレバ完全ニ收納スル能ハザルベキコトヲ豫想シ得ベキ場合ニ於テハ法律ハ納稅義務ノ既ニ確定セルモノニ付テハ直ニ之ヲ徵收シ得ベキコトヲ認ム。國稅徵收法ニ依レバ、(イ)國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ、(ロ)府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ、(ハ)強制執行ヲ受クルトキ、(ニ)破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ、(ホ)競賣ノ開始アリタルトキ、(ヘ)法人ガ解散ヲ爲シタルトキ、(ト)納稅人脫稅又ハ遁稅ヲ謀ルノ所爲アリタルトキノ各場合ニ於テ、總テノ國稅ニ付キ納期前ニ直ニ之ヲ徵收シ得ベキコトヲ認メ(國稅徵收法四條)、其ノ他特種ノ國稅ニ付テハ各特別ノ租稅法ニ於テ其ノ場合ヲ定ム(例、第三種所得稅ハ義務者ガ納稅管居所ヲ移ストキハ直ニ之ヲ徵收スルコトヲ得、所得稅法六七條三項但書)。

(二) 租稅ノ徵收猶豫 トハ納稅義務者ノ請求ニ基キ一定ノ期間義務履行ノ延期ヲ許容スルヲ謂フ。法律ノ定ムル納期ヲ變更シテ延納ヲ許可スルモノナルヲ以テ、唯法律ノ規定ニ基キテノミ之ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ナリ。或ハ義務者ノ負擔ヲ輕減スルノ目的ニ出ヅルモノアリ、此ノ場合ニ於テハ之ヲ許可スルニハ稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルヲ通常トス。例ヘバ相續稅ハ其ノ金額百圓以上ナルトキハ擔保ヲ提供セシメテ五年以内ノ年賦延納ヲ許可スルヲ得ベク(相續稅法一七條)、砂糖消費稅、織物消費稅ハ擔保ヲ提供セシメテ前者ハ六ヶ月、後者ハ三ヶ月以内其ノ徵收ヲ猶豫スルヲ得ルガ如シ(砂糖消費稅法)。

税法四條(雑物)。或ハ課税標準ニ變動アル場合ニ於テ其ノ調査中徴収ヲ猶豫スルモノナルコトアリ(例、災消費税法五條)。租免除法三條、所得税法七條。○修營業收益税法二三條等)。

(三) 租税ノ輕減及免除 法律ニ依リ納税義務ヲ負擔スル者ニ付テモ特別ノ理由アルトキハ法律ハ義務者ノ出願ニ依リ特ニ其ノ全部又ハ一部ヲ免除シ得ベキコトヲ認ムルコトアリ。其ノ義務ノ一部ヲ免除スルヲ減税ト謂ヒ、全部ヲ免除スルヲ免租ト謂フ。何レモ特別ノ行政行為ニ依リ其ノ利益ヲ與ヘラルルモノニシテ、課税除外ノ如ク法律上當然ニ課税外ニ置カルルニ非ズ。其ノ行政行為ハ行政廳ノ自由裁量ノ行為ニ非ズシテ、常ニ法律ヲ執行スル行為ナリ。法律ハ一定ノ條件ヲ定メテ其ノ條件ニ該當スル場合ニノミ租税ヲ減免スベキモノト爲シ、而シテ收税官廳ヲシテ各個ノ場合ニ付キ其ノ條件ニ該當スルヤ否ヤヲ認定シテ減免ノ利益ヲ與フルコトヲ得シムルナリ。租税減免ノ理由ハ概ネ擔税力ノ減退若クハ喪失又ハ公益事業ノ保護ノ爲ニスルニ在リ。就中其ノ重ナル事列トシテハ左ノ三種ヲ舉グルコトヲ得。

(イ) 事業ノ創始期ニ於ケル一定期間ノ減税又ハ免租 收益税又ハ財産税ニ於テ課税物件タル收益事業又ハ財産改良事業ガ其ノ創始期ニ當リ未ダ充分ノ收益ヲ生ゼザル状態ニ在ル場合ニ於テハ、其ノ事業ノ發展ヲ阻害セザランガ爲ニ一定ノ期間ヲ限リテ租税ヲ減免スルコト尠カラズ。例ヘバ地租ニ付テハ開拓減租年期(一九條)、埋立免租年期(二〇)、開墾減租年期(三六)、地目變換減租年期(四六)、耕地整

理地價据置年期、耕地整理新開免租年期(耕地整理法一四、新造林地免租年期(森林法一二條)等ノ制アリ、一定

ノ年限ニ互リ或ハ地租ヲ免除シ或ハ地目變換ノ爲ニ課税價格ヲ修正スベキニ拘ラズ舊價格ニ依リ地租ヲ課スルモノト爲スモノニシテ、何レモ納税義務者ノ申請ニ依リ許可セラルルナリ。營業收益税ニ付テモ勅令(税法施行規)ヲ以テ指定スル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生ズル收益ニ付キ納税義務者ノ申請ニ依リ營業收益税ヲ免除スベキモノト爲セリ(營業收益税法八)。地租法ニハ別ニ自作農地免租(七〇)ノ制アリ、無產者ニ對スル一時的ノ特典ナリ。

(ロ) 罹災ニ基ク減税又ハ免租 非常災害ニ因リ擔税力ヲ失ヒ又ハ減ジタル者ニ對シテハ法律ニ依リ特ニ租税ヲ減免スベキモノト定メタルモノ多シ。就中大正十二年ノ關東大震災ノ結果ニ因ル震災被害地ノ地租免除等ニ關スル法律(大正一三)、昭和二年ノ奧丹後震災及昭和五年ノ伊豆震災ノ結果ニ因ル震災被害者ニ對スル租税ノ免除猶豫等ニ關スル法律(昭和二法律一七、昭和六法律四六)ハ臨時ノ非常災害ニ際シテ定メラレタル法律ナリ。常時ノ制トシテモ地租法ニハ荒地免租年期(荒地ハ其ノ被害ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年以内免租スルモノハ更ニ十五年以内)災害地免租(北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ互ル災害又ハ天候不順ニ因)ノ制アリ。酒其ノ他ノ造石税(酒造税法一二條、麥酒税法七條、酒精及酒精含有飲料税法一條等)關稅(輸入貨物損傷シタルトキハ願)等ニ付テモ各其ノ法律ニ於テ減税又ハ免租ノ場合ヲ定ム。

(ハ) 公益事業ノ保護又ハ公用負擔ニ基ク減税又ハ免租 此ノ種ニ屬スルモノニハ私立學校用地ノ免

租(大正八法
律三八)砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ノ地租ノ免除又ハ輕減(砂防法一一條、
三一勅令三七四)等ヲ舉グルコトヲ得。

(四) 納稅義務ノ未定狀態、條件附納稅義務 課稅原因タル事實ノ發生スル場合ニ於テモ、事情ニ依リ納稅義務ガ直ニ確定スルモノト爲サズシテ、其ノ義務ノ成立ヲ一時不定ノ狀態ニ置キ、又ハ之ヲ停止條件若クハ解除條件ニ繋ラシムルコトアリ。關稅其ノ他ノ消費稅ニ付テノミ其ノ實例ヲ見ルモノニシテ、凡テ消費稅ハ内地ニ於ケル消費ニ課稅スルコトヲ目的トスルモノナルヲ以テ、其ノ果シテ内地ニ於テ消費セラルルヤ否ヤノ不定ナル間ハ課稅義務ヲシテ未確定ノ狀態ニ在ラシメ、以テ義務者ノ負擔ヲ輕減スルナリ。此ノ種ニ屬スル重ナル事例ハ左ノ如シ。

(イ) 保稅地域ニ在ル貨物 外國ヨリ輸入スル貨物ニハ關稅ヲ課スト雖モ、其ノ貨物ノ尙保稅地域ニ在ル間ハ未ダ之ヲ輸入シタルモノト看做サズ、其ノ果シテ關稅義務ヲ生ズルヤ否ヤハ尙未定ノ狀態ニ在リ、其ノ内地ニ移サルルコトナクシテ再ビ積ミ戻サルル場合ニ於テハ關稅義務ハ全ク發生セズシテ終リ、内地ニ移サルル場合ニ於テ始メテ關稅ヲ課スルナリ。其ノ單純ナル納稅義務未發生ノ場合ト異ナル所以ハ、其ノ貨物ガ既ニ租稅ノ擔保トシテ稅關吏ノ特別ノ監督ノ下ニ置カレ、稅關ガ其ノ物ノ上ニ條件附ノ處分權ヲ取得スルコトニ在リ。保稅地域トハ稅關構内、保稅倉庫、保稅工場及稅關長ガ外國貨物ヲ藏置シ得ベキ場所トシテ指定又ハ特許シタル場所ヲ謂フ。保稅地域ニ藏置シ得ベキ期間ハ限

定セラル。其ノ期間ハ保稅倉庫ニ在リテハ二年、保稅工場ニ在リテハ一年(一年以内ノ
延長ヲ許ス)其ノ他ノ場所ニ在リテハ七日ヲ限度トス。其ノ期間ヲ過ギテ搬出セザルトキハ、稅關ハ利害關係人ノ費用及危險ノ負擔ヲ以テ、其ノ貨物ヲ收容シ收容ノ後尙法定ノ期間内ニ引取人ナキトキハ之ヲ處分スルコトヲ得(關稅
六條乃至五二條、保稅倉庫法七條
一六條一七條、保稅工場法一一條)。此ノ場合ニ於テハ其ノ内地ニ移サレザルニ拘ラズ關稅義務ハ成立シ其ノ物ニ就キ關稅ヲ徵收スルナリ。

保稅地域ニ藏置スルコトノ效果ハ保稅倉庫ト其ノ他ノ場所トニ依リ異ナリ。保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ノ輸入稅ハ其ノ最初庫入ノ時ノ性質及數量ニ依リ徵收ス(但シ災害ニ因リ滅失若クハ變質シ又ハ政府ノ奉
認ヲ得テ滅却シタル貨物ヲ除ク保稅倉庫法三條)。但シ其ノ標準ト爲ルベキ法規ハ庫出ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ依ル(關稅法
三條)。即チ其ノ庫入ノ時ニ於テ既ニ課稅標準ガ確認決定セラルルモノニシテ關稅義務ハ之ニ依リ停止條件附ニ成立スルナリ。保稅工場ニ藏置スル場合ハ之ニ反シテ其ノ輸入ノ時即チ保稅工場ヨリ内地ニ移出スル時ノ數量及性質ニ依リ輸入稅ヲ徵收スルコトヲ原則トス(保稅工場
法五條)。稅關構内其ノ他ノ保稅地域ノ場合モ之ニ同ジ(關稅法
三條)。即チ此等ノ場合ハ關稅義務ハ移入ニ依リテハ未ダ全ク成立セズ、唯貨物ガ稅關ノ監督ノ下ニ置カルルノミ、其ノ移出ノ時ニ始メテ關稅義務ガ成立スルナリ。但シ保稅工場ニ藏置スル場合ニ於テモ工場内ニ於テ其ノ貨物ニ加工シ又ハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲スニ因リ其ノ原料ニ付キ稅關ノ検査ヲ受ケタルトキハ其ノ検査ノ時ノ性質及數量ニ依リ徵收シ、且ツ其ノ時ヨリ移出ノ時迄ノ利子ヲモ徵收ス(保稅工
場法五

條)、即チ此ノ場合ニ於テハ其ノ検査ノ時ニ關稅義務ハ成立スルモノニシテ唯其ノ徵收ガ移出ノ時迄延期セラルルニ止マル。

保稅倉庫ハ外國ヨリ輸入セラレテ未ダ關稅納付ノ手續ヲ了セザル貨物ヲ藏置スルガ爲ニ設ケラルル公ノ倉庫ニシテ、官設ト私設トノ別アリト雖モ、其ノ私設ニ係ルモノモ亦國家の事業ヲ特許セラレタルモノニ外ナラズ。一種ノ公企業特許ナリ。私設保稅倉庫ノ業ヲ營ムニハ大藏大臣ノ特許ヲ受クルコトヲ要シ、其ノ庫主ハ當該官廳ノ指揮監督ニ服ス。庫主ハ其ノ保管スル貨物ノ輸入税ニ付キ一切ノ責任ヲ負擔シ其ノ擔保ヲ提供スル義務ヲ負フ(保稅倉庫法一八條乃至二一條)。

保稅工場ハ外國ヨリ輸入セラレテ未ダ關稅納付ノ手續ヲ了セザル貨物ニ付キ其ノ改装仕分其ノ他ノ手入ヲ爲シ又ハ之ニ加工シ若クハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲ス爲ニ設ケラルル場所ニシテ、官設ト私設トノ別アリ。其ノ私設ニ係ルモノノ設置ハ稅關長ノ特許ヲ受クルコトヲ要ス(保稅工場法一)。

郵便ニ依リ輸入シタル貨物ニ付テモ、其ノ名宛人ニ交付セラルル迄ハ保稅地域ニ在ルモノト同ジク納稅義務ノ未定状態ニ在ルモノナリ。

(ロ)通過貨物 外國ヨリ輸入シタル貨物ガ内地ヲ通過シテ再ビ外國ニ輸出セララルルモノニハ全ク關稅ヲ課セズト雖モ、其ノ輸入ニ當リテハ其ノ貨物ガ果シテ内地ヲ通過スルニ止マルヤ又ハ内地ニ留マラルヤ未ダ明ナラズ。開港ヨリ内地ヲ通過シテ他ノ保稅倉庫ニ庫入スル爲、又ハ一ノ保稅倉庫ヨリ内

地ヲ通過シテ他ノ保稅倉庫ニ庫移スル爲ニ貨物ヲ運送スル場合モ亦全ク同一ノ状態ニ在リ。此等ノ場合ニ付テハ法律ハ一定ノ關稅通路(大正六次大藏省令二〇)及保稅通路(四一次大藏省令四二)ヲ定メ、其ノ通路ニ依リテノミ之ヲ運送スルコトヲ許シ、而シテ其ノ運送ハ之ヲ稅關吏ノ監督ノ下ニ服セシム。若シ指定ノ期間内ニ運送先ニ到達セザルトキハ關稅義務ハ即チ成立シ、之ヲ義務者ヨリ徵收ス。其ノ徵收ハ運送期間滿了ノ日ノ翌日ニ於テ行ハルル法規ニ從フ(關稅法三條)。即チ此ノ場合ニ於テハ關稅義務ガ法定ノ停止條件ニ繋レルモノト謂フベク、若シ其ノ貨物ガ内地ニ留マルトキハ其ノ條件ノ成就ニシテ其ノ義務ハ成立シ、若シ内地ニ留マラスシテ運送先ニ到達スルトキハ、條件ガ成就セザリシモノニシテ、其ノ義務ハ不成立ニ終ルナリ。

(ハ)再輸出ノ目的ヲ以テ又ハ原料ニ使用スル目的ヲ以テ輸入シ又ハ外國ニ輸出スル目的ヲ以テ製造スル貨物 加工ノ爲又ハ其ノ他法律ノ定ムル特定ノ目的ノ爲ニ輸入スル物品ニシテ輸入ノ日ヨリ一年以内ニ再ビ輸出スルモノ、輸入原料品ニシテ法律ノ指定スル特種ノ貨物ノ製造ニ使用スルモノ及ビ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用スル特種ノ物品ハ關稅ノ全部又ハ一部ヲ免除スルモノトセラル(關稅定率法八條九條一〇條)ト雖モ、輸入ノ當時ニ於テハ果シテ此ノ條件ヲ充スヤ否ヤ尙不明ニシテ、其ノ條件ノ充サレタル場合ニ於テ關稅ハ始メテ消滅シ、其ノ條件ガ充サレザルトキハ輸入ノ時ニ溯リテ關稅ヲ追徵ス。即チ此ノ場合ニ於テハ關稅義務ガ法定ノ解除條件ニ繋レルモノニシテ、其ノ輸入ノ時ニ於テ關稅義務ガ直ニ成

立シ、唯其ノ徵收ガ猶豫セラル、若シ一年以内ニ再輸出ヲ爲シ又ハ其ノ他ノ條件ヲ充ストキハ解除條件ノ成就ニシテ其ノ義務ハ不成立トナリ、若シ之ヲ充サザルトキハ其ノ義務ハ輸入ノ時ニ溯リテ完全ニ成立スルモノナリ。

外國ヨリ輸入スル貨物ノ外、内國消費稅ニ付テモ外國ニ輸出スル貨物ニ付テハ同様ノ定アルモノアリ。砂糖消費稅(砂糖消費稅法五條)、織物消費稅(織物消費稅法三條一項施行規則一〇條一二條一三條)、骨牌稅(稅法一二條九條一〇條)等其ノ例ニ屬ス。凡テ此等ノ場合ニ法律ハ租稅ヲ免除スト曰ヘリト雖モ、單純ナル免除ニ非ズ、條件附ノ免除ニシテ、其ノ條件ノ成就ノ確定スル迄ハ其ノ貨物ハ收稅官吏ノ監督ニ服シ、條件ノ成就ニ依リテ其ノ免除ガ確定ス、即チ等シク解除條件附ノ義務ナリ。

(五) 戻稅 トハ一タビ適法ニ徵收シタル租稅ニ付キ或ル事實ノ發生ニ因リ其ノ全部又ハ一部ヲ納稅者ニ返還スル行爲ヲ謂フ。戻稅ハ稍解除條件附ノ納稅義務ニ類スト雖モ、解除條件ノ場合ニ於テハ租稅ハ未ダ徵收セラレズ其ノ條件ノ不成就トナレル場合ニ始メテ之ヲ徵收スルモノナルニ反シテ、戻稅ノ場合ニ於テハ納稅義務ハ完全ニ成立シテ稅金ハ無條件ニ徵收セラレ、唯或ル事實ノ發生ニ因リ其ノ稅金ノ全部又ハ一部ニ等シキ金額ヲ下付スルナリ。租稅ノ徵收ト其ノ拂戻トハ二ノ別個ノ行爲ナリ。戻稅ハ内國ノ工業又ハ工業品輸出ヲ獎勵スルガ爲ニスル制度ニシテ、關稅又ハ消費稅ヲ課セラレタル貨物ガ法律ノ指定スル工業ノ用ニ供セラレ又ハ製造原料トシテ用キラレタル後外國ニ輸出セララル

場合ニ於テ行ハル。其ノ現行法ニ於テ認メラルル重ナルモノハ製造品原料輸入稅拂戻(關稅定率法九條、大正一〇勅令二三八)、煉乳原料砂糖戻稅(律二七)、輸出菓子糖菓原料砂糖戻稅(律二八)、織物消費稅拂戻(織物消費稅法三條二項)、酒精酒類其ノ他酒精含有飲料輸出下戻金(律一〇)、工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅(律四六)、内地ヨリ朝鮮ニ移出スル酒類其ノ他ノ物品ノ内國稅拂戻(大正九法律五一)等ナリ。

六 租稅ノ擔保

租稅徵收權ハ固ヨリ公法上ノ權利ナリト雖モ、其ノ金錢債權ナルコトニ於テハ民法上ノ債權ト性質ヲ同ジクスルヲ以テ、種々ノ點ニ於テ民法上ノ債權ト同様ノ原則ニ從フ。就中擔保ニ關シテモ法律ハ租稅請求權ノ擔保トシテ民法上ノ擔保權ニ比スベキ種々ノ權利ヲ認ム。

租稅ノ擔保ハ之ヲ二種ニ分ツコトヲ得。一ハ直接ニ法律ニ依リ發生スルモノニシテ、一ハ特別ノ法律行爲ニ依リ設定セラルルモノナリ。

(一) 直接ニ法律ニ依リ發生スル擔保權ニハ更ニ左ノ二種アリ。

(イ) 一般國稅ノ擔保トシテノ先取特權 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス(國稅徵收法二條)。即チ國稅ノ徵收ニ關シテハ國家ハ義務者ノ總財產ノ上ニ公法上ノ先取特權ヲ有スルモノニシテ、其ノ權利ハ法律ニ例外ノ定アルモノヲ除クノ外、總テノ他ノ公課及債權ヨリモ優先ノ效力ヲ有ス。但シ義務者ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定ガ國稅ノ納期限ヨリ一年前

ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明スルトキハ、該物件ノ價額ヲ限度トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セザルモノトス^(三)。租稅ノ擔保トシテノ先取特權ハ其ノ效力ニ於テ民法上ノ先取特權ニ準ズベキモノナリト雖モ、其ノ公法上ノ權利ナルコト勿論ニシテ民事訴訟ニ依ラズ行政上ノ強制執行ノ手段ニ依リ其ノ權利ヲ實現シ得ベク、之ニ對スル爭ハ唯訴訟又ハ行政訴訟ノ手段ニ依ルノ外ナキコトニ於テ民法上ノ先取特權ト異ナリ。

(ロ) 關稅ノ擔保トシテノ留置權及先取特權 關稅未納ノ貨物ハ法律上當然ニ其ノ關稅ノ擔保トセラ^(六)ル^(六條法)。即チ國家ハ其ノ特定ノ貨物ノ上ニ公法上ノ留置權及先取特權ヲ有スルモノニシテ、其ノ權利ノ效果ハ關稅ノ支拂アル迄其ノ貨物ヲ稅關ニ留置シ一定ノ期間ヲ經テ尙其ノ支拂ナキトキハ之ヲ收容シ、法定ノ條件ノ下ニ之ヲ公賣シテ、關稅、敷料及其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充ツルヲ得ベキコトニ在リ。其ノ效力ハ總テノ他ノ公課及債權ニ優先ス^(關稅法五條二、項四六條以下)。

(二) 特別ノ法律行爲ニ依リ擔保ヲ設定スルハ租稅ノ徵收猶豫、條件附納稅義務等總テ法律ニ基キ收稅官廳ニ於テ擔保ノ提供ヲ命ズル場合又ハ直接ニ法律ニ依リ納稅保證ヲ爲スベキ義務ヲ課セル場合^(例、酒造稅法一三、一四條)ニ於テ行ハル。其ノ提供スル擔保ノ種類ハ場合ニ依リ同ジカラズ。或ハ金錢又ハ有價證券ヲ供託セシムルコトアリ、或ハ土地建物ヲ保證物ト爲サシムルコトアリ、或ハ保證人ヲ立テシムルコトアリ、或ハ稅金額ニ相當スル貨物ヲ保存スル義務ヲ負ハシムルコトアリ^(例、酒造稅法一四條二號)。總テ此等

ノ擔保ヲ提供スベキ義務ハ、其ノ直接ニ法律ニ依リテ生ズルト行政行爲ニ依リ命ゼラルトヲ問ハズ公法上ノ義務ニシテ、隨テ又其ノ義務ノ履行ニ依リテ生ズル擔保權モ亦公法的性質ヲ有スルコト勿論ナリト雖モ、唯其ノ權利ノ内容ニ於テハ全ク民法上ノ擔保ニ同ジク、金錢ヲ供託セシムルハ民法上ノ保證金ト同ジク、有價證券ノ供託ハ質權ノ設定ナリ、土地建物ヲ擔保ト爲スハ抵當權ノ設定ニシテ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要シ、保證人ヲ立テシムルハ保證契約ニ外ナラズ、貨物保存ノ義務ヲ負ハシムルハ其ノ貨物ノ所有權ヲ制限シテ任意ニ之ヲ處分スルコトヲ得ザラシメ且ツ國家ガ法律ニ依リ其ノ貨物ノ上ニ先取特權ヲ取得スルモノナリ。何レモ民法上ノ擔保ト其ノ内容ヲ等シクス。其ノ公法的特色ハ唯收稅官廳ガ行政上ノ手段ニ依リ自ラ強制執行ヲ爲シ得ベク、之ニ對スル爭ガ民事裁判所ノ管轄ニ屬セザルコトニ於テ見ハル。

七 納稅義務ノ消滅

納稅義務ノ消滅原因ハ左ノ如シ。

(一) 納稅義務ノ履行 ハ納稅義務ノ最モ通常ナル消滅原因ナリ。納稅義務ノ履行ニハ種々ノ方法ヲ分ツコトヲ得。(イ) 其ノ正常ナル方法ハ納稅義務者ガ現金^(又ハ之ニ代ルベキ小切手、爲替手形、郵便爲替證書等)ヲ以テ收入ヲ受領スベキ機關^(日本銀行、郵便官署、收入官吏、市町村收入役)ニ納付スルコトニ在リ、其ノ受領ニ對シテハ領收證書ヲ交付ス。(ロ) 印紙ヲ以テ納付セシムル租稅ニ在リテハ印紙ノ使用ガ即チ納稅義務ノ履行ニシテ、納稅義務ハ之

ニ依リ消滅ス。(ハ)租税ノ徵收ガ私人ニ委任セララルモノ(取引税、第二種所得税、甲種資本利子税)ニ在リテハ國家ト直接ノ公法上ノ關係ニ立ツ者ハ徵收受任者ニシテ、受任者ハ自己ノ責任ニ於テ其ノ徵收シタル又ハ徵收スベカリシ租税ヲ納付スル義務ヲ負ヒ、受任者ガ之ヲ納付シタルトキハ、納税義務者ハ未ダ其ノ義務ヲ履行セザル場合ニ於テモ國家ニ對スル關係ニ於テハ其ノ義務ハ消滅シ、唯徵收受任者ガ納税義務者ニ對シテ民法上ノ請求權ヲ有スルノミ。(ニ)納税義務ハ義務者ガ自ラ之ヲ履行スル場合ノ外、納税保證人、連帶義務者又ハ其ノ他ノ第三者ガ之ヲ履行スルニ依リテモ消滅ス。此ノ點ニ於テモ民法ノ代位辨濟(民法四七四條)ト同一ノ原則ガ適用セララルナリ。殊ニ納税義務者ガ納税地ニ住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ原則トシテ納税管理人ヲ置クコトヲ要シ、納税管理人ガ納税ニ關スル事項ヲ管理ス、納税ノ告知又ハ督促ニ關スル書類ハ管理人ニ之ヲ送達スルヲ以テ其ノ效力ヲ生ズ(國稅徵收法四七條ノ六、七)。(ホ)納税義務者ガ其ノ義務ヲ履行セズシテ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ義務ハ相續人ニ移轉シ相續人ガ之ヲ履行スルニ依リテ其ノ義務ハ消滅ス(四三條)。納税義務ハ公法上ノ義務ナレドモ其ノ實質ニ於テ金錢債務ニ外ナラザルヲ以テ民法上ノ債務ト同ジク相續ノ目的トナルモノナリ。(ヘ)納税義務者ガ破産宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ總財產ハ破産財團トシテ破産管財人ノ管理ニ屬シ、而シテ租税ハ財團債權ノ一トシテ破産手續ニ依ラズ破産財團ヨリ先ヅ辨濟セララル(破産法四七條、四九條五〇條)。其ノ辨濟ニ依リ納税義務ハ消滅ス。

(二) 租税ノ免除 納税義務ハ其ノ免除ヲ受クルニ依リテ消滅ス。租税ノ免除ハ法律ニ基キ收税官

應ノ權限ニ依ル。之ヲ爲シ得ベキ場合ハ前ニ述ベタリ。

(三) 時効 納税義務ノ時効ハ關稅ニ付テハ二年トシ(關稅法七條時効ノ起算ハ關稅ノ徵收權ヲ行使シ得ル日トス)、其ノ他ノ一般國稅ニ付テハ會計法ニ依リ五年トス。關稅ニ付テモ遁脫ヲ圖リ又ハ遁脫シタル關稅ノ時効ハ特別法ニ依ラズ會計法ニ依ル一般ノ例ニ從フ。但シ何レノ場合ニモ納税告知書ガ時効中斷ノ效力ヲ有スルコトハ勿論ナリ(會計法三二條至三四條)。

(四) 滯納處分 納税義務者ガ其ノ義務ヲ履行セザルトキハ滯納處分ヲ行フ。滯納處分結了スルトキハ、租税金額ノ全部ヲ收納シ得タルト否トヲ問ハズ、納税義務ハ之ニ依リテ消滅ス(國稅徵收法三一條)。滯納處分ニ付テハ財政下命ノ節ニ於テ後ニ之ヲ論ズ。

(五) 滯納處分ノ中止 滯納處分ヲ行フベキ場合ニ於テ差押フベキ財產ノ價格ガ督促手数料、延滞金、滯納處分費及國稅ニ先チテ控除スベキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ中止ス(國稅徵收法一二條)。其ノ中止ニ依リテ納税義務ハ消滅ス(同三條)。

八 違法課税ニ對スル救濟

(一) 租税賦課ノ違法 租税ノ賦課ガ直接ニ法律ニ依リテ確定シ何等ノ行政行為ヲ要セザルモノニ在リテハ之ニ對スル救濟手段ノ問題ヲ生ゼズ。

租税ノ賦課ニ行政行為ヲ要スル場合ニ於テハ、各種ノ租税法ニ於テ之ニ不服アル者ヲシテ異議ノ申

立、訴願又ハ行政訴訟ヲ起スノ權利ヲ有セシメ、租税法ニ別段ノ定ナキモノニ付テハ、訴願法ニ依リ一般ニ租税ノ賦課ニ關シテ訴願ヲ爲スノ權利ヲ認メ、又明治二十三年法律第六號ニ依リ關稅ヲ除クノ外一般ノ租税ノ賦課ニ關シテ行政訴訟ヲ起スノ權利ヲ認ム。

租税ノ賦課ニ關スル行政行爲ニハ種々アリ。(イ)課税標準ヲ決定シ又ハ其ノ決定ヲ變更スル行爲、(ロ)税金額ヲ定メテ其ノ納付ヲ命ズル行爲、(ハ)租税ヲ輕減シ又ハ免除スル行爲、(ニ)租税ノ徵收ヲ猶豫スル行爲、(ホ)租税ノ擔保ノ提供ヲ命ズル行爲、(ヘ)戻税ノ交付ヲ許否スル行爲、(ト)納税保證人、徵收受任者其ノ他納税義務者以外ノ關係人ニ對シテ納税ヲ命ズル行爲等是ナリ。此等ノ總テノ行爲ニ對シテ不服ノ訴ヲ爲シ得ベキヤ否ヤニ付テハ、各租税法ニ別段ノ定アル場合ニ於テハ其ノ定ニ依ルベク(例、登録税ノ課税標準タル登記價格ノ決定ニ付テハ登記所ノ認定ヲ不當トスルトキハ登記申請者ハ評價ヲ求ムルヲ得ズ、登録税法一七條ノ二以下)別段ノ定ナキモノニ付テハ法律ハ廣ク租税ノ賦課ニ關スル事件ニ付キ訴願又ハ行政訴訟ヲ許シ、而シテ此等ノ總テノ行爲ハ皆租税ノ賦課ニ關スルモノナルヲ以テ何レモ訴願又ハ行政訴訟ノ目的ト爲リ得ベキモノナリ。

租税ニ關スル異議ノ申立ノ決定又ハ訴願ノ裁決ニ付テハ之ガ爲ニ特別ノ機關ヲ設置スルモノアリ。例ヘバ所得税法ニ依ル第三種ノ所得金額、資本利子税法ニ依ル乙種ノ資本利子金額及ビ營業收益税法ニ依ル純益金額ノ決定ニ對スル異議ノ申立ヲ審査スル爲ニハ所得審査委員會ノ設アリ。所得審査委員

會ハ一部分ハ官吏、一部分ハ民間ノ委員ヲ以テ組織スルモノニシテ、異議ノ申立アルトキハ、收稅官廳ハ審査委員會ノ決議ニ依リ更ニ之ヲ決定ス(所得税法六〇條至六二條、資本利子税法一七條一八條)、其ノ決定ニ對シテハ更ニ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得。相續税ノ課税價格ニ付テモ其ノ異議申立ノ審査ノ爲ニ相續税審査委員會(相續税法施行規則五條以下)ヲ置ク。但シ此等ノ審査委員會ハ自ら異議ヲ決定スルノ權アルニ非ズ。其ノ決定權ハ收稅官廳ニ屬シ委員會ハ唯其ノ決定ノ基礎ト爲ルベキ決議ヲ爲スノミ。關稅ノ課税價格ニ關スル訴願ヲ審査スル爲ニハ關稅訴願審査委員會(關稅法六九條以下)ノ設アリ、關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ不服アル者ハ稅關長ニ異議ノ申立ヲ爲シ、稅關長之ヲ判定ス、其ノ判定ニ不服アル者ハ大藏大臣ニ訴願シ、而シテ大藏大臣ハ此ノ委員會ノ決議ニ依リ之ヲ裁決スルナリ。

(二) 租税ノ過誤納 過誤納ニ依リ課税處分ニ依リ定マリタル定額ヨリモ多クノ稅額ヲ納付シタルトキ、絶對ニ無効ナル課税ニ基キテ納税シタルトキ、又ハ訴願若クハ行政訴訟ノ結果既ニ徵收シタル租税ガ過多ナリト決セラレタルトキハ、納付者ハ當然其ノ返還ヲ請求スル權利ヲ有ス。此ノ權利ハ不當利得ノ返還請求權ノ性質ヲ有スルモノニシテ、法律ニ別段ノ規定アルモノノ外民法ノ規定ニ從フ。但シ關稅ニ關シテハ特ニ其ノ請求權ニ付キ短期時効ノ定アリ、關稅納付ノ日ヨリ滿二年ヲ以テ時効ニ權ルモノトシ(關稅法三條)、同年度ノ地租、營業收益税、所得税及ビ同酒造年度ノ酒造税ニ付テハ其ノ過納金額ヲ爾後ノ納期ニ於テ徵收スベキ同一稅目ノ税金ニ充ツルヲ得ベキノ定アリ(國稅徵收法四條ノ五)。

(三) 租税ノ追徴 租税ノ徴收ガ定額ニ滿タザリシ場合ニ於テハ、其ノ不足ノ限度ニ於テ納税義務ハ未ダ履行セラレザルモノナルヲ以テ、其ノ時効ニ罹ル迄ハ收税官廳ハ之ヲ追徴スルノ權アルコトヲ當然トス。但シ行政行為ニ依リ一タビ課税標準又ハ租税金額ヲ決定シテ之ヲ義務者ニ通告シ異議ノ申立モナクシテ確定シタル場合ニ於テハ、收税官廳自身モ之ニ依リテ拘束セラレ、假令其ノ決定ニ誤アリタル場合ト雖モ其ノ誤ガ義務者ノ側ニ於ケル詐欺、不正ノ申告、其ノ他惡意ノ遁脱等義務者ノ責ニ歸スベキ事由ニ基キタル場合ヲ除クノ外、後日ニ至リ其ノ誤アリタルガ故ヲ以テ之ヲ追徴スルヲ得ザルモノト認メザルベカラズ。

第四節 專賣

一 專賣ノ性質及種類

專賣トハ國家ガ收入ノ目的ヲ以テ特種ノ貨物ノ販賣ヲ獨占スルヲ謂フ。時トシテハ販賣ト共ニ其ノ生産ヲモ國家ニ獨占スルコトアリ。專賣ハ國家ノ獨占事業ナルコトニ於テハ公益上ノ獨占事業ト其性質ヲ同ジクス、國家ガ法律ニ依リテ特殊ノ事業ヲ自己ノ獨占權ニ留保シ國家ノ特許ヲ受ケタル者ノ外何人モ之ト同種ノ事業ヲ爲スコトヲ許サザルモノナルコトハ專賣ニ付テモ他ノ企業獨占權ト異ナルコト

トナシ。其ノ之ト區別セラルル所以ハ一ニ專賣ガ專ラ國家ノ收入ヲ目的トスルコトニ在リ、專賣權ノ内容ガ常ニ貨物ノ販賣ニ在ルコトモ亦其ノ結果ニ外ナラズ。公益上ノ獨占事業ガ保育行政ノ區域ニ屬スルニ反シテ專賣權ノ設定ハ財政權ノ發動ナリ。

專賣ハ專ラ國家ノ收入ヲ目的トスルモノナルヲ以テ、其ノ經濟上ノ性質ニ於テハ消費税ノ一種ナリト謂フコトヲ得。國家ハ貨物ノ販賣ヲ自己ニ獨占シ、自由競争ヲ許サザル結果トシテ自由競争ノ下ニ於テ定マルベキ正常ナル價格ヨリモ其ノ販賣價格ヲ高價ナラシメ、之ニ依リテ收入ノ目的ヲ達スルモノニシテ、其ノ貨物ノ消費者ハ恰モ消費税ヲ納ムルガ如クニ、高價ヲ以テ之ヲ購買スルコトヲ餘儀ナクセラルルナリ。然レドモ法律上ノ性質ヨリ言ヘバ租税ハ財政權ニ依ル課徴ニシテ義務者ハ權力のニ其ノ納付ヲ命ゼラルルモノナルニ反シテ、專賣ガ財政權ノ發動タル所以ハ唯專賣貨物ノ販賣ガ一般ニ禁止セラルルコトニノミ存シ、其ノ收入自身ハ購買者ノ任意ノ買入ニ依ルモノニシテ、毫モ權力のニ課徴セラルルニ非ズ。其ノ法律上ノ性質ニ於テハ專賣ニ依ル收入ハ他ノ官業收入ト同ジク私法上ノ收入ニシテ租税トハ全く其ノ性質ヲ異ニス。

我が現時ノ制ニ於テ國家ノ專賣權ノ認めラルルモノハ、内地ニ於テハ煙草專賣(三七法律一四煙草專賣法三七法律一九同施行細則)、粗製樟腦及樟腦油專賣(三六法律五粗製樟腦樟腦油專賣法三六法律二二同施行細則)、鹽專賣(三八法律二一鹽專賣法三八法律二二同施行細則)ノ三種ナリ。煙草專賣ハ内地ノ外樺太ニモ施行シ、樟腦及樟腦油專賣ハ内地及臺灣ニ施行ス。此等ノ外朝鮮ニハ別ニ煙草專

賣、紅蔘專賣ノ制アリ、臺灣ニハ煙草專賣、食鹽專賣、酒類專賣、阿片專賣ノ制アリ。阿片ハ内地ニ於テモ阿片法ニ依リ政府ガ其ノ販賣ヲ獨占スト雖モ、内地ノ阿片專賣ハ專ラ警察ノ目的ニ出ヅルモノニシテ收入ノ目的ノ爲ニスルニ非ズ。阿片ノ販賣ガ一般ニ禁止セララルハ警察禁止ノ性質ヲ有シ、財政權ニ基ク禁止ニ非ズ。財政上ノ專賣ガ大藏省ノ主管ニ屬スルニ反シテ阿片專賣ガ内務省ノ主管ニ屬スルハ之ガ爲ナリ。唯政府ガ其ノ販賣ヲ獨占シ、及ビ阿片製造人ノ製造シタル阿片ハ凡テ一定ノ賠償金ヲ以テ之ヲ政府ニ收納スルコトニ於テハ、財政上ノ專賣ト其ノ法律關係ヲ等シクスルモノナリ。

專賣權ノ範圍ハ專賣ノ種類ニ依リ同ジカラズ。或ハ其ノ生産販賣ノ全部ヲ國家ニ獨占スルモノアリ、之ヲ全部專賣ト謂フ。或ハ其ノ生産ハ之ヲ私人ノ事業ト爲シ其ノ生産品ヲ國家ニ收納シテ國家ガ其ノ販賣ヲ獨占スルニ止マルモノアリ、之ヲ一部專賣ト謂フ。現行ノ制ニ於テ專賣權ノ範圍最モ廣キハ煙草專賣ニシテ煙草ノ製造及販賣ハ總テ之ヲ國家ニ獨占ス、即チ全部專賣ナリ、唯其原料品タル煙草ノ耕作ハ之ヲ私人ノ事業ト爲ス。樟腦專賣及鹽專賣ニ付テハ國家ハ唯販賣ヲ獨占スルノミ即チ一部專賣ナリ、其ノ製造ハ之ヲ私人ノ事業ト爲ス。

二 專賣權ノ效果

專賣權ノ主タル效果ハ專賣貨物ノ販賣(又ハ製造及販賣)ヲ國家ニ獨占シ、隨テ一般人民ニ對シテ此等ノ行爲ヲ禁止スルコトニ在リ。此ノ主タル效果ニ附隨シテ、私人ノ事業ニ屬スル耕作又ハ製造ヲ監督シ、其

ノ生産品ヲ收納シ、販賣價格ヲ決定シ、賣捌人ヲ指定スル等ノ權能ヲ伴フ。

(一) 獨占ノ範圍ニ屬スル行爲ノ禁止 國家ノ獨占權ヲ侵害スベキ行爲ハ總テ禁止セララル。獨占權ノ範圍ハ專賣ノ種類ニ依リ同ジカラズ。煙草專賣ニ付テ曰ハバ(イ)私ニ煙草ヲ製造スルコト、(ロ)政府ノ命ヲ受ケ又ハ特ニ政府ノ許可ヲ受ケタル者ノ外煙草ヲ輸入スルコト、(ハ)營業ノ目的ヲ以テ煙草ニ代用スベキ物品ヲ製造シ又ハ販賣スルコト、(ニ)政府ノ許可ヲ受ケズシテ煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ヲ製作シ販賣シ又ハ藏置スルコト、(ホ)政府又ハ政府ノ指定シタル賣捌人ニ非ズシテ製造煙草ヲ販賣スルコト、(ヘ)禁制ノ葉煙草、製造煙草又ハ煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シ、讓渡シ又ハ讓受クルコト等ハ總テ禁止セララル。其ノ他ノ專賣ニ付テモ類似ノ禁止規定アリ。

(二) 專賣貨物ノ生産監督 樟腦及鹽ニ付テハ政府ハ唯其ノ販賣ヲ獨占スルニ止マリ其ノ製造ヲ私人ノ事業ト爲シ、煙草專賣ニ在リテモ煙草ノ耕作ハ之ヲ私人ノ事業ト爲セリ。然レドモ專賣權ノ效果ヲ全クスル爲ニハ其ノ製造又ハ耕作ハ必ず之ヲ政府ノ監督ノ下ニ立タシメ生産者ヲシテ任意ニ之ヲ處分スルコトヲ得ザラシムルコトヲ要ス。生産監督ノ作用ハ各種ノ專賣ニ付キ法律ノ定ムル所ニ依ルト雖モ、就中(イ)政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非ザレバ製造又ハ耕作ヲ爲スヲ許サザルコト、(ロ)製造又ハ耕作ノ方法ヲ監督スルコトハ總テノ專賣ニ通ズル作用ナリ。

(三) 生産品ノ收納權 專賣貨物ハ國家ガ其ノ販賣ヲ獨占スルモノナルヲ以テ其ノ生産高ノ全部ハ

法律ガ特ニ例外ヲ認メタルモノノ外總テ之ヲ國家ニ收納スルコトヲ得ザルベカラズ、是レ專賣權ガ國家ニ屬スル當然ノ結果ナリ。其ノ生産品ハ初ヨリ所有權ヲ制限セラレ、國家ガ其ノ物ノ上ニ收納權ヲ有スルモノニシテ生産者ハ私ニ之ヲ消費シ讓渡シ又ハ隱匿スルコトヲ得ズ。收納權ハ法律ニ依リ特定物ノ上ニ存スル一種ノ公法上ノ物權ニシテ、一定ノ補償金額ヲ以テ其ノ物ノ所有權ヲ取得シ得ベキコトヲ其ノ内容トス。公用徵收權ニ類似スト雖モ、新ナル權利ノ侵害ニ非ズシテ法律ニ依リ初ヨリ其ノ物ノ上ニ存スル權利ナルコトニ於テ之ト性質ヲ異ニス。收納權ヲ侵害スベキ虞アル各種ノ行爲ニ付テハ法律ハ數多ノ罰則ヲ設ケテ、之ヲ禁止シ又ハ制限セリ。國家ノ收納權ニ對應シテ生産者ノ側ニ於テハ其ノ生産高ヲ政府ニ納付スベキ義務ヲ負擔ス。其ノ收納高ニ對シテハ政府ハ法律ノ定ムル所ニ依リ相當ノ補償金ヲ交付ス。補償金額ハ或ハ政府之ヲ定メテ豫メ公示シ、或ハ鑑定人ノ鑑定ヲ經テ政府之ヲ決定ス、其ノ決定ニ對シテハ法律ハ唯再鑑定ノ申請ヲ許スノミ、一般ニ裁判所ニ出訴シ得ベキコトヲ認メズ、蓋シ品質ノ鑑定ハ性質上訴訟事件タルニ適セズト爲セルナルベシ。

(四) 專賣價格ノ決定 專賣貨物ノ販賣ガ政府ノ獨占ニ屬スル結果トシテ、政府ハ自己ノ任意ニ其ノ賣渡價格ヲ決定シ得ベク、消費者ハ政府ノ定ムル價格ヲ以テ之ヲ買受クルコトヲ餘儀ナクセラレ、之ニ依リテ國家ノ收入ノ目的ガ達セララル。即チ專賣價格ノ決定ハ其ノ實質ニ於テハ租稅ノ稅率ヲ定ムルニ等シク、之ヲ定ムルハ法律ニ依ルコトヲ要スト認ムルヲ當然ト爲スベシ。唯稅率ハ常ニ直接ニ法

律ニ依リ定メラルルニ反シテ、專賣價格ノ決定ハ市場ノ狀況ニ依リ需要供給ノ關係ヲ考察シテ決セラ
ルベキモノニシテ、其ノ決定ハ特ニ秘密ヲ要スルヲ以テ、法律ハ自ラ之ヲ定ムルコトナク、其ノ決定
ヲ主務官廳ニ委任セリ(鹽ニ付テハ法律ハ特ニ其ノ賣渡價格
ノ最高限ヲ限定ス、鹽專賣法一八條)。

(五) 專賣貨物ノ販賣 政府之ヲ獨占スト雖モ是レ敢テ政府ガ一般消費者ニ對スル賣捌ヲモ自ラ
スルノ意ニ非ズ、政府ノ獨占ニ屬スルハ唯其ノ元賣捌ニ止マリ一般消費者ニ對シテハ政府ヨリ買受ケ
タル者ガ更ニ之ヲ販賣スルナリ、或ハ政府ガ其ノ賣捌人ヲ指定シ、其ノ指定ヲ受ケタル者ニ非ザレバ
之ヲ販賣スルヲ許サザルモノアリ(例、煙草及鹽ハ政府ノ指定シタル元賣捌人又ハ小賣人ニ非ザレバ之
ヲ販賣スルコトヲ得ズ、煙草專賣法二二條、鹽專賣法一七條ノ二)。或ハ何人ニ
テモ其ノ賣捌ヲ業トスル者ハ隨意ニ政府ヨリ買受クルコトヲ得シムルモノアリ(例、粗製樟腦
指定セル賣捌人ト雖モ其ノ營業ハ唯私ノ營業タルニ止マリ公ノ事業ヲ特許セラレタル者ニ非ズ、賣捌
人ガ政府ヨリ之ヲ買受ケタル上ハ其ノ完全ナル所有權ヲ取得セルモノニシテ、之ヲ一般消費者ニ販賣
スルハ其ノ所有權ニ基ク效果ニ外ナラズ、敢テ政府ヨリ其ノ特權ヲ與ヘラレタルニ因リ始メテ之ヲ販
賣シ得ルニ非ズ。唯國家ハ其ノ專賣權ノ效果トシテ一般ニ其ノ販賣ヲ禁止シ、賣捌人ノ指定ニ依リ其
ノ禁止ヲ解除スルト共ニ其ノ營業ニ付テハ專賣法上ノ制限ニ服セシメ、殊ニ其ノ賣捌價格ヲ制限スル
ナリ(例、煙草專賣法二三)。
條鹽專賣法二〇條)。

(六) 特別定價ノ賣渡及交付金 專賣貨物ヲ外國ニ輸出シ又ハ特殊ノ産業ニ使用スルモノニ付テハ

特ニ其ノ賣渡價格ヲ低減シ又ハ交付金ヲ交付スルコトアリ、特別定價ノ賣渡又ハ交付金ノ交付ハ輸出又ハ特別ノ産業ヲ保護獎勵スルノ目的ニ出ヅルモノニシテ、其ノ實質ニ於テハ納稅義務ノ條件附免除又ハ戻稅ニ相當ス。特別定價ヲ以テ賣渡サレタル貨物ハ專賣官廳ノ監督ノ下ニ置カレ、若シ其ノ條件ヲ充タザルトキハ、或ハ政府ガ之ヲ收納シ、或ハ追徵金ヲ納付セシム(煙草專賣法二五條乃至三〇條三三條鹽專賣法一九條特別用鹽規則)。

三 專賣官廳及專賣局作業特別會計

專賣ニ關スル事務ハ煙草、鹽及粗製樟腦樟腦油ノ三種ヲ通ジテ大藏大臣ノ管理ノ下ニ專賣局ノ掌所ナリ。專賣局ハ之ヲ東京ニ置ク。其ノ事務ヲ分掌セシムル爲メ地方專賣局ヲ置ク。專賣局ノ事業ニ屬スル收支ハ之ヲ特別會計トシ作業會計法(二三法)及專賣局作業會計規則(三三勅)ノ支配スル所タリ。

第五節 財政下命、財政強制

財政權ノ作用ハ其ノ目的ニ於テ收入ノ爲ニスルコトニ於テ警察權ノ作用ト異ナリト雖モ、其ノ手段ニ於テハ等シク權力的ノ作用ニシテ、其ノ作用ノ形式ヨリ觀テ之ヲ下命ト強制トニ分ツヲ得ベキコトハ警察ト異ナルコトナシ。一般的ノ下命ニ對シテ又實在ノ場合ニ其ノ命ゼラレタル義務ヲ免除スルコト

トアリ、之ヲ財政許可ト謂フ。財政下命ノ違反ニ對シテハ、一面ニ於テハ其ノ義務ノ強制執行ヲ爲スヲ得ベク、一面ニ於テハ法律ノ定ムル所ニ依リ之ヲ處罰ス。前者ヲ財政上ノ強制執行(國稅滯納處分)ト謂ヒ、後者ヲ財政罰ト謂フ。此等ノ總テニ通ジテ其ノ目的トスル所ガ專ラ國家ノ收入ニ在ルコトニ基キ、其ノ實質ニ於テ警察權ノ作用ト異ナル種々ノ特色ヲ有ス。其ノ特色ハ殊ニ強制執行、財政強制及財政罰ノ三ニ於テ顯著ナリ。

一 財政下命及財政許可

(一) 財政下命トハ國家ガ其ノ財政權ニ基キ人民ニ對シ特定ノ作爲不作爲給付又ハ受忍ヲ命ズル行爲ヲ謂フ。

財政下命ハ之ヲ積極的ノ下命ト財政禁止トニ分ツコトヲ得ベク、積極的ノ財政下命ハ租稅ノ賦課ヲ以テ、財政禁止ハ專賣權ニ基ク貨物ノ製造又ハ販賣ノ禁止ヲ以テ其ノ中心ト爲スト雖モ、租稅又ハ專賣ノ效果ヲ確實ナラシムル爲メ其ノ附隨的ノ作用トシテ作爲不作爲ノ義務ヲ命ズルモノ少カラズ。其ノ作爲ノ義務ヲ命ズルモノハ課稅物件及課稅標準ニ付キ眞實ヲ申告スル義務ヲ最モ重ナルモノトス。申告ノ義務ハ地租、所得稅、營業稅、相續稅、關稅等多クノ租稅ニ付テ認メラル。其ノ義務ハ納稅義務者ニ屬スルヲ普通ト爲スモ、法律ハ或ハ課稅物件ニ關係アル第三者ニ其ノ義務ヲ課シ若クハ官廳ノ質問ニ應フルノ義務ヲ負ハシムルモノアリ(例、所得稅法五條、六條乃至五八條)。課稅物件ヲ申告セシムルノ外消費稅ニ付テハ

或ハ課稅物件發生ノ原因ト爲リ得ベキ事實ニ付テモ申告義務ヲ負ハシムルモノアリ(例、砂糖消費稅物消人ニモ製造ヲ)。申告ノ義務ノ外尙納稅管理人ヲ定メテ之ヲ届出ヅル義務、帳簿記載ノ義務等此ノ例ニ屬スルモノ少カラズ。其ノ不作爲ノ義務ヲ命ズルモノハ關稅ノ通脫ヲ防グ爲ニ貨物ノ密輸入ヲ禁止シ、其ノ他租稅法及專賣法ニ依リ官廳ノ監督ノ下ニ置カレタル貨物ニ付キ其ノ所有權ノ行使ヲ制限シテ、法律ノ指定スル方法ニ依ルノ外其ノ使用收益處分ヲ禁止スル等ヲ重ナルモノトス。其ノ他貨物ノ輸出入ノ禁止又ハ制限ハ、財政ノ爲ニスルニ非ズシテ警察其ノ他ノ目的ノ爲ニスルモノ少カラズト雖モ、貨物ノ輸出入ノ監督ハ一般ニ稅關ノ權限ニ屬スルヲ以テ、此ノ種ノ輸出入禁止ニ付テモ亦稅關ヲシテ其ノ執行ノ任ニ當ラシメ、實際上財政禁止ト同様ノ取扱ヲ爲ス。

財政下命ノ警察下命ト異ナル法律上ノ特色トシテハ殊ニ三點ヲ舉グルコトヲ得。(イ)財政下命ハ法律ニ根據ヲ有スルモノナルコトヲ要ス。警察下命ガ法律ニ依ルノ外命令ヲ以テモ定メ得ベキニ反シテ財政下命ハ獨立ニハ命令ヲ以テ定メ得ベキ範圍ニ屬セズ、常ニ法律ニ依ルコトヲ要シ、命令ヲ以テハ法律ノ特別ノ委任ニ依ルノ外ハ、唯法律ノ執行ニ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得ルノミ。(ロ)財政下命ハ警察機關ノ關與スル所ニ非ズ、專ラ收稅官署、稅關又ハ專賣官署ノ權限ニ屬ス。國稅ノ徵收ハ府縣知事ノ權限ニモ屬セザルヲ以テ、府縣知事モ之ニ關與スルコトナシ。(ハ)財政下命ハ專ラ國家ノ收入ヲ目的トシ、社會ノ秩序ノ爲ニスルモノニ非ザルヲ以テ、租稅ノ滯納者ニ對スル強制執行及ビ關稅

法又ハ專賣法ノ違反者竝間接國稅犯則者ニ對スル外ハ、警察義務ニ於ケルガ如キ強制執行ノ手段ヲ認メザルヲ普通トス。例ヘバ所得稅法(二五)ニハ第三種ノ所得ニ付キ納稅義務アル者ニ所得金額申告ノ義務ヲ負ハシムト雖モ、其ノ申告ヲ爲サザル者ニ對シテモ其ノ履行ヲ強制スルノ途ナク、又之ニ對シ何等ノ罰則ヲモ定ムルコトナシ。概シテ謂ヘバ財政下命殊ニ直接稅ニ關スル下命ハ其ノ義務ノ強制力ニ於テ警察下命ヨリモ不確實ナリト謂フヲ得。

(二) 財政許可ハ財政權ニ依リ一般ニ禁止セラレタル作爲ヲ實在ノ場合ニ付キ其ノ禁止ヲ除キ適法ニ爲スコトヲ得シムル行爲ナリ。其ノ主要ナル實例ハ專賣法ニ在リ。煙草ノ耕作、鹽ノ製造、煙草及鹽ノ賣捌等專賣貨物ノ生産及販賣ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非ザレバ之ヲ爲スヲ許サズ。此等ノ許可ハ單ニ禁止ノ解除ニシテ、特權ノ設定ニ非ザルコトニ於テ警察許可ト性質ヲ同ジクス。唯其ノ禁止ハ警察上ノ理由ニ出ヅルニ非ズシテ、專賣權保護ノ目的ニ出デ、隨テ其ノ許否ヲ決スベキ審査ノ要點モ公益ニ障害アリヤ否ヤノ點ニ在ラズシテ、出願者ガ耕作、製造又ハ賣捌ニ適當ナリヤ否ヤ、需要供給ノ狀況ガ許可ヲ適當トスルヤ否ヤノ點ニ存ス。法律ハ時トシテ之ヲ指定(例、煙草賣捌人ノ指定)ト稱スルコトアリト雖モ、其ノ法律上ノ性質ニ於テハ等シク許可ニ外ナラズ。租稅法ニ在リテモ、關稅法ニ依レバ總テ貨物ノ輸出入ハ稅關ノ許可ヲ受クルコトヲ要シ(三一條三四)、其ノ他外國貿易船ノ出港(一三)外國貨物ノ運送(三九)等亦其ノ許可ヲ要ス。酒造稅法、麥酒稅法等ニモ酒類、酒精、酒精含有飲料、麥酒等

ヲ製造スル者ハ總テ收税廳ノ免許ヲ受クベキコトヲ定ム。何レモ財政許可ノ實例ナリ。此等ノ許可ガ自由裁量ノ行爲ナリヤ否ヤハ場合ニ依リ同ジカラズ。其ノ區別ノ在ル所ハ許可ヲ要スル行爲ガ本來自由ナルコトヲ本則トシ、之ヲ禁止スベキ特別ノ理由アル場合ニノミ之ヲ禁止シ得ルモノトセラルルヤ又ハ不自由ヲ以テ本則トシ、相當ノ理由アル者ニ限り之ヲ許シ得ベキモノトセラルルヤノ點ニ存ス。而シテ此ノ見地ヨリ謂ヘバ、貨物ノ輸出入ノ許可、酒造業ノ免許ノ如キハ羈束セラレタル行爲ニシテ煙草賣捌人ノ指定ノ如キハ自由裁量ノ行爲ト認ムベシ。

許可ニ相當スベキモノニ免除アリ。財政免除ハ財政權ニ依リ一般ニ命ゼラレタル作爲又ハ給付義務ヲ實在ノ場合ニ免除スル行爲ナリ。租税ノ免除ハ其ノ主要ナルモノニシテ、法律ハ之ヲ免租ノ許可ト稱ス。

二 財政上ノ強制執行(租税滞納處分)

納税義務者ガ其ノ義務ヲ履行セザル場合ニ於ケル行政上ノ強制執行ノ手段ニハ三種ノ場合ヲ分ツコトヲ要ス(一)國税徴收法ニ依ル滞納處分(二)特別ノ擔保ノ設定アル場合(三)關税法ニ依ル處分是ナリ。

(一) 國税徴收法ニ依ル滞納處分 一般ノ國税ニ付テハ國税徴收法ニ依リ強制執行ヲ爲スコトヲ得。其ノ手續ハ三段ニ分タル。

(イ)督促 國税ノ納期限ヲ過ギ其ノ税金ヲ完納セザル者アルトキ(納税保證人アルトキハ保證人ニ於テモ税金ヲ完納セザルトキ)ハ收税官吏ハ期限内ヲ指定シ之ヲ督促ス(九條)。國税ノ徴收ガ市町村ニ委任セラレタルモノニ在リテモ、其ノ督促ヲ爲スノ權ハ收税官吏ニ屬ス。督促ハ新ニ義務ヲ命ズル行爲ニ非ズシテ唯其ノ履行ヲ催告スル行爲ナリ。其ノ形式ハ書面ヲ以テスルコトヲ要シ(一施一條)之ヲ納税義務者(又ハ納税(管理)人)ニ送達ス(四七條)。督促ハ滞納處分ノ前提トシテ缺クベカラザル行爲ニシテ、先ヅ之ヲ爲スニ非ザレバ滞納處分ヲ行フヲ得ズ。

唯特別ノ例外トシテ、法律ガ未ダ納期ノ到ラザル確定ノ納税義務ニ付徴收ヲ許セル場合(四條ノ一、施八條、酒精及酒精含有飲料稅法七條、麥酒稅法五條等)ニ於テハ督促ヲ要セズシテ直ニ滞納處分ヲ行フコトヲ得。督促ヲ爲シタルトキハ督促手数料(金拾)及納期限ノ翌日ヨリノ延滞金(百圓ニ付一日三錢)ヲ徴收ス(九條二項施一、一一條ノ二)。

租税ノ徴收ガ私人ニ委任セララルモノニ在リテハ徴收受任者ニ對シ納税義務者ニ對スルト同一ノ方法ヲ以テ強制執行ノ手段ヲ取ルコトヲ得(所得稅法六八條、資本利子稅法一、六條、取引所稅法一〇條一二條)。

(ロ)財産差押 納税義務者ガ督促ヲ受ケテ指定期限迄ニ債務ノ辨濟ヲ爲サザルトキ又ハ督促ヲ要セザル場合ニ於テハ納税ノ告知ヲ受ケテ之ヲ完納セザルトキハ義務者ノ財産ノ差押ヲ爲ス(二〇條以下施)。差押ヲ爲スノ權ハ收税官吏ニ屬ス。收税官吏ガ其ノ差押ヲ爲スニハ命令ヲ受ケタル官吏タル證票ヲ示スコトヲ要ス。差押ヘ得ベキ財産ノ種類ニ關スル制限、差押ノ方法及其ノ效果ハ民事訴訟法ニ依ル差押ニ類ス。財産ノ種類ニ付テハ法律ハ差押ノ目的トナルヲ得ザル財産(一六條)及ビ他ニ充分ナル物件ヲ

提供スルトキハ義務者ノ希望ニ依リ差押フベカラザル財産(一七)ヲ定ム。前者ノ差押ハ法律上ノ不能ニシテ無効ナリ、後者ノ差押ハ當然無効ナルニ非ザレドモ違法處分ナリ。此等ノ制限ヲ除クノ外如何ナル財産ヲ差押フルカハ收税官吏ノ自由ノ選擇ニ依ル。差押フベキ財産ノ數量ニ付テハ法律ニハ別段ノ制限ヲ爲サズト雖モ、其ノ價格ガ滞納金額ト相當ノ比例ヲ保ツヲ要スルコトハ當然ノ制限ト認メザルベカラズ、不釣合ニ高價ノ財産ヲ差押フルハ違法ナリ。差押ノ方法ニ付テハ(イ)動産及有價證券(收税官吏ノ占有シ又ハ封印ヲ施シテ保管セシム)(ロ)不動産及船舶(差押ノ登記ヲ要ス、鑛業權漁業權ノ差押モ蓋シ之ニ準ズベキモノナルベシ)(ハ)債權(債務者ニ通知ス)(ニ)其ノ他ノ權利(權利者ニ通知ス)ノ差押ニ付キ各其ノ定アリ。差押ヘラレタル權利ハ其ノ效果ヲ停止セラレ、其ノ效力ハ其ノ天然及法定ノ果實ニ及ブ。收税官吏ハ差押ヲ行フニ當リ家宅搜索ノ權ヲ有ス。差押フベキ財産ノ價格ガ督促手数料、延滞金、滞納處分費及ビ國稅ニ先チ控除スベキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滞納處分ノ執行ヲ中止ス、其ノ中止ニ依リ納稅義務ハ消滅ス。

財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滞納者又ハ第三者ヨリ其ノ債務ヲ完納スルトキハ其ノ差押ヲ解クコトヲ要ス(七條)。但シ法律上ハ債務ノ完納ニ依リ差押ガ當然效力ヲ失フモノト解スベシ。

(ハ)賣却 差押ヘタル財産ハ通貨ヲ除クノ外之ヲ公賣ス。公賣ヲ爲スニハ之ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ十日ヲ過ギタル後之ヲ執行ス。公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ。但シ財産ノ見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラザル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得。賣却ニ依リテ

得タル代金及ビ差押ヘタル通貨ハ督促手数料、延滞金、滞納處分費及ビ税金ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ交付ス。其ノ不足ナル場合ニ於テモ滞納者ノ債務ハ滞納處分ノ結了ニ依リテ消滅ス(二四條乃至三一條)。

國稅徵收法ニ依ル滞納處分ハ本來國稅ノ滞納ニ適用セラルルモノナリト雖モ、國稅以外ノ金錢給付義務ニ付テモ法律ハ國稅滞納處分ノ例ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ベキコトヲ認メタルモノ多シ(國稅徵收法ニ準用スルコトヲ定ム、法律ガ國稅徵收法ヲ準用スルコトヲ定メタルハ其ノ本來ノ性質如何ヲ問ハズ裁判管轄ノ上ニ於テハ之ヲ民事事件タラシメザルノ趣意ヲ示スモノナリ)。

(二) 特別擔保ノ設定アル場合 相續稅、酒造稅、砂糖消費稅等特種ノ租稅ニ付テハ法律ハ特別ノ擔保ノ設定ヲ必要ナラシムルモノアリ(前出六)。特別ノ擔保ハ或ハ人的ノ保證ナルコトアリ、或ハ物的ノ保證ナルコトアリ。人的ノ保證ノ場合ニ於テハ納稅義務者ニ對シ滞納處分ヲ行ヒ、仍税金ニ不足アル場合ニ納稅保證人ニ對シテ滞納處分ヲ行フコトヲ得(例、相續稅法施行規則二一條三、酒造稅法施行規則三一條三項)。物的ノ保證ノ場合ニ於テハ擔保物ヲ公賣シテ税金ヲ徵收シ仍不足アル場合ニ於テハ其ノ不足額ニ對シ一般法ニ依ル滞納處分ヲ爲スコトヲ得(酒造稅法一五條、相續稅法施行規則二一條、砂糖消費稅法四條二項等)。

(三) 關稅法ニ依ル強制執行 關稅及噸稅ニ關シテハ原則トシテ國稅徵收法ヲ適用セズ。噸稅ニ付テハ別段ノ強制執行ノ定ナシ、關稅ニ付テハ關稅法ニ其ノ特別ノ方法ヲ定ム。

關稅義務ニ付テハ常ニ特別ノ擔保物ノ定アリ。關稅ノ條件附免除ヲ受ケ、其ノ條件ノ成否未定中ニ在ルモノニ付テハ、特別ノ擔保ヲ提供セシムルヲ通常トシ、其ノ他ノ一般關稅ニ付テハ關稅未納ノ貨物ヲ以テ法律上當然ニ關稅ノ擔保ト爲ス。特別ノ擔保ヲ提供セシムル場合ニ於テハ、其ノ擔保ハ金錢又ハ國債ニ限り、若シ強制執行ノ必要ヲ生ズルトキハ、國債ハ公告ノ後之ヲ公賣シ、金錢ハ直ニ之ヲ債務ニ充當シ、殘金アルトキハ之ヲ還付ス。擔保ノ提供ナキ場合ニ於テハ、稅關ハ關稅未納ノ貨物ヲ收容スルノ權ヲ有ス。貨物ノ收容ハ其ノ效果ニ於テ差押ニ類ス、其ノ貨物ヲ自己ノ占有ニ移シ法定ノ條件ノ下ニ之ヲ公賣シ得ルノ權利ヲ生ズルモノナリ。貨物收容ノ日ヨリ六箇月以内ニ收容解除ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ之ヲ公告シ、公告ノ日ヨリ一箇月以内ニ仍申告ヲ爲ス者ナキトキハ貨物ヲ公賣ニ付シ關稅、敷料其ノ他其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充テ、殘金アルトキハ之ヲ貨主ニ交付ス。何レノ場合ニ於テモ關稅ノ徵收ハ唯其ノ擔保物ヲ以テ充當シ得ベキ限度ニ限ラレ、其ノ不足ナル場合ニ於テモ更ニ他ノ財産ヲ差押フルコトヲ許サズ(關稅法五條六條四、六條乃至五二條)。

三 財政強制

財政強制トハ財政ノ目的ノ爲ニ實力ヲ以テ人民ノ自由又ハ財産ニ侵害ヲ加ヘ以テ必要ナル特定ノ狀態ヲ實現スル作用ヲ謂フ。財政上ノ強制執行ニ付テモ家宅搜索、財産差押等ニ付テハ實力施用ノ必要アルコトハ右ニ述べタル如シ。此ノ場合ヲ除クノ外、財政強制ノ行ハルル場合ニハ直接強制ト即時強

制トヲ分ツコトヲ得。財政上ノ直接強制トハ財政下命ニ依リテ特定ノ義務ノ既ニ成立セルコトヲ前提トシ、其ノ義務ヲ履行セザル者ニ對シ實力ヲ以テ強テ其ノ義務ヲ行ハシムルヲ謂ヒ、財政上ノ即時強制トハ義務ノ不履行ヲ以テ前提ト爲サズ、財政上ノ必要ノ爲ニ收稅官吏ガ進ミテ身體家宅又ハ財産ニ實力ヲ加フルヲ謂フ。何レモ財政ノ目的ノ爲ニ實力ヲ施用スルモノナルコトニ於テ性質ヲ同ジクス。財政強制ハ主トシテ唯關稅、間接國稅及專賣ニ付テ認メラル。

(一) 財政強制ノ適用ノ最モ著シキハ關稅ニ付テナリ。稅關官吏ハ貨物ノ輸出入及船舶ノ出入ニ付キ取締ノ任ニ當ルモノニシテ、此ノ目的ノ爲ニスル稅關官吏ノ職權ハ頗ル警察權ノ作用ニ類シ、隨テ或ハ之ヲ關稅警察ト稱スルコトアリ。其ノ作用ハ犯則ノ疑アル場合ニ於テ身邊ヲ搜索スルコト(關稅法八條)犯則者證人參考人ヲ訊問スルコト(關稅法八六條)ノ外ニハ、主トシテ船車、倉庫又ハ貨物ニ付テノミ行ハル。船車ノ出發ヲ差止メ、其ノ進行ヲ停止シ、船車倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ、搜索ヲ爲シ、貨物ヲ檢査若クハ封鎖シ、又ハ船車倉庫其ノ他ノ貨物ノ藏置場ヲ封鎖シ、犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルベキ物件ヲ差押フル等ハ稅關官吏ニ許サル重ナル作用ナリ。就中、船舶ノ進行停止ノ爲ニハ稅關長ハ海軍ノ援助ヲ求ムルコトヲ得ベク、海軍艦船長ハ其ノ請求ニ依リ進行停止ノ命令ヲ爲シ、若シ其ノ命令ニ從ハザルトキハ兵力ヲ用キルコトヲ得。臨檢搜索ノ爲ニハ稅關官吏ハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得(關稅法五三條乃至六〇、八四條乃至九三條)。

(二) 内國税ニ關シテハ一般ニハ滯納處分ノ場合ノ外強制權ヲ認ムルノ範圍ハ甚ダ限ラレ、殊ニ直接税ニ付テハ一般ニ家宅搜索ノ如キ權力ヲ認メズ(唯地租ニ付テハ土地ヲ検査スルノ權、營業收益税ニ付テハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査スルノ權ヲ認ム、地租法八六條、營業收益税法二五條)。之ニ反シテ酒税其ノ他ノ消費税及ビ煙草鹽等ノ專賣ニ在リテハ、脱税又ハ專賣權侵害ノ防止ノ爲ニスル制限ハ頗ル嚴重ニシテ、收税官吏又ハ專賣官吏ハ製造場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ、器具器械帳簿其ノ他ノ物件ヲ検査シ、必要アルトキハ封印ヲ施シ、犯則事實ヲ證明スベキ物件ヲ差押へ、時トシテハ貨物ノ運搬ヲ差止ムル等ノ權ヲ認メラル(關稅國稅犯則者處分法、各種ノ專賣法)。

四 財政罰

財政下命ニ違反スル行爲ニシテ處罰ニ該當スルモノヲ財政犯ト謂ヒ、財政犯ニ對スル制裁トシテ科セラルル罰ヲ財政罰ト謂フ。財政犯ハ之ヲ逋脱犯ト財政秩序犯トニ分ツコトヲ得ベシ。逋脱犯ハ詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ租税ヲ逋脱シ戻税ノ交付ヲ受ケ、又ハ專賣權ヲ侵害シテ不正ノ利得ヲ爲スノ罪及ビ其ノ未遂罪ヲ謂ヒ、財政秩序犯ハ收入ヲ確保スルガ爲ニスル各種ノ財政下命ニ違反スル罪ヲ謂フ。逋脱犯ハ直接ニ國家ノ收入ヲ減損スル行爲ナルニ反シテ、秩序犯ハ收入ヲ減損スル虞アル行爲タルニ止マルノ差アリ。

財政罰ハ刑法ニ定ムル所ノ刑罰ト刑名ヲ同ジクシ、隨テ形式的ノ意義ニ於テハ刑罰ノ一種ナリト雖モ、一般ノ刑罰ハ社會公共ノ秩序ヲ保護スル爲ニ存シ、犯人ノ反社會性ヲ罰スルコトヲ主眼トスルニ

反シテ、財政罰ハ國家ノ收入ヲ保護スル爲ニ存シ、收入ヲ減損シ又ハ減損スル虞アル行爲ヲ罰スルコトヲ主眼トスルモノナルヲ以テ、此ノ性質ノ差異ニ基キ財政罰ハ一般刑罰ト異ナル種々ノ特色ヲ有ス。
(一) 財政罰ハ稀ナル例外(國稅徵收法三三條ハ滯納處分ニ關スル詐僞藏匿罪ニ懲役刑ヲ科セリ)ヲ除クノ外殆ド總テノ場合ニ於テ財産刑ニ限り、即チ罰金、科料及沒收ヲ以テ其ノ刑ト爲ス。蓋シ財政罰ガ專ラ收入保護ヲ目的トスルノ性質ニ應ズルナリ。殊ニ逋脱犯ニ在リテハ其ノ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル金額ヲ標準トシ、之ニ若干倍シタル金額ヲ以テ罰金又ハ科料ノ額トスルヲ通常トス。財政犯ノ特色ハ此ノ場合ニ於テ最モ著シ。

(二) 財政罰ハ形式上ハ刑罰ナルヲ以テ法律ニ別段ノ規定ナキ限り原則トシテ刑法總則ノ適用ヲ受クベキモノナリト雖モ、法律ハ多クノ場合ニ於テ其ノ例外規定ヲ設ケ、犯罪ノ不成立、併合罪、累犯加重、酌量減輕等ニ關シテ刑法總則ノ例ニ依ラザルモノト爲セリ。(イ) 財政犯ノ成立ニハ犯意ヲ要素トセズ、形式上法律違反ノ行爲アレバ即チ之ヲ罰スルヲ普通トス。即チ財政犯ハ概シテ形式的犯罪ナリト謂フコトヲ得。(ロ) 財政犯ハ自然人ノミナラズ法人モ其ノ主體タルコトヲ得ベク(三三法、(ハ)律五二)。家族同居人雇人其ノ他ノ從業者ノ行爲ニ付テハ營業主ヲ罰シ、(ニ) 未成年者又ハ禁治產者ガ其ノ責任者ナル場合ニハ其ノ法定代理人ヲ罰ス。(ホ) 併合罪、累犯、減輕ニ關スル刑法ノ規定モ多クハ財政犯ニ適用セラルルコトナシ。

(三) 財政犯殊ニ逋脱犯ニ付テハ自首シタル者ハ其ノ罪ヲ問ハザルモノト爲スノ例多シ。是モ收入

ノ安全ガ處罰ノ目的タルコトニ基ク結果ナリ。

(四) 財政罰ヲ科スルノ手續ハ原則トシテ刑事訴訟法ニ依リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ宣告スト雖モ、唯間接國稅(酒造稅、酒精及酒精含有飲料稅、出港稅、麥酒稅、砂糖消費稅、印紙稅、骨牌稅、織物消費稅、取引稅)ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法(三三法)ノ規定アリ、其ノ科刑ノ手續ニ付特別ノ原則ヲ設ク。其ノ他關稅噸稅及專賣ニ付テモ略同様ノ定アリ。此等ノ規定ノ主眼トスル所ハ(イ)收稅官吏、稅關吏又ハ專賣官吏ニ司法警察官ニ準ズベキ犯罪搜索ノ權ヲ與ヘタルコト(ロ)犯罪ノ證據充分ナリト認ムル場合ニ於テ稅務署長、稅關長、地方專賣局長ガ科スベキ罰ヲ決定シテ之ヲ犯則者ニ通告スルノ權アルコトヲ認メタルコト(ハ)犯則者ガ其ノ通告ニ服シ科セラレタル罰ヲ履行シタルトキハ其ノ處分ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ生ジ、一事不再理ノ原則ガ適用セラルルコト(ニ)若シ法定ノ期間内(通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以内)ニ之ヲ履行セザルトキハ當該官廳ハ之ヲ告發スベキコトニ在リ。通告處分ノ趣意トスル所ハ成ルベク簡易ニ事ヲ處理セントスルニ在リ。其ノ法定解除條件附行爲ナルコトハ警察犯ノ即決處分ニ同ジク、唯此ノ場合ニハ犯則者ガ其ノ命セラレタル所ヲ履行セザルニ因リ之ヲ檢事ニ告發スルコトヲ其ノ解除條件ト爲スモノナリ。

第六節 地方財政

地方自治團體ハ國家ノ監督ノ下ニ於テ其ノ自治權ニ依リ自己ノ會計ヲ經理シ、財産ヲ管理シ及ビ法律ノ許容スル範圍ニ於テ其ノ所屬人民ニ對シ財政權ヲ行フコトヲ得。内地ニ於ケル地方團體ハ府縣及市町村ノ外尙北海道、府縣組合、市町村組合及ビ市町村内ノ區アリト雖モ、北海道ハ殆ド府縣ト同一ノ規定ニ從ヒ、府縣組合ニ付テハ府縣、市町村組合ニ付テハ市町村ニ關スル規定ガ準用セラレ、區ハ全ク獨立ナル課稅權ヲ有セザルモノナルヲ以テ此等ハ凡テ之ヲ略シ、以下專ラ府縣及市町村ニ付テ其ノ大要ヲ論ズ。

一 地方團體ノ豫算

地方團體ノ歲入歲出ニ付テモ豫算ヲ作り、之ニ從ヒテ執行スルコトヲ要スルハ國ノ會計ニ同ジ。然レドモ地方團體ノ豫算ハ國ノ豫算トハ著シク其ノ性質ヲ異ニシ、又多クノ點ニ於テ其ノ制度ノ原則ヲ異ニス。

(一) 國ノ豫算ハ議會ガ政府ニ對シテ豫メ支出ヲ承認スル意思表示ナルコトヲ以テ主タル性質ト爲シ、隨テ其ノ法律上ノ效力ハ專ラ歲出ニ存シ、歲入豫算ハ唯其ノ財源トシテノ歲入金額ヲ豫測スルニ止マルモノナルニ反シテ、地方團體ノ豫算ハ(イ)單ニ府縣會又ハ市町村會ガ府縣知事又ハ市町村長ニ對シテ爲ス承認ノ意思表示タルニ止マルモノニ非ズ。一方ニ於テハ府縣會又ハ市町村會ハ府縣又ハ市町村ノ意思機關ニシテ、其ノ議決ハ直ニ府縣又ハ市町村ノ意思トシテノ效力ヲ有スルト共ニ、一方ニ

於テハ其ノ議決ハ國家ノ監督權ニ服シ、監督權ニ依リ制限ヲ受クルコトヲ免レズ。其ノ議決ニ依リ又ハ監督權ニ依リ成立シタル豫算ハ、單ニ府縣會又ハ市町村會ノ機關意思タルニ止マルモノニ非ズシテ團體トシテノ府縣又ハ市町村ノ意思トシテノ效力ヲ有ス。約言スレバ、地方團體ノ豫算ハ地方團體ガ其ノ歳入歳出ヲ豫測シ之ニ從ヒテ歳入歳出ヲ行フベキコトヲ定メタル意思表示ナリ。(ロ)地方團體ノ豫算ハ歳入ニ關シテモ單ニ歳入金額ノ見積タルニ止マルモノニ非ズ。國ノ租稅ニ關シテハ憲法ハ法律ヲ以テ定ムルコトヲ要件トシ、租稅外ノ收入ニ付テモ總テ法令ニ從ヒ徵收シ又ハ收納スルモノニシテ豫算ハ單ニ其ノ金額ノ豫測タルニ止マルニ反シテ、地方團體ノ租稅ニ付テハ必ズシモ條例ヲ以テ其ノ稅率ヲ定ムルヲ要スルノ制ナク、毎年度ノ必要ノ歳出額ニ應ジ、豫算ヲ以テ一年毎ニ其ノ稅率ヲ定ムルヲ例トス。人民ハ豫算ノ定ムル率ニ從ヒテ納稅ノ義務ヲ負フモノニシテ、此ノ限度ニ於テ地方團體ノ豫算ハ人民ニ對シ法規タル性質ヲ有スルモノナリ。

(二) 豫算ハ一會計年度毎ニ府縣ニ在リテハ府縣知事、市町村ニ在リテハ市町村長之ヲ調製シ、前者ハ府縣會、後者ハ市町村會ノ議決ヲ經テ決定セラル。其ノ發案權ハ專ラ府縣知事又ハ市町村長ニ屬スルヲ以テ府縣會又ハ市町村會ニ於テ新ニ款項ヲ加ヘ又ハ金額ヲ増加スルノ決議ヲ爲スヲ得ザルコトハ國ノ議會ト同ジ。

然レドモ豫算ニ關スル地方議會ノ議決ハ國ノ豫算ニ關スル帝國議會ノ議決ノ如キ無條件ナル效力ヲ

有スルモノニ非ズシテ國家ノ監督權ニ依リ其ノ效力ヲ制限セラル。(イ)認可權ノ留保 豫算中特殊ノ事項ニ付テハ法律ハ特ニ監督官廳ノ許可ヲ受クルヲ要スルモノト爲スモノアリ。起債、特別稅ノ賦課、制限外課稅、使用料、手数料等其ノ例ナリ。此等ノ事項ニ付テハ其ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ豫算ハ其ノ效力ヲ生ズルコトヲ得ズ。(ロ)理事機關ノ申請ニ基ク指揮 豫算ノ議決ガ收支ニ關シ執行スル能ハザルモノナルトキ又ハ義務費其ノ他必要避クベカラザル費用ヲ削減シ又ハ減額シタルトキハ府縣知事又ハ市町村長ハ之ヲ再議ニ付シ又ハ付セズシテ監督官廳ノ指揮ヲ請フコトヲ得(府縣制八三條三項、市制九〇條三項、町村制七四條)。此ノ場合ニ於テハ監督官廳ノ指揮ニ依リ其ノ議決ニ拘ラズシテ豫算ヲ定ムルコトヲ得(舊法ニ知事ガ廣ク内務大臣ノ指揮ヲ得テ原案ヲ執行スルノ權アルコトヲ認メタルモ、昭和四年ノ改正ニ依リ之ヲ改メタリ)。(ハ)強制豫算 ハ申請ヲ待タズ監督官廳ノ側ヨリ進ミテ豫算ニ修正變更ヲ加フルモノニシテ、市町村ニ付テノミ認メラル。市町村ノ豫算ハ議決後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告スルコトヲ要シ(市制一三七條、町村制一七七條)而シテ府縣知事ハ其ノ豫算中ニ法律上支出ノ義務アル費用ヲ載セザル場合ニ於テハ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルノ權ヲ有ス(市制一三三條一項、町村制一四三條一項)。

(三) 豫算ノ編成ニ關スル原則ハ大體ニ於テ國ノ豫算ニ類ス。(イ)地方團體ノ會計年度ハ國ノ會計年度ニ同ジ。(ロ)一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ、之ヲ豫算ニ編入ス、即チ總計豫算主義ヲ取ル。(ハ)一般會計ノ外特別會計ヲ設クルヲ得ベク、特別會計ニ屬スル歳入歳出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製ス。(ニ)數年ニ亘ル費用ニ付テハ繼續費ヲ設クルコトヲ得。(ホ)豫算外支出又ハ豫算超過支出

ニ充ツル爲豫備費ヲ設クルコトヲ要ス。但シ豫備費ハ府縣會又ハ市町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ズ。特別會計ニハ豫備費ヲ設ケザルコトヲ得。(一)豫算ハ歲入歲出共ニ之ヲ經常臨時ノ二部ニ別チ且ツ各部ヲ款項ニ區別スルヲ要スルコトハ國ノ豫算ニ同ジト雖モ、國ノ豫算ニ在リテハ各項ノ金額ノ流用ヲ許サザルニ反シテ、地方團體ニ在リテハ各款ノ金額ガ彼此流用ヲ許サザルニ止マリ、各項ノ金額ハ府縣ニ在リテハ府縣參事會、市町村ニ在リテハ市町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得セシム(府縣制施行規則五〇條、市町村制施行規則五三條)。

(四) 豫算議決ノ時期ハ府縣ニ在リテハ年度開始前、市町村ニ在リテハ遅クモ年度開始ノ一月前トス。市町村ニ於テ特ニ其ノ議決ノ時期ヲ早クセルハ監督官廳ノ審査期間ノ餘裕ヲ置ク必要アルニ因ル。豫算ガ再議ニ付セラレ又ハ監督官廳ニ依リテ變更セラルル場合ニ於テハ時トシテハ年度開始後ニ至リテ決定セラルルコトアリ得ベシト雖モ、其ノ決定ニ至ル迄ハ前ニ議決シタル豫算ガ假ノ效力ヲ有ス。豫算ノ議決ガ全ク成立セザル場合ニ於テハ理事機關ノ具申ニ依リ監督官廳ニ於テ之ヲ決定スルノ權ヲ有シ(府縣制八五條、市九一條、市七五條)。臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ理事機關ガ專決處分ノ權ヲ有ス(府八六、市九二、町七六條)。故ニ地方團體ニ於テハ豫算ノ不成立ヲ生ズル場合ナク、隨テ國ノ豫算ニ於ケル如ク前年度ノ豫算ヲ施行スルノ必要ヲ生ズルコトナシ。

國ノ豫算ニ在リテハ追加豫算ノ外全ク豫算ノ更正ヲ認メザルニ反シテ、地方團體ノ豫算ハ其ノ成立

後ニ於テモ最初ノ議決ト同一ノ手續ヲ以テ之ニ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得(府一九條、市一三四條、町一四條)。若シ豫備費ノ定額ヲ以テ豫算外支出又ハ豫算超過支出ノ必要ヲ充タス能ハザルトキハ、必ズ其ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ要ス。

二 地方團體ノ會計

(一) 收支ノ執行 ニ付キ命令機關ト出納機關トノ區別アルコトハ地方團體ニ於テモ國ノ會計ニ同ジ。收入支出ヲ命令スル機關ハ常ニ理事機關ニシテ、即チ府縣ニ在リテハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル職員(府縣制施行規則五一條)、市町村ニ在リテハ市町村長(又ハ其ノ事務ヲ分掌スル者若クハ代理者)又ハ監督官廳(市町村長ガ其ノ職ヲ行ハザル場合ニ限ル)ナリ。其ノ命令ニ基キ現金出納ノ任ニ當ル者ハ府縣ニ在リテハ府縣出納吏(府縣制七六條)及ビ府縣金庫ニシテ、市町村ニ在リテハ市町村收入役、副收入役又ハ區收入役、區副收入役(三大都市ニ限ル)ナリ。市町村ニ於テモ市町村金庫ヲ置クコトヲ得(市町村制施行規則五八條)。府縣出納吏ト市町村收入役トハ頗ル其ノ法律上ノ地位ヲ異ニス。府縣出納吏ハ知事ガ官吏又ハ吏員中ヨリ之ヲ命ズルモノニシテ知事ノ命令ニ服從スルノ義務ヲ負ヒ、其ノ命令ヲ審査スルノ權ナク、唯現金ノ出納保管ノ責ニ任ズルノミ。市町村收入役ハ之ニ反シテ市町村長ニ對シテ獨立ノ地位ヲ有シ、其ノ支拂命令ヲ審査スルノ權アリ、其ノ命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク且ツ豫備費支出、費目流用其ノ他ノ財務ニ關スル規定ニ依リ支出スルヲ得ザルモノナルトキハ其ノ支拂ヲ爲スベカラザルノ責任ヲ有ス(市一三九條、町一一九條)。金庫事務ヲ取扱ハシムベキ銀行ハ府縣

ニ在リテハ知事、市町村ニ在リテハ市町村會之ヲ定ム。銀行ハ現金ノ出納保管ニ付キ地方團體ニ對シ
責ニ任ズルモノニシテ、其ノ責任ニ付キ擔保ヲ提供スルノ義務ヲ負フ。

以上ノ原則ニ對スル例外トシテ(イ)特別ノ事情アル町村ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村長又ハ
助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得(町制六條七項)。此ノ場合ニ於テハ市町村ノ收支ニ付キ命
令機關ト出納機關トガ相分離セラレザル變例ヲ生ズ。(ロ)市ニ於テハ其ノ公金ノ受拂ニ付キ郵便振替
貯金ノ法ニ依ルコトヲ得(市町村制施行規則五六條大正九選令一五市公)。市町村ニ於テ收納シタル府縣稅ヲ府縣
金庫ニ納入スル場合ニ於テモ亦同ジ(四四選令三九)。

地方團體ノ會計ニ付テモ一定ノ出納整理期間ノ定アリ。府縣及市町村ノ何レニ於テモ各年度ノ出納
ハ年度經過後二ヶ月ヲ限トシ、即チ五月三十一日ヲ以テ之ヲ閉鎖ス(市制一四二條町制一二二條)。
(二) 決算及出納ノ検査 決算ハ市町村ニ在リテハ出納閉鎖後一ヶ月以内(六三三)ニ收入役之ヲ調
製シテ市町村長ニ提出シ、市町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ市
町村會ノ認定ニ付ス(市一四二條)。府縣ニ在リテハ知事之ヲ調製シテ府縣參事會ノ審査ニ付シ、翌々年
ノ通常會ニ於テ之ヲ府縣會ニ報告ス(府縣制一)。其ノ何レニ在リテモ決算ハ之ヲ監督官廳ニ報告スルコ
トヲ要ス。

出納ノ検査ヲ爲スノ權ハ理事機關及議決機關ノ雙方ニ屬ス。(イ)市町村ニ在リテハ市町村長ハ毎月

例日ヲ定メテ出納ノ検査ヲ爲シ、且ツ每會計年度少クトモ二同名譽職市參事會員二人以上又ハ町村會
議員二人以上ノ立會ヲ以テ臨時検査ヲ爲ス(市一二四一條)。市町村會モ亦或ハ書面ニ付キ或ハ實地ニ付キ
出納検査ヲ爲スノ權ヲ有ス、其ノ實地検査ヲ爲ス場合ニ於テハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ市町村長又ハ
其ノ指命シタル吏員立會ノ上之ヲ爲ス(市四五條)。市町村金庫ヲ設ケタル場合ニ於テハ收入役ハ定期及
臨時ニ金庫ノ現金及帳簿ヲ検査ス(市町村制施行規則六三條)。(ロ)府縣ニ在リテハ府縣知事ハ検査員ヲシテ定期及
臨時ニ金庫ノ現金帳簿ヲ検査セシメ、又毎年少クトモ一回府縣出納吏ノ保管ニ屬スル現金帳簿ヲ検査
セシム(府縣制施行規則五六條六三條)。議決機關ノ検査權ハ府縣參事會ニ屬シ、參事會ハ委員ヲ選舉シ、府縣知事又ハ
其ノ指命シタル官吏若クハ吏員ノ立會ヲ以テ其ノ出納ヲ検査セシムルコトヲ得(府縣制六九條)。

(三) 地方債 地方團體ハ唯法律ノ認ムル限度ニ於テノミ起債ノ權能ヲ有ス。蓋シ起債ハ其ノ性質
ニ於テハ私法的法律行為ニシテ、而シテ地方團體ハ原則トシテハ其ノ目的ノ範圍内ニ於テ一般ニ法律
行為ヲ爲スノ能力ヲ有スルモノナリト雖モ、起債ハ將來ニ負擔ヲ遺シ、地方團體ノ財政ノ基礎ヲ危ク
シ、延テ國ノ財政及一般ノ金融ニモ影響スベキモノナルヲ以テ、法律ハ特ニ其ノ權能ヲ限定セルモノ
ニシテ、法律ガ別段ノ規定ヲ爲サザル地方團體ハ全ク起債權ヲ有セザルモノト認ムベシ。

府縣及市町村ニ對シテハ法律ハ唯三ノ場合ヲ限リ起債權ヲ認ム。(イ)其ノ負債ヲ償還スルニ必要ナ
ルトキ、(ロ)永久ノ利益ト爲ルベキ事業ヲ爲スニ必要ナルトキ、(ハ)天災事變等ノ災害善後ノ爲ニ必

要ナルトキ是ナリ。地方團體ノ起債ニハ地方議會ノ議決ヲ要スルノ外内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス、起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付キ亦同ジ(府一七、一三四、市一三二、一六六、町一一二、一四六條)。

一時ノ現在金ノ不足ヲ充タスガ爲ニ一時借入金ヲ爲シ當該年度内ノ收入ヲ以テ償還スルモノニ付テハ監督官廳ノ許可ヲ要セザルノミナラズ、府縣及市ニ在リテハ府縣會及市會ノ議決ヲモ經ルヲ要セズ、府縣參事會市參事會ノ議決ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得(上同)。

(四) 時効 地方團體ノ債權債務ニ關スル時効ハ國ノ債權債務ノ例ニ依ル(府一一六條三項、市一三一條五項、町一一一、一四六條)。

三 地方團體ノ財産

地方團體ノ財産ニモ行政財産ト收益財産トヲ分ツヲ得ベク、二者其ノ法律上ノ地位ヲ異ニスルコトハ國ノ財産ニ於ケルト同ジ。地方團體ニ特別ナルモノハ基本財産及積立金穀ノ制ナリ。

基本財産ノ制ハ特ニ市町村ニ付テ認メラル。基本財産トハ唯果實ノミヲ費消シ元本ハ之ヲ蓄積シ利殖スルガ爲ニ管理スル財産ヲ謂フ。法律ハ市町村ガ成ルベク財産收入ヲ以テ其ノ經費ニ充ツベキコトヲ庶幾シ、市町村ノ總テノ收益財産ハ之ヲ基本財産トシテ維持スルノ義務アルコトヲ定ム(市一〇九、町八九條)。

基本財産ノ管理及處分ハ監督官廳ノ許可ヲ要ス(市一六七條、町一四七條)。基本財産ニハ普通基本財産ト特別基本財産トノ別アリ。前者ハ其ノ果實ヲ一般歳出ニ充ツルコトヲ得ベキモノヲ謂ヒ、後者ハ特定ノ目的ノ

爲ニノミ其ノ果實ヲ支出スル目的ヲ以テ蓄積スルモノヲ謂フ。前者ハ市町村ガ義務トシテ設クベキモノニシテ、後者ハ其ノ任意ニ設クル所ナリ。

積立金穀ハ金錢、米穀、有價證券又ハ其ノ他ノ財産ヲ特定ノ目的ノ爲ニ蓄積スルモノナルコトニ於テ特別基本財産ニ類スト雖モ、唯基本財産ハ果實ノミヲ消費シ元本ヲ消費セザルコトヲ本旨トスルモノナルニ反シテ、積立金穀ハ果實ト共ニ元本ヲモ其ノ目的ノ爲ニ支出シ得ベキコトヲ豫期セラルルモノナルコトニ於テ異ナリ。積立金穀ヲ設クルコトハ府縣市町村ノ何レニ於テモ原則トシテ任意ナレドモ(其ノ管理及處分ニ付テハ監督官廳ノ許可ヲ要ス)唯罹災救助基金法(三二法、律七七)ハ府縣ニ罹災救助基金ヲ貯蓄スベキ義務ヲ負ハシム。基本財産及積立金穀ノ外一般ニ不動産ノ管理及處分ニ付テハ監督官廳ノ許可ヲ受ケシム(府一三三、市一六七、町一四七)。

四 地方團體ノ租稅

(一) 地方稅ノ種類 地方團體ノ課スル所ノ租稅ハ之ヲ地方稅ト謂フ。地方稅モ法律ノ根據ニ基クコトヲ要スルハ國稅ニ同ジト雖モ、國稅ニ付テハ課稅物件、課稅標準及稅率ニ付キ凡テ法律ガ自ラ之ヲ定ムルコトヲ主義トスルニ反シテ、地方稅ハ其ノ性質上各地方團體ニ通ジテ均一ノ率ヲ以テスルコトヲ得ザルヲ以テ、國ノ法律ヲ以テハ其ノ稅率ヲ迄モ定ムルコトヲ得ズ、法律ハ唯各地方團體ニ付與スベキ課稅權ノ限界ヲ定ムルニ止マリ、其ノ範圍内ニ於テハ之ヲ各地方團體ノ自治權ニ任ジ、國家ハ

之ニ行政上ノ監督ヲ加フルノミ。

現行ノ法律ガ地方團體ニ與フル所ノ課稅權ノ範圍ハ府縣ト市町村トニ依リ甚ダ相異ナリ。

(イ)府縣稅ニ付テハ地方稅制限ニ關スル法律(四一法)ノ外從來久シク特別ノ法律ノ規定ナク、府縣制ハ之ニ關スル規定ヲ勅令ニ委任シ(三〇條)而モ勅令ノ規定モ戶數割(大正一〇勅令)及家屋稅(三二勅令)ニ付キ發セラレタルニ止マリ、其ノ以外ニ於テハ明治十三年ノ太政官布告(一三布告)一六地方稅規則、一三布告(一七)地方稅中營業稅雜稅ノ種類ガ引續キ勅令トシテ效力ヲ有シタリシガ、大正十五年ニ至リ始メテ地方稅ニ關スル法律(一五法)ヲ制定シテ以テ此等ノ從來ノ規定ニ代ヘタリ。即チ現在ニ於テ府縣稅ノ基礎法タルモノハ主トシテ地方稅制限ニ關スル法律及地方稅ニ關スル法律ノ二ニシテ、此等ノ法律ニ依レバ、府縣ニ於テ課シ得ベキ租稅ノ種類ハ(1)土地其ノ他ノ財產ニ對スル課稅トシテハ、地租附加稅(其ノ稅率ニ付テハ地方稅)、鑛區稅及砂鑛區稅附加稅(鑛區稅法三條)、段別割(地方稅制)、特別地稅(土地ノ貸賃價格合計ガ二百圓未滿ナルニ因リ地租ヲ課セラレザル田畑ニ課稅ス、地方稅法二條乃至八條)及家屋稅(家屋ノ貸賃價格ヲ標準トシテ家屋所有者ニ賦課ス、地方稅法九條乃至一一條)ノ五種ヲ認メ、(2)一般所得及特別所得ニ對スル課稅トシテハ所得稅附加稅(地方稅制)、營業收益稅附加稅(地方稅制)、取引所營業稅附加稅(取引所稅)、鑛產稅附加稅(鑛業法)及ビ營業收益稅ヲ課セラレザル營業ニ對シ府縣ノ特別稅トシテノ營業稅(地方稅法一四條)ヲ課シ得ベキコトヲ認メ、別ニ(3)種々ノ性質ヲ有スル租稅ノ混合トシテノ雜種稅ヲ認ム。雜種稅ハ物稅、行爲稅及人稅ノ各種ヲ包含シ、府縣ニ於テ當然課稅シ得ベキモノト內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クル

ニ依リテノミ課稅シ得ベキモノトノ二種アリ(地方稅法一九條乃至二二條、一五勅令三三九同法施行令一七條乃至一九條、一五內務大臣省令同施行規則四條乃至一九條)。其ノ他貸座敷引手茶屋娼妓ニ對スル課稅ハ之ヲ賦金ト稱シ形式上租稅ト爲サズシテ雜收入ニ編入スベキモノト爲シ府縣知事ニ於テ適宜ニ賦課スベキモノト定ム(二一、二二、二四)。從來府縣ニ於テ賦課シタル戶數割ハ昭和二年度ヨリ廢止セラレタリ。

(ロ)市町村ニ於テ課シ得ベキ租稅ノ種類ハ(1)直接國稅及府縣稅ノ附加稅(2)特別稅ノ二種トス(市一一七條、町九七條)。(イ)附加稅ハ國稅又ハ府縣稅ニ一定ノ率ヲ附加スルモノニシテ、其ノ附加シ得ベキ率ニハ法律上ノ制限アリ。國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテ更ニ附加稅ヲ賦課スルコトハ之ヲ許サズ。(2)特別稅ハ市町村限リ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スル必要アル場合ニ於テ賦課スルモノニシテ、其ノ新設又ハ變更ニハ監督官廳(特別稅段別割ヲ除クノ外ハ內務大臣及大藏大臣)ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルモ、獨リ戶數割ニ付テハ地方稅ニ關スル法律(二二條)ニ依リ、市町村ガ當然ニ之ヲ課シ得ベキコトヲ定ム。戶數割ハ一戶ヲ構フル者(必ズシモ市町村內ニ住所ヲ有シ又ハ三月以上滞在スル者ナルコトヲ要セズ。判例ハ反對ノ見解)ニ賦課スルコトヲ本則トシ、一戶ヲ構ヘザルモ獨立ノ生計ヲ營ム者ニモ賦課スルコトヲ得。納稅義務者ノ資力ヲ以テ課稅ノ標準トシ、其ノ資力ハ其ノ所得額及資産ノ狀況ニ依リ之ヲ算定ス、即チ收益稅ト財產稅トノ性質ヲ合セ有シ、又人稅、物稅及行爲稅ノ混合的性質ヲ有ス。戶數割ヲ賦課シ得ベキ總額ハ豫算總額ノ一定ノ割合ヲ超ユルヲ得ザルノ制限アリ。總テ特別稅ニ關スル事項ハ市町村條例ヲ以テ

定ムルコトヲ要ス(市二九條、町一〇九條)。

六八〇

(二) 課税物件及税率 地方團體ガ其ノ課税ノ目的ト爲シ得ベキモノハ、人税ニ在リテハ其ノ區域内ニ住所ヲ有シ又ハ三ヶ月以上滞在スル者、物税ニ在リテハ其ノ区域内ニ在ル土地家屋物件、行爲税ニ在リテハ其ノ区域内ニ行ハルル行爲ナリ(府縣一〇四、一〇五、一〇六、市八、町村六、九八、九九)。

課税物件ガ數個ノ地方團體ノ區域ニ互リテ存スル場合ニ於テハ各地方團體ノ課税權ヲ公平ニ分配シ以テ重複課税ヲ避クルコトヲ要ス。地方團體相互ノ間ニ課税權配當ノ割合ニ付キ争ヲ生ジ得ベキ重ナル場合ハ、二以上ノ地方團體ノ區域ニ互リテ營業ヲ爲シ、財産ヲ所有シ又ハ居住滞在スル者ノ營業收益、財産又ハ一般所得ニ對シ課税スル場合ナリ。就中(イ)定地營業即チ一定ノ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ノ營業收益ニ對スル課税ハ營業所ノ所在地ニ依ルコトヲ當然ノ原則ト爲スト雖モ、二以上ノ地方團體ノ區域ニ互リテ營業所ヲ設ケ而シテ各營業所毎ニ本税ヲ分別スルコトナク其ノ全體ノ所得ニ對シ所得税、營業收益税、鑛産税等ノ本税ヲ納ムル者ニ對シ、各營業所所在地ノ地方團體ニ於テ附加税ヲ課スル場合ニ於テハ、各地方團體ニ於テ其ノ本税ニ對シ如何ナル歩合ヲ以テ附加税ヲ課シ得ベキカニ付キ一定ノ標準ナカルベカラズ。此ノ標準ハ各營業所ニ於ケル收益ヲ分別シ得ベキ限ハ其ノ收益ノ割合ニ依ルヲ當然ト爲スベシト雖モ、其ノ割合ハ必ズシモ明白ナラザルヲ以テ法律ハ關係各地方團體ノ理事機關ノ協議ニ依リ其ノ歩合ヲ定ムベキモノト爲シ(但シ府縣ニ於テ既ニ其ノ歩合ヲ定メタルトキハ市町村ニ於テハ其ノ歩合ヲ以テ其ノ府縣ニ於ケル本税額トス)若シ協議

調ハザルトキハ監督廳ノ決定ニ依ルベキモノト爲セリ(府縣制一〇八條、市町村制施行令四〇條)。(ロ)二以上ノ地方團體ノ區域ニ互ル財産ニ付キ課税スル場合ハ殊ニ鑛區及砂鑛區ニ付キ其ノ適用アリ。鑛區又ハ砂鑛區ノ面積ガ數地方團體ノ區域ニ互リ、其ノ全體ニ付キ鑛區税又ハ砂鑛區税ヲ納ムル者ニ對シ、各地方團體ニ於テ附加税ヲ課スル場合ニ於テハ地表ノ面積ニ依リ本税額ノ歩合ヲ定ム(府縣制一〇八條、市町村制施行令四一條)。(ハ)居住滞在中ガ數地方團體ノ區域ニ互ル者ノ人的所得(土地其ノ他ノ物的財産又ハ定地營業業ヨリ生ズルモノニ非ザル所得)ニ對スル課税ニ付テハ、其ノ所得ヲ平分シテ賦課シ、居住滞在中ガ時ヲ異ニスル場合ニ於テハ各月割ヲ以テ賦課ス(府縣制一〇七條、市町村制施行令四二條)。

地方税ニ付テモ法律ニ依リ特ニ課税除外ノ定アリ地方團體ヲシテ之ニ課税スルコトヲ得ザラシム。法律ハ又課税除外ニ關スル規定ヲ勅令ニ委任シ、勅令ヲ以テモ之ヲ定ムルコトヲ得ベカラシム(市制一町村制一〇一、一〇二條、府縣制一〇一、一〇二條)。

地方税ハ其ノ税率ニ關シテモ法律上ノ制限アリ。其ノ制限ハ或ハ絶對ナルモノアリ、或ハ特別ノ理由アル場合ニ於テハ監督廳ノ許可ヲ得テ制限外課税ヲ爲シ得ベキコトヲ認ムルモノアリ。其ノ制限ニ關スル規定ハ地方税制限ニ關スル法律(四一法、律三七)ヲ重ナルモノトシ、其ノ他各種ノ税法ニ於テ別ニ其ノ率ヲ定ムルモノアリ。就中國税又ハ府縣税ノ附加税ニ付テハ之ニ附加シ得ベキ歩合ニ付キ常ニ法律上ノ制限アリ。

(三) 地方税ノ賦課徴收 地方税ノ賦課ハ其ノ團體ニ於テ自ラ之ヲ定ムルヲ原則ト爲スト雖モ、唯

府縣稅ノ賦課ニ付テハ府縣會ノ議決ニ依リ其ノ細目ニ係ル事項ヲ關係市町村會ノ議決ニ委任スルコトヲ得(府縣制一〇九條)。

地方團體ガ各納稅義務者ニ對シ租稅ノ給付ヲ命ズルニハ原則トシテ書面ヲ以テ之ヲ告知スルコトヲ要ス(此ノ例外ハ唯私人ニ徵收ヲ委任スル租稅ニ付テノミ認メラレ)。此ノ書面ヲ徵稅令書ト謂フ。徵稅令書ハ府縣稅ニ在リテハ市町村ヲシテ之ヲ義務者ニ傳達セシムルヲ通常トス。府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ市町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ、市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シテ之ヲ義務者ニ交付ス。場合ニ依リ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ガ直接ニ徵稅令書ヲ義務者ニ發スルコトヲ妨ゲズ。市町村稅ニ在リテハ市町村長ガ義務者ニ徵稅令書ヲ發ス。

府縣稅ノ徵收ハ原則トシテ市町村ニ委任セラレ、市町村ハ之ヲ徵收シテ府縣ニ納入スルノ義務ヲ負フ(府縣制施行令三三條)。市町村稅ハ之ニ反シテ市町村ガ自ラ之ヲ徵收スルヲ原則トスルコト勿論ナリ。例外ノ場合ニ於テハ地方稅ニ付テモ其ノ徵收ヲ私人ニ委任スルコトガ許サルモノアリ。府縣又ハ市町村ハ內務大臣及大藏大臣ノ指定シタル府縣稅又ハ市町村稅(例、遊興稅、宴席稅、消費稅、觀覽稅)ニ付テハ其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵收セシムルコトヲ得(府縣制施行令三九條、市町村制施行令五三條)。徵收義務者ハ其ノ徵收スベキ府縣稅又ハ市町村稅ヲ府縣知事又ハ市町村長ノ指定シタル期日迄ニ拂込ムベキ義務ヲ負フ。若シ其ノ拂込ヲ爲サザルトキハ徵收義務者ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得。

地方團體ハ特別ノ事情アル場合ニ於テ其ノ徵收スベキ租稅ヲ減免シ又ハ納稅ノ延期ヲ許スノ權ヲ有ス(府縣制一三條、市制一〇八條、町村制一〇七條)。

地方稅ニ付テモ法律ハ一般ニ義務者ノ總財產ノ上ニ先取特權アルコトヲ認ム。先取特權ノ順位ニ付テハ國稅ハ府縣稅ニ先チ府縣稅ハ市町村稅ニ先ツテ原則トス(國稅徵收法二條、府縣制一六條五項、市制一三一條五項、町村制一一一條五項)。

(四) 地方團體ノ財政強制權及財政罰權 地方稅ニ關シテモ法律ハ二ノ點ニ於テ地方團體ノ財政上ノ強制權ヲ認ム。

(イ) 家宅又ハ營業所ニ臨檢シ及ビ帳簿物件ノ検査ヲ爲スノ權。但シ晝間ニ限リ營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間内ハ之ヲ爲スコトヲ得(府縣制一六條一項、市制一二七條、町村制一〇七條)。

(ロ) 不納ノ場合ニ於テ其ノ督促ヲ爲シタル後滯納處分ヲ行フノ權。滯納處分ハ國稅滯納處分ノ例ニ依ル(府一六、市一)。其ノ執行ノ任ニ當ル者ハ府縣稅ニ在リテハ知事ノ命ヲ受ケタル官吏吏員、市町村稅ニ在リテハ當該市町村吏員ナリ。

地方團體ハ又財政犯ニ對スル處罰權ヲ認メラル。地方團體ニ於テ處罰スルコトヲ得ベキ財政犯ニハ脫稅犯ト其ノ他ノ財政上ノ秩序犯トノ別アリ。脫稅犯ハ詐僞其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ滯納シタル罪ニシテ、府縣ニ於テモ市町村ニ於テモ其ノ滯納金額ノ三倍ニ相當スル金額(若シ其ノ金額ガ五圓未滿ナルトキハ五圓トス)以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得(府縣ニ於テハ府縣條例、市町村ニ於テハ市町村條例)。其ノ他ノ秩序犯ニ對

シテハ府縣又ハ市町村ノ何レニ於テモ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得^(上同)。各個ノ場合ニ付キ處罰ヲ科スルノ權ハ府縣ニ在リテハ府縣知事ニ屬シ、市町村ニ在リテハ條例ノ定ムル所ニ依ル。過料ノ處分ニ對シテハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得。

第五章 軍 政

第一節 總 論

一 軍政ノ觀念

軍政トハ國家ガ其ノ兵力ヲ取得シ及維持スルガ爲ニ一般統治權ニ基キ人民ニ命令シ強制シ負擔ヲ課シ及ビ其ノ軍隊ヲ管理スル作用ヲ謂フ。

(一) 軍政ノ目的 軍政ハ國家ノ兵力ヲ其ノ目的ト爲ス。國家ノ存立ニハ實力ヲ必要トシ、而シテ國家ノ實力ハ主トシテ財力及兵力ニ依リテ支持セラル。財力ガ立法、司法及行政ヲ通ジテ國家ノ總テノ作用ニ必要ナルト同ジク、兵力モ亦國家ノ國際上ノ地位ヲ保持スルガ爲ノミナラズ、國內ノ平和ヲ保ツガ爲ニモ必要ニシテ、警察ノ目的ノ爲^(前出三一頁以下)ニハ勿論、時トシテハ財政ノ目的ノ爲ニモ^(前出六六頁)兵力ヲ用キルコトアリト雖モ、此等ハ兵力ガ他ノ目的ヲ達スル手段トシテ用キラルル場合ニシテ、軍政ノ作用ニ屬セズ。軍政ハ兵力其レ自身ヲ目的トスル作用ニシテ、以テ兵力ヲ行使スルコトニ依リテ他ノ目的ヲ達スル作用ト區別セラル。國ノ陸海軍備ヲ構成シ及ビ之ヲ維持スルコトガ軍政ノ直接ノ

目的トスル所ナリ。

(二) 軍政ノ手段 軍政ノ作用ハ其ノ手段ヨリ謂ヘバ權力作用ト管理作用トノ二種ニ分ツコトヲ得。

權力作用ハ國ノ兵力ヲ構成シ維持スル爲ニ人民ニ對シ國家統治權ヲ行使スル作用ニシテ、其ノ權力ヲ軍政權ト謂フ。軍政權ノ作用ハ更ニ二種ニ大別スルコトヲ得。一ハ人民ニ兵役義務ヲ課スルノ作用ニシテ、一ハ兵役以外ニ於テ軍備ノ爲ニ人民ニ負擔ヲ課スルノ作用ナリ。或ハ警察作用ト等シク命令強制ノ作用ナルコトアリ、或ハ物上負擔トシテ物的ノ權利ヲ制限シ使用シ又ハ收用スルモノナルコトアリ。何レニシテモ國家ノ一般統治權ニ其ノ基礎ヲ有スルコトハ警察權、公用負擔特權、法政權又ハ財政權ト等シク、國家ノ統治權ガ兵力ノ目的ノ爲ニ發動スル場合ニ於テ其ノ權力ヲ軍政權ト稱スルナリ。

管理作用ハ人民ニ對シテ權力ヲ行使スル作用ニ非ズシテ、軍隊ノ内部ニ於テ所屬ノ軍人軍屬ヲ監督シ、軍隊ノ需要ヲ充タスガ爲ニ第三者ト私法上ノ法律行爲ヲ爲ス等要スルニ軍隊ヲ管理スルノ作用ヲ謂フ。人民ニ對スル一般統治權ノ作用ニ非ズシテ、軍隊内部ニ於ケル特別權力關係ノ作用ナルカ又ハ私人ト同様ノ地位ニ於テ行フ私經濟的作用ノ外ヲ出デズ。

二 軍政ト軍事ニ關スル他ノ作用トノ區別

軍政ノ觀念ヲ論ズルニハ尙軍政ト軍事ニ關スル他ノ作用トノ區別ヲ明ニスルコトヲ要ス。軍事ニ關スル作用ニハ三種ヲ分ツコトヲ得。(一)兵力使用ノ決定(二)軍ノ統帥(三)軍政是ナリ。

(一) 兵力使用ノ決定トハ特定ノ目的ノ爲ニ軍隊ノ出動ヲ決定スル國家ノ行爲ヲ謂フ。兵力使用ノ最モ主要ナル場合ハ戰爭ナルコトハ言ヲ待タズト雖モ、國際法上ノ意義ニ於テノ戰爭ニ該當セザル國家事變ニ際シ、又ハ其ノ他國內ノ秩序亂レテ警察力ヲ以テ之ヲ恢復スルコト能ハザル場合等ニ於テモ、兵力ノ使用ヲ必要トスルコト尠カラズ。何レノ場合ニモ兵力使用ノ事ヲ決スルハ事國家ノ政務ニ屬シ、軍隊ノ自ラ決シ得ベキ所ニ屬セズ。或ハ國務大臣ノ輔弼ヲ以テ勅旨ノ命ズル所ニ依リ、或ハ行政官廳ノ請求ニ依リ之ヲ行フ。唯已ムヲ得ザル緊急ノ必要アル場合ニ於テ軍司令官ノ自ラ決スル所ニ依リ兵力ヲ使用スルコトガ許サルルノミ。要スルニ兵力使用ノ事ヲ決スルハ軍統帥ノ作用ニモ非ズ、軍政ノ作用ニモ非ズシテ、外交又ハ警察等國家ノ他ノ目的ノ爲ニスル作用ナリ。

(二) 軍ノ統帥ハ軍隊ノ行動ヲ指揮統率スル作用ヲ謂フ。軍ノ統帥ハ我が國法上全然國家ノ行政作用ノ外ニ置カレ、陸海軍大元帥トシテノ天皇ノ大權ニ屬シ、國務大臣ノ責任ニ屬セズ。其ノ作用ノ精密ナル限界ハ慣習ト法令トニ依リテ定マリ理論上ニハ之ヲ一定シ難シト雖モ、其ノ範圍ハ國家ノ外交、財政其ノ他議會及政府ノ權限ニ屬スル作用ニ觸レザル限度ニ於テ軍隊ノ行動ヲ指揮統率スルコトニ止マラザルベカラズ。其ノ主タル作用ハ戰時事變ニ際シ軍隊ノ出動ノ決セラレタル場合ニ於テ現ハル。

平時ニ於テハ軍隊ハ不拔ノ劍トシテ其ノ活動力ヲ發揮スルコトナク静止ノ状態ニ在リ、隨テ統帥ノ作用モ亦多ク活動ノ餘地ナシト雖モ、唯平時ニ於テモ軍隊出動ノ場合ニ於ケル戰鬥力ヲ養成スル爲ノ準備行動トシテ演習、教練、檢閲等ヲ爲スハ等シク統帥ノ作用ニ屬ス。總テ軍統帥ノ作用ハ國家ノ行政作用ノ外ニ在ルモノナルヲ以テ、行政法ノ論ズベキ範圍ニ屬セズ。

(三) 軍政ハ軍ノ統帥トハ異ナリ、實力團トシテノ軍ノ行動ヲ指揮統率スル作用ニ非ズシテ、國家ノ施設トシテノ軍隊ヲ編制シ之ヲ維持シ管理スル作用ナリ。軍ノ統帥ガ作戰用兵ノ作用ナルニ對シテ軍政ハ編制及管理ノ作用ナリ。前者ガ軍機ノ祕密ヲ要シ、隨テ軍自身ノ自律ニ任ゼラレ、政府及議會ノ關與ノ外ニ置カルルニ反シテ、後者ハ國家ノ行政ノ一部ヲ爲シ、國務大臣ノ責任ニ屬ス。

三 軍政ノ機關

天皇ノ下ニ軍政ヲ掌ル機關ハ陸軍ト海軍ト其ノ系統ヲ異ニス。

(一) 陸軍 ニ在リテハ、陸軍大臣ヲ最高ノ官廳ト爲ス。陸軍大臣ハ陸軍軍政ヲ管理シ陸軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス(陸軍省官制一條)。陸軍大臣ノ監督ノ下ニ地方ニ於ケル軍政ノ機關ハ師團司令部、旅團司令部、東京警備司令部、要塞司令部、朝鮮軍臺灣軍及關東軍司令部等之ニ任ズ。此等ハ本來統帥ノ機關タルコトヲ主タル職務ト爲スト雖モ、同時ニ部下諸部隊ノ軍紀風紀ヲ統監シ、陸軍ニ屬スル建築物ノ保護ニ任ズル等軍政ヲ掌ル機關タリ。軍政ニ關シテハ陸軍大臣ノ指揮監督ニ服ス。徵兵

召集、在郷軍人等ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲ニ各師團長ノ下ニ於テ各聯隊區ニ聯隊區司令部ヲ置ク(聯隊區司令部)。其ノ他尙特殊ノ目的ノ爲ニハ中央及地方ニ特別ノ機關ヲ置クモノアリ。其ノ主要ナルモノヲ舉グレバ、(イ)軍馬兵器及軍需品ノ供給ニ關シテハ陸軍大臣ノ下ニ軍馬補充部、陸軍被服廠、陸軍糧秣廠、陸軍衛生材料廠、陸軍兵器廠、陸軍造兵廠、千住製絨所ヲ置キ、各師團長ノ下ニ陸軍兵器部ヲ附屬セシム。(ロ)航空ニ關シテハ陸軍航空部、(ハ)防禦營造物ノ築造ノ爲ニハ築城部、(ニ)兵器及兵器材料其ノ他陸軍ノ技術ノ進歩、統一ノ爲ニハ陸軍技術本部、陸軍技術會議、陸軍科學研究所ノ設置アリ、(ホ)會計ノ經理ノ爲ニハ中央ニ陸軍東京經理部、各師團及殖民地軍ニ附屬シテ陸軍經理部ヲ置ク。(ハ)軍事衛生ノ爲ニハ各師團及各軍ニ陸軍軍醫部、陸軍獸醫部ヲ附屬セシメ、又各衛戍地ニ衛戍病院ヲ置ク。(ト)陸軍司法事務ニ關シテハ各師團及各軍ニ陸軍法務部ヲ置キ、(チ)軍紀ヲ保持スルガ爲ニハ陸軍大臣ノ下ニ憲兵隊ヲ設置シ、憲兵司令部ヲ東京ニ置ク。(リ)陸軍ニ屬スル人馬物件ノ輸送ニ關スル事務ニ付テハ陸軍大臣ノ下ニ陸軍運輸部ヲ置ク。

陸軍ノ軍隊教育ノ事務ハ陸軍大臣ノ所管ノ外ニ置カレ、別ニ教育總監部ヲ置キ之ヲ統轄セシム。教育總監ハ天皇ニ直隸シテ陸軍砲工學校、陸軍士官學校、陸軍幼年學校、陸軍教導學校、陸軍歩兵學校、陸軍戸山學校等ノ諸學校ヲ管轄ス。唯陸軍大學校ハ教育總監ニ隸セズシテ參謀總長ニ隸ス。教育總監部ニ本部ノ外騎兵、砲兵、工兵、輜重兵監部ヲ置キ當該兵科ノ團隊教育ニ付キ統一進歩ノ責ニ任ゼシ

ム。各兵監ノ監督ノ下ニ陸軍騎兵學校、陸軍野戰砲兵學校、陸軍重砲兵學校、陸軍工兵學校アリ。其ノ他陸軍工科學校ハ技術本部長ニ、陸軍飛行學校ハ航空部本部長ニ、陸軍軍醫學校、陸軍獸醫學校、陸軍經理學校ハ陸軍大臣ニ隸ス。

(二) 海軍 ニ在リテハ海軍大臣ヲ軍政ノ最高官廳ト爲ス。海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ海軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス(海軍省官制一條)。鎮守府司令長官、要港部司令官、艦隊司令官等統帥ノ機關ガ同時ニ麾下ノ諸部隊ニ關シ軍政ノ任ニ當リ、而シテ此ノ任務ニ關シテハ海軍大臣ノ指揮ヲ承クルコトハ陸軍ニ於ケルト同ジ。特別ノ目的ノ爲ニ存スル機關トシテハ、海軍大臣ノ下ニ海軍艦政本部、海軍技術研究所、海軍航空本部、水路部、海軍火藥廠等ヲ置キ、各軍港其ノ他ニ海軍港務部、海軍經理部、海軍軍需部、海軍人事部、海軍工廠、海軍建築部、海軍病院等ヲ置ク。海軍ノ教育ハ陸軍ニ於ケルト異ナリ等シク海軍大臣ノ管轄ニ屬シ、海軍大學校、海軍兵學校、海軍機關學校、海軍軍醫學校、海軍經理學校等何レモ海軍大臣ノ監督ヲ承ク。唯海軍砲術學校、海軍水雷學校、海軍潜水學校等鎮守府司令長官ニ隸スルモノアリ。

第二節 兵役

一 兵役義務ノ性質

日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス(憲法二〇條)。我が國ニ於テ全國民ニ對シ強制徵兵制度ヲ採ルニ至リシハ明治五年ニ始マル。徵兵令ハ明治六年一月始メテ發布セラレ、其ノ後明治八年十五年及二十二年ニ其ノ改正アリ、最後ニ昭和二年四月新ニ兵役法(法律四七號)ヲ定メテ從來ノ徵兵令ニ代ヘ、同年十二月一日ヨリ施行スルモノト爲セリ。

兵役法ガ從來ノ徵兵令ト同ジク強制徵兵主義ヲ採ルコトハ言ヲ俟タズ。強制徵兵制度ハ以テ募集志願兵制度ニ對スルモノニシテ、後者ガ兵役ヲ以テ自由契約ニ一任スルニ反シテ前者ハ國家ノ權力ニ依リ強制的ニ其ノ義務ヲ負ハシムルモノナリ。然レドモ強制徵兵制度ハ決シテ自由契約ニ依ル兵役ヲ全然排除スルモノニ非ズ。強制的ノ兵役義務ハ其ノ性質上必然ニ一定ノ年數ヲ限ラルベク、軍人タルコトヲ以テ終身ノ職業ト爲サシムルモノナルコトヲ得ズ。而シテ軍備ノ目的ヲ達スルガ爲ニハ必ず職業的ノ軍人ヲ要シ強制的ノ兵役義務ノミヲ以テハ其ノ目的ヲ全クスルコトヲ得ズ。故ニ強制徵兵制ニ依ル者ノ外必ず自由意思ニ依ル軍人アルコトヲ要シ、殊ニ將校下士官ノ服役ハ總テ其ノ任意ノ志望ニ依ル。

法律上ノ兵役義務ハ其レ自身ニ於テハ特定ノ軍事上ノ勞務ニ服スルコトヲ内容トスル義務ニ非ズ。現實ノ服役義務ハ特別ノ國家ノ行爲ニ依リ始メテ設定セラル。一般兵役義務ハ唯國家ヨリ兵役ニ服ス

ルコトヲ命ゼラレ得ベキ状態ニ外ナラズ、其ノ義務ノ内容ハ服役ノ命アル場合ニ於テ其ノ命ニ服従スベキコトニ在リ。換言スレバ未ダ現實ノ義務タルモノニ非ズシテ、唯條件附義務タルノミ。隨テ兵役義務ニ服スル者ノ總テガ軍人タルニ非ズ、唯或ル條件ノ下ニ其ノ自由意思ニ基カズシテ軍人ト爲ルコトアルベキ地位ニ在ルノミ。此ノ故ニ又兵役義務ノ免除トハ單ニ徵兵検査又ハ抽籤等ノ結果ニ依リ服役ヲ免除セラルルコトヲ意味スルニ非ズシテ、全然國家ヨリ服役ヲ命ゼラルルコトナキ状態ニ置カルルヲ謂フ。

兵役義務ニ服スル者ハ滿十七年ヨリ滿四十年ニ至ル迄ノ日本臣民(内地人ニ限ル)タル總テノ男子ナリ。男子此ノ年齢ニ達スルトキハ何等ノ法律上ノ行爲ヲ要セズシテ當然ニ兵役義務ニ服ス。唯皇族ハ原則トシテ一般國法ノ適用ヲ受ケザルヲ以テ兵役法モ亦皇族ニ其ノ適用ナク、隨テ皇族男子ハ兵役義務ニ服セズ。兵役ニ服スルコトハ日本臣民ノ義務タルト共ニ其ノ權利ニシテ、此ノ權利ハ唯國ノ公民ノミ之ヲ有スルヲ得ベク、六年以上ノ懲役禁錮又ハ其ノ以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ得ズ(四條)。兵役能力ハ又内地人ニノミ屬シ、外國人ニ適用セラレザルハ勿論、朝鮮人、臺灣島人、樺太土人モ亦其ノ適用ヲ受クルコトナシ。法律ニ「戶籍法ノ適用ヲ受クル者」(九條)ト曰ヘルハ以テ其ノ内地人ニ限ルコトヲ示セルモノナリ。

兵役義務ハ唯内地人ノミ之ヲ負フモノナルヲ以テ、臣民ガ外國ニ歸化シ又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ日

本ノ國籍ヲ失ヒ又ハ朝鮮人、臺灣島人、樺太土人ノ家ニ入りタルトキハ兵役義務ハ當然消滅スルコト言フ俟タズ。唯兵役義務ヲ免ルルガ爲ニ此等ノ手段ヲ用キルコトハ固ヨリ許スベカラザル所ナルヲ以テ、法律ハ滿十七年以上ノ男子ハ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シ又ハ現役ニ服スル義務ナキ者ニ非ザレバ、國籍ノ離脱ニ因ル場合ヲ除クノ外、歸化其ノ他國籍喪失ノ原因アルモ尙日本ノ國籍ヲ失フヲ得ザルモノト爲シ(二四條)、又陸海軍ノ兵籍ニ在ラザル者、兵役ニ服スル義務ナキニ至リタル者及ビ徵兵終決處分ヲ經テ第二國民兵役ニ在ル者ノ外内地ノ家ヲ去ルコトヲ得ザルモノト爲セリ(共通法三條三項)。

凡テ内地人タル男子ハ公權ヲ失ヒタル者ヲ除クノ外等シク兵役義務ニ服スト雖モ、此等ノ總テノ者ガ皆軍人トシテ軍隊ニ編入セラルルニ非ザルハ言フ俟タズ。軍隊ニ編入セラルベキ者ハ常備軍編制ノ必要ニ應ジ毎年所要ノ員數ヲ限ラレ、其ノ他ノ者ハ戰時事變ノ際ニ非ザレバ軍隊ニ所屬スルコトナシ。此ノ故ニ等シク兵役義務ニ服スル者ノ中ニモ其ノ服役ノ内容ハ甚ダ種々ニシテ、其ノ一部分ハ終身唯條件附義務ヲ負フニ止マリ、現實ニハ全ク兵役ニ服スルコトナクシテ終ルモノナリ。法律ハ兵役ヲ分チテ常備兵役、後備兵役、補充兵役、國民兵役ノ四種ト爲シ、而シテ常備兵役ハ之ヲ現役及豫備役ニ、補充兵役ハ之ヲ第一補充兵役及第二補充兵役ニ、國民兵役ハ之ヲ第一國民兵役及第二國民兵役ニ分ツモノト爲セリ。此等ノ中現ニ軍隊ニ屬シ常時軍事上ノ勤務ニ服スルハ唯現役ニ止マリ、其ノ他ハ戰時事變ニ際シ、又ハ臨時特定ノ目的ノ爲ニ召集セラルルコトアルノミ。

男子滿十七年ニ達スルトキハ法律上當然ニ第二國民兵役ニ服ス。其ノ以後ニ於テ尙如何ナル兵役ニ服スルカハ徵兵適齡ニ達シタル後徵兵検査ヲ受ケタル結果ニ因リ決セラル。其ノ服役ノ體様ハ志願ニ依リ兵籍ニ編入セラルル者ヲ除クノ外左ノ五種ニ分タル。

- (イ) 現役兵トシテ徵集セラルル者 現役ニ服シタル後、豫備役ヲ經テ、後備兵役ニ服シ、後備兵役ノ年限滿了ノ後第一國民兵役ニ入ル。但シ短期現役兵ハ現役滿了後直ニ第一國民兵役ニ服ス。
- (ロ) 第一補充兵役ニ徵集セラルル者 補充兵トシテ軍隊ニ於テ教育ヲ受ケタル者ハ補充兵役ノ年限ヲ終ヘタル後第一國民兵役ニ入リ、然ラザル者ハ同一年限ノ後第二國民兵役ニ入ル。
- (ハ) 第二補充兵役ニ徵集セラルル者 補充兵役ノ年限滿了ノ後第二國民兵役ニ入ル。
- (ニ) 第二國民兵役ノママ徵集ヲ受ケズシテ終ル者。
- (ホ) 兵役ヲ免除セラルル者。

二 徵集

志願ニ基クニ非ズシテ國權ニ依リ現役又ハ補充兵役ニ服セシムル行政行爲ヲ徵集ト謂フ。徵集ハ徵兵適齡者ニ對シ徵兵検査ヲ爲シタル結果ニ依リ之ヲ行フコトヲ原則トス。徵兵適齡トハ前年ノ十二月一日ヨリ其ノ年ノ十一月三十日迄ニ滿二十年ニ達スルヲ謂フ。徵兵適齡者ハ特別ノ事由ニ因リ徵集ヲ延期セラルル者ヲ除クノ外其ノ年ニ於テ徵兵検査ヲ受クルノ義務アリ。若シ其ノ年ニ於テ徵兵検査ヲ

受ケザルトキハ次年ニ於テ之ヲ受クルコトヲ要ス。徵兵検査ハ身體検査、身上ニ關スル調査及ビ此等ノ結果ニ依ル徵兵處分ヲ包含スルモノニシテ、徵兵官之ヲ行フ。徵兵検査ハ其ノ検査ヲ受クベキ者ノ本籍所在ノ徵募區ニ於テ之ヲ行ヒ、唯身體検査ニ限り本人ノ願ニ依リ寄留地ノ徵募區ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得。

身體検査ノ結果ハ之ヲ、(イ) 現役ニ適スル者、(ロ) 國民兵役ニ適スルモ現役ニ適セザル者、(ハ) 兵役ニ適セザル者、(ニ) 兵役ノ適否ヲ判定シ難キ者ノ四種ニ區分ス。(イ) 現役ニ適スル者ハ其ノ體格ノ程度ニ應ジ之ヲ甲種、第一乙種、第二乙種ニ分チ、其ノ等位ノ順序ニ從ヒ各徵募區ノ配賦人員ニ應ジテ現役兵又ハ第一補充兵トシテ徵集シ、體格等位同一ナルモノハ抽籤ニ依リ(例外ノ場合ニ於テハ抽籤ヲ待タズ)徵集順序ヲ定ム。現役兵又ハ第一補充兵トシテ徵集セラルル者ハ其ノ身材藝能及職業ニ依リ其ノ服スベキ兵種ヲ選定區分セラル。現役兵又ハ第一補充兵ニ徵集セザル者ハ之ヲ第二補充兵ニ徵集ス。(ロ) 國民兵役ニ適スルモ現役ニ適セザル者ハ身體検査ノ結果丙種トセラレタル者ニシテ、之ニ對シテハ徵集免除ノ處分ヲ爲シ、第二國民兵役ニ服セシム。(ハ) 兵役ニ適セザル者ハ身體検査ノ結果丁種トセラレタル者ニシテ、之ニ對シテハ兵役免除ノ處分ヲ爲ス。兵役免除ノ處分ハ全身畸形、不治ノ精神病、癩、盲、聾、啞又ハ一肢欠缺ノ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證明スベキ書類ニ基キ身體検査ヲ行ハズシテ之ヲ爲スコトヲ得。現役編入、補充兵役編入、徵集免除及兵役免除ノ處分ハ之ヲ徵兵終決處分トシ、各之ヲ本

人ニ通達ス。(ニ)兵役ノ適否ヲ判定シ難キ者ハ疾病中又ハ病後等ノ事由ニ因リ體格等位ヲ確定シ難キ者ニシテ之ヲ戊種トシ其ノ徵集ヲ延期シ、次年ニ於テ更ニ徵兵検査ヲ行フ。

徵兵適齡者ニシテ法律ノ定ムル特別ノ事由アルモノハ特ニ徵集ヲ延期セラルルモノアリ。徵集ノ延期ハ或ハ徵兵検査ヲ受ケタル者ニ對シテ與ヘラルルコトアリ、或ハ徵兵検査ヲモ延期セラルルモノナルコトアリ。前者ニ屬スルハ、(イ)兵役ノ適否ヲ判定シ難キコトニ基ク徵集延期、(ロ)家事故障ニ因ル徵集延期ノ二ナリ。徵兵検査ヲ受ケタル者現役兵トシテ徵集セラルルニ因リ家族ガ生活ヲ爲スコト能ハザルニ至ルベキ確證アル場合ニ於テハ二年間徵集ヲ延期ス。其ノ期間ヲ過ギ尙其ノ事由止マザルトキハ期間滿了ノ翌年徵兵検査ヲ行フモ現役兵又ハ第一補充兵トシテ徵集スルコトナシ。後者ニ屬スルハ、(イ)犯罪等ニ基ク徵集延期、(ロ)在學ニ基ク徵集延期、(ハ)外國在留ニ基ク徵集延期ノ三ナリ(イ)禁錮以上ノ刑ニ該ルベキ犯罪ノ爲豫審又ハ公判中ノ者、犯罪ノ爲拘禁中ノ者、刑ノ執行停止中ノ者、假出獄中ノ者、少年法ニ依リ感化院、矯正院又ハ病院ニ收容中ノ者、矯正院法ニ依リ假退院中ノ者ハ其ノ徵集ヲ延期シ、其ノ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵検査ヲ行フ。(ロ)中學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ在學スル者ハ本人ノ願ニ依リ法律ノ定ムル最高年齢(中學校程度ノ學校ハ二十二年、專門學校ニ至ル迄徵集ヲ延期シ、在學ノ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵検査ヲ行フ。最高年齢ニ達スルモ在學ノ事由止マザル者ハ最高年齢ニ達シタル年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵検査ヲ行フ。)(ハ)徵兵適齡前ヨ

リ外國ニ在留スル者ハ本人ノ願ニ依リ其ノ徵集ヲ延期シ、其ノ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵検査ヲ行フ。年齢二十七年ニ達シテ其ノ事由尙止マザルトキハ徵集ヲ免除ス。

徵兵事務ノ執行ニ當ル機關ヲ徵兵官ト謂フ。徵兵官ハ總理徵兵官、師管徵兵官、聯隊區徵兵官トシ、各陸軍軍政ノ機關ト内務行政ノ機關トヲ合セテ之ニ充ツ。總理徵兵官ハ陸軍大臣及内務大臣ヲ以テ之ニ充テ、全國ノ徵兵事務ヲ統轄ス。師管徵兵官ハ師管内道府縣毎ニ師團長及地方長官ヲ以テ之ニ充テ、其ノ區域内ノ徵兵事務ヲ統轄ス。聯隊區徵兵官ハ聯隊區内道府縣毎ニ聯隊區司令官及ビ府縣書記官又ハ地方事務官(之ヲ兵事官ト稱ス)、支廳長、市長又ハ區長ヲ以テ之ニ充テ、聯隊區司令官ヲ首座トシ徵兵事務ヲ執行ス。別ニ毎年徵兵事務執行中徵兵醫官ヲ置キ、身體検査ニ關スル事務ヲ掌ラシム。

各種ノ兵員ノ徵集ハ、歩兵隊ノ兵員ハ聯隊毎ニ其ノ師管ノ一聯隊區ヨリ、其ノ他ノ陸軍ノ兵員ハ其ノ師管ヨリ之ヲ徵集スルヲ原則トス。海軍ノ兵員ハ師管ヲ通ジテ之ヲ徵集ス。

三 志願ニ依ル兵役

強制徵募ニ依リ兵役ニ服スル者ノ外、志願ニ依リ兵籍ニ編入セラルル者アリ。志願ニ依ル兵役ニハ更ニ軍人タルコトヲ常職トスルガ爲ニ之ヲ志願スル者ト法律上ノ兵役義務ヲ滿タス方法トシテ之ヲ志願スル者トヲ分ツコトヲ得。前者ニ屬スル者ハ現役ノ將校、下士官、憲兵上等兵又ハ樂手補ヲ志願スル者ニシテ、此等ハ志願ニ基キテノミ之ヲ採用ス。將來軍人タルベキ目的ヲ以テ陸軍又ハ海軍ノ學校ニ

入學スル者モ亦同ジ。後者ニ屬スルモノハ、(イ)志願ニ依ル普通現役兵、(ハ)幹部候補生ノ二ヲ舉グルコトヲ得。兩者ノ中間ニ屬スルモノニハ尙海軍志願兵アリ。

(イ)志願ニ依ル普通現役兵ハ年齢十七年ニシテ徵兵適齡ニ達スルニ先チ普通ノ現役兵トシテ服役スルコトヲ志願スル者ヨリ採用スルモノニシテ、其ノ採否ハ陸軍兵ニ付テハ聯隊區司令官、海軍兵ニ付テハ海軍人事部長之ヲ決ス。其ノ服役ハ強制徵募ニ依ル現役兵ニ同ジ。

(ロ)幹部候補生ハ從來ノ一年志願兵ニ該當ス。年齢十七年以上二十七年未滿ニシテ高等ノ教育ヲ受ケ當該學校ノ配屬將校ニ於テ行フ教練ヲ修了シ、豫備役及後備役士官トナル希望ヲ有シ、且ツ修業期間中ノ食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ依リ十月間又ハ一年間ノ入營修業ノ後豫備役士官ニ任ゼラルル資格ヲ得シム。其ノ修業期間中ハ現役トス。從來ノ制ニ於テハ法律上ノ兵役義務ノ變形トシテ志願兵ト稱シタリシヲ、新制ニ於テハ豫備役士官タルベキ候補者トシテ普通ノ現役兵トハ全ク其ノ法律上ノ取扱ヲ異ニシ、其ノ名稱ヲ改ムルト共ニ其ノ入營中ノ期間ニ付テモ服役ト稱セズシテ修業期間ト稱スルコトト爲セリト雖モ、其ノ實質ニ於テハ、專門學校程度以上ノ學校ヲ卒業シタル者ニ付テ二月ノ入營期間ヲ短縮シタルコトノ外ニハ、從前ト異ナルコトナシ(昭和二勅令三三一)陸軍補充令第二章。

(ハ)海軍志願兵ハ年齢十七年以上二十一年未滿ノ者ニ付キ志願ニ依リ海軍兵トシテ採用スルモノニシテ、其ノ現役期間ハ五年ト定メラルルモ、期間滿了後引續キ數次再現役ヲ志願スルコトヲ得。再現

役ハ二年ヲ一期トシ、三十五年ヲ以テ現役定年限年齢トス(昭和二勅令三三)四海軍志願兵令。

四 服役

(一)現役 現役トハ未入營者及歸休兵ヲ除クノ外現ニ軍隊ニ屬シ軍事上ノ勤務ニ服スル義務ヲ謂フ。現役ハ陸軍ニ在リテハ二年海軍ニ在リテハ三年(從來ハ陸軍ハ三年海軍ハ四年ノ定ナリ)ヲ常則トシ、現役兵トシテ徵集セラレタル者及志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者之ニ服ス。現役兵ハ陸軍大臣ノ指定スル期日ニ於テ入營スルコトヲ要シ、現役中ノヲ在營セシム(但シ憲兵上等兵及樂手補ハ之ナ)。

現役兵ノ入營及在營義務ハ或ハ其ノ入營ニ先チ或ハ其ノ入營後ニ於テ延期又ハ免除セラルルコトアリ。入營延期ハ二ノ場合ニ認メラル。(イ)家族二人以上現役兵トシテ同時ニ在營スル爲家事上ノ支障ヲ生ズル場合ニ於テ一人ノ在營間他ノ者ノ入營ヲ延期スルコトヲ得。(ロ)現役兵トシテ入營スベキ者疾病其ノ他避クベカラザル事故ニ因リ期日ニ入營シ難キトキハ三十一日以内入營ヲ延期シ、其ノ期間内ニ尙入營シ難キ者ニハ更ニ徵兵検査ヲ行フ。入營後ニ於ケル入營免除ハ或ハ現役ヲ免除シテ之ヲ他ノ兵役ニ轉セシムルモノナルコトアリ、或ハ歸郷ヲ命ジ翌年更ニ徵兵検査ヲ受ケシムルモノナルコトアリ。現役免除ハ二ノ場合ニ認メラル。(イ)在營中本人ニ依ルニ非ザレバ家族ガ生活ヲ爲スコト能ハザルニ至リタルトキ、(ロ)疾病其ノ他身體若ハ精神ノ異常ニ因リ現役ニ服シ難キトキ是ナリ。後ノ場合ニハ單ニ現役ノ免除ノミナラズ兵役ヲ免除スルコトアリ。歸郷命令ハ入營ノ際行フ身體検査ニ於テ

疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常ニ因リ勤務ニ堪ヘズト認めル者ニ對シテ行ハル。

現役兵ノ在營期間ハ種々ノ理由ニ因リ特ニ短縮セラルルモノアリ。(イ)青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同等以上ノ訓練ヲ修了シ檢定ニ合格シタル者ハ六月以内之ヲ短縮スルコトヲ得。(ロ)其ノ他ノ者ハ軍事上妨ナキトキニ限リ六十日以内之ヲ短縮スルコトヲ得。(ハ)輜重輸卒及陸軍衛生部ノ兵卒ノ在營期間ハ特ニ短縮セラル。(ニ)品行方正學術勤務ノ成績優秀ナル者又ハ定員ニ對シ過剩ト爲リタル者ノ在營期間ハ之ヲ短縮スルコトヲ得。凡テ在營期間ヲ短縮スル場合ニ於テハ現役期間内ニ未入營期間又ハ歸休期間ヲ置ク。歸休兵ハ在營兵ノ補闕其ノ他必要アル場合ニ之ヲ召集スルコトヲ得。

一方ニ於テハ又戰時事變ニ際シ又ハ其ノ他特別ノ必要ニ因リ服役期間ヲ延長スルコトアリ(一九)。

現役兵ノ服役年限ニ付キ特別ノ例外ヲ爲ス者ハ短期現役兵ナリ。年齢二十五年迄ニ師範學校ヲ卒業シタル者ハ五月間(師範學校ノ教練ヲ修了セザル者ハ七月間)ヲ限リ現役ニ服セシム。

(二) 豫備役、後備兵役 豫備役ハ陸軍ニ在リテハ五年四月、海軍ニ在リテハ四年トシ、現役ヲ終ヘタル者之ニ服ス。後備兵役ハ陸軍ニ在リテハ十年、海軍ニ在リテハ五年トシ、常備兵役ヲ終ヘタル者之ニ服ス。

豫備兵及後備兵ハ戰時事變ニ際シ召集セラルルコトアルノ外、平時ニ於テハ勤務演習ノ爲豫備役及後備兵役ヲ通ジ五回以内之ヲ召集スルコトヲ得。其ノ召集ハ一年一回ヲ限リ、其ノ日數ハ陸軍ニ在リ

テハ三十五日以内、海軍ニ在リテハ七十日以内トス。其ノ他尙毎年一回簡閱點呼ヲ行フコトヲ得。服役第一年次ノ豫備兵ハ警備其ノ他ノ必要ニ因リ歸休兵ヲ召集スルモ尙兵員ヲ要スル場合ニ之ヲ召集スルコトヲ得。

此等ノ召集ニ應ズベキ義務ニ付キテモ特別ノ理由アル場合ニ於テ延期又ハ免除セラルルコトアリ。

(三) 補充兵役 ハ陸軍ニ在リテハ第一補充兵役及第二補充兵役共ニ十二年四月トシ、現役ニ適スル者ニシテ其ノ年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員ヲ先ヅ第一補充兵トシテ徵集シ、殘餘ヲ第二補充兵トシテ徵集ス。海軍ニ在リテハ第一補充兵役ハ一年トシ、之ヲ終ヘタル者第二補充兵役ニ服ス、其ノ年限ハ十一年四月ナリ。現役兵ニ死亡疾病犯罪其ノ他ノ事由ノ爲闕員ヲ生ジタルトキハ其ノ年ノ補充兵ヲ以テ徵集順序ニ從ヒ闕員ヲ補充ス。

補充兵ハ戰時事變ニ際シ召集セラルルコトアルノ外、毎年一回簡閱點呼ヲ受クル義務アリ。又第一補充兵ハ教育ノ爲百二十日以内之ヲ召集スルコトヲ得。其ノ教育ヲ受ケタル者ハ豫備兵後備兵ト同ジク勤務演習ノ爲之ヲ召集スルコトヲ得。

(四) 國民兵役 第一國民兵役ハ後備兵役ヲ終ヘタル者、短期現役兵ニシテ現役ヲ終ヘタル者、及ビ軍隊ニ於テ教育ヲ受ケタル補充兵ニシテ補充兵役ヲ終ヘタル者之ニ服シ、第二國民兵役ハ兵役義務者ニシテ常備兵役、後備兵役、補充兵役及第一國民兵役ニ在ラザル者之ニ服ス。國民兵ハ戰時若クハ

事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍兵員ヲ要スルトキニ於テ必要ニ應ジ之ヲ召集ス。國民兵役ニ在ル者ハ主トシテ國民軍ノ要員ニ充ツ。國民兵役ニ在ラザル者ト雖モ元軍人タリシ者ハ志願ニ依リ國民軍ニ編入セラルルコトアリ。

第三節 軍事負擔

一 軍事負擔ノ性質及種類

軍事負擔トハ軍備ノ目的ノ爲ニ國家ガ人民ニ負ハシムル所ノ經濟上ノ負擔ヲ謂フ。廣義ニ於テハ軍事負擔ハ兵役義務ヲモ包含スルノ意ニ用キルコトヲ得ベシト雖モ、兵役義務ハ單純ナル經濟上ノ負擔ニ非ズシテ一身ヲ捧ゲテ忠實ニ軍務ニ服スベキ義務ヲ包含シ、單ニ經濟的性質ヲ有スル負擔トハ全く性質ヲ異ニスルヲ以テ、普通ニ軍事負擔ト謂フトキハ兵役義務ヲ除外シ、專ラ經濟的負擔ヲ指スノ意ニ用キルヲ例トス。軍事負擔ニ在リテモ時トシテハ勞役ニ服スル義務(例、人夫)ヲ課セラルルコトアリト雖モ、此ノ場合ニ於テモ其ノ勞務ハ兵役義務ノ如ク特別ノ忠實義務ヲ包含スルコトナク、單ニ經濟的意義ニ於テノ勞務ニ服スル義務タルニ止マリ、其ノ内容ニ於テハ民法上ノ債務ニ類ス。兵役義務ハ一般臣民ニ對シテ均等ニ課セラルル所ノ負擔ナルニ反シテ、軍事負擔ハ常ニ特別負擔ニシテ特殊ノ地位ニ在ル者ニ對シテノミ課セラレ、而シテ國ノ統治權ニ服スル者ニ對シテハ内地人タルト外國人タルトヲ問ハズ之ヲ課スルコトヲ得。

軍事負擔ハ國家ノ事業ノ爲ニ課スル所ノ負擔ナルヲ以テ、一般ノ公用負擔ト其ノ性質ヲ同ジクス。其ノ内容ヨリ言ヘバ、或ハ人的ノ勞役又ハ物品負擔ナルモノアリ、勞役負擔ハ例ヘバ人夫ノ徵發ノ如ク、物品負擔ハ例ヘバ食料品、馬匹ノ徵發ノ如シ。或ハ公用制限、公用使用又ハ公用徵收ニ相當スルモノアリ、公用制限ハ例ヘバ要塞地帯ノ制限ノ如ク、公用使用ハ例ヘバ舍營ノ徵發、工場ノ強制使用ノ如ク、公用徵收ハ例ヘバ車輛船舶ノ徵發、工場ノ收用ノ如シ。

軍事負擔ハ或ハ直接ニ法律ニ依リテ發生シ、何等ノ行政行爲ヲ要セザルモノアリ、或ハ法律ニ基キ特別ノ行政行爲ニ依リテ發生スルモノアリ。何レノ場合ニモ軍事負擔ハ唯法律ニ依リテノミ之ヲ定ムルコトヲ得ベク、命令ヲ以テ定ムルヲ得ベキ所ニ非ザルコトハ一般公用負擔ニ於ケルト同ジ。

軍事負擔ハ法律ノ定ムル所ニ依ルヲ以テ、其ノ種類ハ法律ノ規定ニ依リ之ヲ列舉スルコトヲ得ベシ。現行法ニ依リ其ノ重ナルモノヲ舉グレバ(一)徵發(二)軍需工業動員(三)要塞地帯ノ制限(四)軍港要港ノ制限是ナリ。其ノ他軍機ニ關スル事業ノ爲ニスル土地收用モ軍事負擔ノ一種ナリト雖モ、土地收用法ノ規定ニ依ルモノナルヲ以テ、既ニ述ベタル所ニ讓リ、茲ニ之ヲ述ベズ。

二 徵發

徵發トハ軍隊ヲ活動セシムルニ當リ、普通ノ手段ヲ以テ其ノ需要ヲ充スコト能ハザル場合ニ於テ、其ノ必要ヲ充シ得ベキ地位ニ在ル者ニ對シ必要ナル經濟的負擔ヲ課スル行爲ヲ謂フ。徵發ハ戰時又ハ事變ニ際シ軍隊ヲ動かスニ當リ必要ナル軍需ヲ地方人民ニ課スルモノナルヲ正則トス。但シ平時ニ於テモ演習及行軍ニ當リ已ムヲ得ザル必要アルトキハ之ヲ行フコトヲ得。

徵發ニ關スル現行ノ法規ハ徵發令(一五布 告四三)及徵發事務條例(一五布 達二六)ヲ重ナルモノトス。其ノ大要左ノ如シ。

(一) 徵發ノ目的物ハ、(イ)物品負擔、殊ニ馬糧、食料品、薪炭、飲水、石炭等ノ供給、(ロ)勞役負擔、殊ニ人夫(戰時ニ在リテハ職工、鑛夫、洗滌人ノ類ヲモ徵發スルコトヲ得)、(ハ)使用負擔、殊ニ馬、車輛、宿舍、厩園、倉庫、船舶、汽車、演習ニ要スル土地、演習ニ要スル材料器具等、(ニ)所有權ノ收用、殊ニ馬、車輛、船舶ノ各種ニ分ツコトヲ得。

(二) 徵發ヲ爲スノ手續ハ、徵發權ヲ有スル機關ヨリ徵發區ニ對シ徵發書ヲ發スルニ依リテ之ヲ行フ。徵發書ヲ發スルノ權ハ陸軍大臣、海軍大臣、師團長、鎮守府司令長官、其ノ他總テ陸海軍ノ獨立部隊長ニ屬ス。徵發區ハ徵發ノ目的物ノ種類ニ依リ府縣、市町村又ハ船舶會社、鐵道會社トス。徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府縣知事、市町村長又ハ驛長、船舶會社店長ニ交付ス。知事市町村長ハ各其ノ要求ニ應ジテ其ノ區域内ノ人民ニ對シ其ノ課セラレタル負擔ヲ分賦シ、其ノ區域内ニ於テ供給ヲ全クスル

職責ヲ有ス。但シ徵發區ガ自ラ其ノ負擔ノ主體タルニ非ズ、其ノ負擔ヲ課セラルル者ハ徵發ノ目的物ノ所有者又ハ勞役物品ノ供給者ニシテ、知事、市町村長ハ唯國家ノ機關トシテ其ノ負擔ヲ分賦シ且之ヲ供給セシムル職務上ノ責任アルニ止マル。會社ガ徵發區タル場合ニ於テハ之ニ反シテ其ノ會社ガ自ラ負擔者ナルコト勿論ナリ。臨戰又ハ合圍地ニ於テ時機切迫シタルトキハ徵發書ヲ發スル權アル者ハ徵發書ヲ發セズ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトヲ得。

徵發ノ目的物ニ對シテハ完全ナル損失補償ヲ給スルコトヲ要ス。補償ハ各徵發區毎ニ一括シテ之ヲ交付シ之ヲ負擔者タル人民ニ分配セシム。補償金額ハ法律ノ定ムル標準ニ依リ府縣知事、市町村長ヨリ之ヲ請求スルモノトス。評價ノ標準明ナラザルモノ又ハ負擔者トノ協議調ハザルモノハ評價委員ヲシテ之ヲ評定セシム。其ノ價格ニ付テハ訴訟ヲ以テ之ヲ爭フベキ途ナシ。

三 軍需工業動員

軍需工業動員法(大正七法 律三八)ハ戰時ニ際シ軍需品(兵器、艦艇、航空機、彈藥、軍用器具機械及物品、船舶、鐵道軌道及以上ノ物ノ生産修理ニ要スル材料原料機械設備等其附屬設備、燃料、被服、糧秣、衛生材料、獸醫材料、通信用物品、)ノ生産、修理又ハ輸送ノ爲ニ民間ノ工業ヲ軍隊ノ目的ニ強制利用シ得ベキ方法ヲ定ム。同法ニ依リ戰時ニ於テ政府ノ取り得ベキ手段トシテ認メラルモノハ左ノ如シ。

(一) 工場及事業場ノ強制管理、使用又ハ收用 強制管理トハ事業ノ經營ハ從來ノ如ク之ヲ繼續セシメ、唯其ノ管理權ヲ政府ノ手ニ移スヲ謂ヒ、使用トハ從來ノ用途ヲ變ジテ之ヲ軍需品ノ生産又ハ修

理ノ爲ニ使用スルヲ謂ヒ、收用トハ所有權ヲ政府ニ歸屬セシムルヲ謂フ。政府ハ戰時ニ際シ軍需品ノ生産又ハ修理ノ爲必要アルトキハ、其ノ種ノ事業ヲ營ミ、又ハ其ノ原料若クハ燃料ヲ生産シ、又ハ之ニ必要ナル電力若クハ動力ヲ發生スル工場及事業場、又ハ此等ノ工場ニ轉用スルコトヲ得ベキ工場ヲ管理シ、使用シ又ハ收用スルコトヲ得。

(一) 土地竝家屋、倉庫其ノ他工作物及其ノ附屬設備ノ強制管理、使用又ハ收用 戰時ニ於テ軍需品ノ生産、修理又ハ貯藏ノ爲必要アルトキハ政府ハ此等ノ手段ヲ取ルコトヲ得。普通ノ土地收用ノ場合ノ如ク單ニ土地ノミヲ收用スルニ非ズシテ土地ト共ニ倉庫其ノ他ノ設備ヲ管理、使用又ハ收用スルモノナリ。

(三) 船舶鐵道等ノ強制管理 戰時ニ際シ必要アルトキハ此等ノ輸送設備ニ付政府ハ之ヲ自己ノ管理ノ下ニ歸屬セシムルコトヲ得。

(四) 従業員ノ徵用 以上(一)乃至(三)ノ場合ニ於テ政府ハ其ノ従業者ヲ併セテ供用セシムルコトヲ得。

(五) 軍需品ノ處分ノ制限 政府ハ戰時ニ際シ軍需品ノ讓渡、使用、消費、所持、移動若クハ輸出入ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得。

(六) 勞役ノ徵用 政府ハ軍事輸送機關、國ノ經營ニ係ル軍需品工場又ハ政府ガ強制管理ヲ爲シタ

ル工場若クハ事業上ノ業務ニ從事セシムル爲ニ兵役ニ在ル者ヲ兵役法ニ拘ラズ召集シ、又ハ兵役ニ在ラザル者ヲ徵用スルコトヲ得。

以上戰時ニ於ケル工業動員ノ目的ヲ達スル爲ニ、平時ニ於テモ關係商工業者ニ報告ノ義務ヲ負ハシム。

四 要塞地帯

要塞地帯トハ國防ノ爲建設シタル防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ謂フ。其ノ區域ハ陸地ト海面トヲ含ミ、距離ノ遠近ニ應ジテ之ヲ三區ニ分チ、陸軍大臣之ヲ定メテ且ツ之ヲ告示ス。要塞地帯内ニ於ケル制限ハ要塞地帯法^(三二法律)ノ定ムル所ニシテ、其ノ制限ハ(一)地帯區域内ニ於ケル土地所有權制限(二)一般人民ニ對スル禁止ノ二種ト爲スコトヲ得。

(一) 要塞地帯ニ於ケル土地所有權制限ハ區ニ依リテ同ジカラズ。何レモ或ル種ノ築造物ノ新設、改築、増築又ハ變更ヲ禁止シ又ハ制限スルモノニシテ、或ハ絶對ニ之ヲ禁止スルモノアリ、或ハ要塞司令官又ハ陸軍大臣ノ許可ヲ受ケズシテ之ヲ爲スコトヲ禁止スルモノアリ。其ノ禁止ニ違背シテ新設、改築、増築又ハ變更ヲ爲シタル築造物ハ之ヲ除去又ハ復舊セシムルコトヲ得。

(二) 要塞地帯ニ於ケル一般人民ニ對スル制限ハ二種アリ、(イ)水陸ノ測量、撮影模寫、錄取及ビ航空ハ要塞地帯内及第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以内ノ區域ニ於テ何人モ要塞司令官ノ許可ヲ

得ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ。(ロ)第一區ニ屬スル水面ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ漁獵、採藻、及艦船ノ繫船、土砂ノ掘鑿ヲ爲スコトヲ得ズ。

五 軍港、要港

軍港及要港ハ普通ノ港灣ガ警察官廳ノ管理ニ屬スルニ反シテ專ラ海軍ノ管理ニ屬シ、軍港ハ鎮守府司令長官、要港ハ要港部司令官之ヲ管ス。其ノ境域ニ屬スル陸地及水面ニ於テハ軍事ノ目的ヲ妨グルノ虞アル各種ノ行爲ヲ禁止シ又ハ制限ス。殊ニ艦船ノ出入碇泊、火器又ハ爆發物ノ發射發火、海岸ニ於ケル物件ノ委棄、山林原野ノ焚火、各種ノ築造物、境域上ノ航空、測量撮影等ハ或ハ禁止セラレ或ハ制限セララル(二三法律二軍港要港ニ關スル件、三三海令七軍港規則)。旅順港モ亦要港ニ準ジ、旅順港規則(四二勅令三〇四大正一海令二四)ノ制限アリ。

第四節 軍人

陸海軍人ハ陸海軍將校、將校相當官、特務士官(海軍ノミニ存ス)、准士官、下士官、兵(陸軍ニ在リテハ從來「卒」ト稱シタルヲ、昭和六勅令二七二陸軍兵ノ名稱改正ニ關スル件ニ依リ「兵」ト改ム)ヨリ成ル。下士官以上ハ國ノ官吏ニシテ、其ノ服役ニハ現役、豫備役、後備役ノ別アリ。各官ニハ其ノ官ニ應ジ現役年限年齢ノ定アリ、現役官其ノ年齢ニ達スルトキハ豫備役ニ

入り、未ダ其ノ年齢ニ達セザルモ願ニ依リ又ハ其ノ理由ニ依リ豫備役ニ入ラシムルコトアリ。豫備役及後備役ニモ服役年限ノ定アリ、豫備役滿期ト爲ルトキハ後備役ニ入り、後備役滿期ト爲ルトキハ退役トス。但シ將校、同相當官、特務士官及准士官ハ何レモ終身官ニシテ、本人ノ辭職ニ依リ若クハ懲戒ニ依リ免官ト爲リ又ハ刑罰ノ結果當然失官ト爲ルノ外ハ退役者ト雖モ終身其ノ官ヲ保有ス。下士官ハ之ニ反シテ終身官ニ非ズ、後備役滿期ト爲リタルトキハ第一國民兵役ニ服セシメ、而シテ第一國民兵役ニ入りタル者ハ同時ニ其ノ官ヲ失フ。此等ノ點ニ付テノ詳細ハ陸軍將校分限令(大正三勅令六六七)、海軍將校分限令(二四勅令七九)、陸軍武官服役令(昭和二勅令三三三)、海軍武官服役令(昭和二勅令三三三)ノ定ムル所ナリ。

帝國憲法第三十二條ハ曰ク『本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限り軍人ニ準行ス』ト。即チ軍人ハ軍隊ノ規律ニ必要ナル限度ニ於テハ憲法第二章ニ定ムル自由權ノ保障ヲ受クルコトナク、法律ニ依ラズシテ其ノ自由ヲ拘束セララルノ地位ニ在ルモノナリ。憲法ニハ單ニ軍人ト曰ヘルヲ以テ其ノ文字上ノ意義ヨリ謂ヘバ在郷軍人ヲモ含ムガ如シト雖モ、軍隊ノ特別ノ規律ニ服スルヲ要スルハ現ニ軍隊ニ所屬スル者ニ限ルハ當然ナルヲ以テ、憲法ノ所謂軍人ハ軍隊所屬員ノ意ニ解スベク、一面ニ於テハ軍人ノ身分ヲ有スル者ト雖モ、軍隊ニ所屬セザル間ハ其ノ適用ヲ受ケザルト共ニ、一面ニ於テハ軍人ノ身分ヲ有セザル軍屬ト雖モ現ニ軍隊ニ所屬スル間ハ等シク其ノ適用ヲ受クルモノナリ。

軍人ニ對シテハ此ノ如キ憲法上ノ特例アルヲ以テ、其ノ法律上ノ地位ハ著シク一般人民ト異ナルモノアリ。其ノ重ナル諸點ハ左ノ如シ。

一 軍人ノ職務上ノ義務

軍人ハ國家ニ對シ忠實ニ無定量ノ勤務ニ服スル公法上ノ義務ヲ負フ者ナルコトニ於テ一般官吏ト同ジ。唯現ニ軍隊ニ屬スル軍人ハ其ノ規律特ニ嚴重ナルコトヲ要スルヲ以テ其ノ拘束ヲ受クルノ程度ハ一般官吏ニ比シ遙ニ強シ。

(一) 軍人ノ職務上ノ義務ノ一般官吏ト異ナル最モ主要ナル點ハ其ノ從順ノ義務ニ在リ。軍隊ノ戰鬥力ヲ發揮シ軍備ノ目的ヲ全クスル爲ニハ、軍令ノ統一ヲ保チ、上官ノ命令ヲシテ絶対ノ效力ヲ有セシメ、軍隊ヲシテ恰モ一箇體ノ如クニ心ヲ一ニシテ活動セシメザルベカラズ。此ノ故ニ明治十五年ノ軍人ヘノ勅諭ノ中ニハ『下級ノ者ハ上官ノ命ヲ承ルコト實ハ直ニ朕ガ命ヲ承ル義ナリト心得ヨ』ト宣タマヒ、陸軍軍人讀法ニモ『長上ノ命令ハ其事ノ如何ヲ問ハズ直ニ之ニ服從シ抵抗干犯ノ所爲アルベカラザル事』ノ箇條アリ。上官ノ命令ニ抵抗スルハ一般文官ニ在リテハ唯懲戒處分ノ原因タルニ止マルニ反シテ軍人ニ在リテハ嚴重ナル刑罰ヲ以テ之ガ制裁ト爲ス(陸軍刑法抗命ノ罪五七條乃至五九條、海軍刑法抗命ノ罪五五條乃至五七條)。

軍人ガ上官ノ命令ニ服從スルコトヲ要スルハ唯其ノ命令ノ有效ナル場合ニ限ルコトハ勿論ナリト雖モ、軍令ハ效力ハ二ノ點ニ於テ一般文官ニ對スル職務命令ト區別シテ觀察スルコトヲ要ス。(イ)軍人

ハ其ノ一身上ノ生活行動ニ付テモ軍ノ紀律ニ關係スルモノ多ク、職務ニ關係ナキ私生活ノ範圍トシテ認ムベキモノ甚ダ狹シ。隨テ軍人ニ對スル命令ハ一見私生活ニ屬スト認ムベキモノニ付テモ多クノ場合ニ於テ尙有效ノ命令タルコトヲ失ハズ。殊ニ入營中及ビ戰時ニ於テ陣中ニ在ル軍人ハ其ノ總テノ生活行動ニ付キ上官ノ命令ニ服ス。(ロ)絶対ニ無効ナル命令ニ對シテハ軍人ハ固ヨリ服從ノ義務ヲ負ハズト雖モ、軍人ヲシテ自ラ命令ノ有效無効ヲ審査スルノ責任ヲ負ハシメ、若シ無効ナル命令ニ服從スルトキハ服從者ニ於テ自ラ責任ヲ要ストスルトキハ、軍人ヲシテ其ノ服從ニ危懼ヲ感ゼシメ、延テ軍紀ノ統一ヲ害スルヲ以テ、上官ノ命令ニ基キテ爲シタル行爲ニ付テハ假令其ノ命令ノ無効ナル場合ト雖モ、自ラ責任ヲ負コトナク、其ノ命令者タル上官ニ於テ專ラ其ノ責任ヲ任ズベキモノト解セザルベカラズ。是レ法律ガ刑罰ノ制裁ヲ以テ服從ヲ強制セルコトヨリ生ズル當然ノ條理ナリ。

(二) 軍人ニ在リテハ特ニ敬禮ヲ以テ法律上ノ義務ト爲ス。軍人勅諭ノ中ニ『己ガ隸屬スル所ニアラズトモ上級ノ者ハ勿論停年ノ己ヨリ舊キモノニ對シテハ總テ敬禮ヲ盡スベシ』トアリ。軍人ノ敬禮ニ付テハ陸軍ニハ陸軍禮式(四四軍令陸五)、海軍ニハ海軍禮式令(大正三勅令一五)、海軍禮砲令(大正三勅令一二)ノ定アリ。

(三) 陸軍軍人ハ其ノ就役ニ際シ軍人讀法ヲ受ケ宣誓ヲ爲スノ義務アリ。

二 軍人ノ身分上ノ特殊地位

軍人ハ職務上ノ義務ニ服スル外其ノ身分ニ關シテモ種々ノ點ニ於テ一般人民ト異ナル特殊ノ地位ヲ

有ス。

七二二

(一) 民法上ニ於テハ、軍人軍屬ノ遺言ニ關シテ特別法(三三法律一三軍人軍屬ノ遺言確認ニ關スル件)ノ定アリ。現役軍人ノ婚姻ニ付テハ親任官及同待遇者ハ勅許ヲ要シ、其ノ他ノ軍人ハ陸軍大臣、所屬長官、又ハ所屬部隊長ノ許可ヲ要ス(大正一〇、勅令四八一陸軍現役軍人ノ婚姻ニ關スル件、大正一〇、勅令四八三海軍現役士官現役特務士官候補生及現役准士官ノ婚姻ニ關スル件)。但シ此ノ許可ハ法律ヲ以テ定メラレズ勅令ノ定ムル所ナルヲ以テ婚姻ノ效力發生ノ要件ト解スルヲ得ズ、唯許可ヲ受ケズシテ婚姻ヲ爲スベカラザル公法上ノ義務ヲ負フノミ。

(二) 刑法上ニ於テハ軍人ハ普通刑法ノ適用ヲ受クルノ外特ニ軍事ニ關スル犯罪ニ付キ陸軍刑法及海軍刑法ノ定アリ、現ニ軍務ニ服スル軍人ニ適用セラル。刑ノ執行ニ關シテモ死刑ノ執行ハ一般人ニ對スルト異ナリ陸軍又ハ海軍ニ於テ死刑ヲ執行スルトキハ陸海軍法衙ヲ管轄スル長官ノ定ムル場所ニ於テ銃殺ス。

(三) 裁判管轄ニ關シテハ軍人ハ刑事裁判ニ付テノミ特別ノ管轄ニ服ス。現ニ軍務ニ服スル陸海軍人ノ犯罪ハ普通ノ刑事裁判所ノ管轄ニ屬セズ、陸軍軍法會議及海軍軍法會議ヲ置キテ之ヲ管轄セシム。

(四) 憲法及行政法上ノ地位ニ於テハ現役軍人ハ衆議院ノ選舉權ヲ行フコトヲ得ズ、又被選資格ヲ有セズ。陪審員ノ職ニ就カシムルヲ得ズ。市町村ノ公民權ヲ行フコトヲ得ズ、隨テ府縣會市町村會等地方團體ノ選舉ニ參加シ又ハ被選人タルコトヲ得ズ。政事上ノ結社ニ加入スルコトヲ得ズ。

軍人ノ戰功ヲ賞スル爲ニハ特ニ金鷄勳章ノ制アリ。戰鬪又ハ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癱疾ト爲リタル軍人ニ授與スル爲ニハ軍人傷痍記章ノ制ヲ設ク。其ノ他從軍記章戰捷記章等ノ制アリ。

(五) 軍人ノ給與ニ關シテハ、現ニ軍務ニ服スル者ニ付テハ陸軍給與令(三三勅令)陸軍戰時給與規則(二七勅令)海軍給與令(三七勅令)海軍戰時給與規則(二七勅令)等ノ定アリ。現役ヲ離レタル軍人又ハ其ノ遺族ノ生活ヲ保障スル爲ニハ恩給法(大正一〇、法律四八)ニ依リ終身年金又ハ一時金ヲ給ス。軍事救護法(大正六)ニ依レバ傷病兵其ノ家族若クハ遺族又ハ下士官兵ノ家族若クハ遺族ニシテ生活スルコト能ハザル者ハ其ノ生活ニ必要ナル限度ニ於テ救護ヲ受クルノ權利ヲ有ス。別ニ癩兵院(三九法律二)ノ制アリ、戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケ恩給法ニ依リ増加恩給ヲ受クル者ニシテ救護ヲ要スルモノハ之ヲ癩兵院ニ收容シ國費ヲ以テ終身之ヲ扶養ス。公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給法ニ依リ増加恩給ヲ受クル者ニシテ救護ヲ要スルモノモ亦特ニ之ヲ癩兵院ニ收容スルコトヲ得。

三 軍人ノ懲罰

軍人ニ對スル懲戒處分ハ一般官吏ノ例ニ依ラズ、陸軍懲罰令(四四軍令)海軍懲罰令(四一勅令)ニ依リ別ニ之ヲ定メ、陸海軍將校ノ免官ニ付テハ陸軍將校分限令及海軍將校分限令ニ依リ之ヲ定ム。軍人ノ懲罰ガ官吏ノ懲戒ト異ナル最モ著シキ特色ハ、(イ)罰ノ種類ガ單ニ其ノ軍人タル地位ニ基ク權利又ハ利

益ヲ剝奪スルニ止ラズシテ、其ノ自由ヲ拘束スルノ罰ヲ含ミ、陸軍將校下士官ニハ重謹慎、輕謹慎、陸軍兵ニハ重營倉、輕營倉、海軍將校ニハ謹慎、海軍下士官兵ニハ拘禁、禁足ヲ科シ得ベキコト、(ロ)懲罰ノ手續ニ於テ特別ノ委員會ノ審査ヲ經ルコトナク、所屬上長官ノ專斷ニ依リ、將校ノ免官ハ勅裁ニ依ルコトニ在リ。本來ノ性質ヨリ言ヘバ自由ヲ拘束スベキ處罰ヲ科スルハ勿論、其ノ他ノ罰ニ付テモ、兵ハ自己ノ自由意思ニ基カズシテ其ノ地位ニ在ル者ナルヲ以テ之ヲ處罰スルニハ常ニ法律ノ規定ニ依ルヲ要スルモノナリト雖モ、唯軍人ハ憲法第三十二條ニ依リ一般臣民ト同様ナル自由權ノ保障ヲ受ケザルヲ以テ、此等ノ處罰モ亦勅令又ハ軍令ヲ以テ定メラレタリ。

四 軍事司法

(一) 軍事刑法 軍事ニ關スル犯罪ヲ處罰スル爲ニ陸軍刑法(四一法) 軍機保護法(三一法律) 海軍刑法(四一法) ノ定アリ。此等ノ法律ハ普通刑法ニ對シ特別法ノ性質ヲ有スルモノニシテ、此等ノ法律ニ規定セラルル事項ニ付テハ其ノ法律ヲ適用シ普通刑法ノ適用ナク、其ノ規定ナキ事項ニ付テノミ普通刑法ヲ適用ス。普通刑法ノ總則ノ規定ハ例外ノ定ナキ限リハ此等ノ特別刑法ノ罪ニモ等シク適用セラル。刑罰ニ關シテモ普通刑法ト特別刑法トニ依リ刑名ヲ異ニスルコトナシ。軍事特別刑法ノ適用ヲ受クル者ハ必ズシモ軍人ノミニ限ラズ、軍機保護法ガ一般人民ニ適用セラルルハ勿論陸軍刑法及海軍刑法モ亦其ノ或ル條項ハ軍人ニ非ザル一般人民ニ適用セラルト雖モ、其ノ主要ノ目的トスル所ハ現ニ軍務ニ

服スル陸海軍軍人ノ軍紀ヲ紊ル者ヲ處罰スルニ在リ、軍ノ紀律ガ特ニ軍人ニ付キ此ノ嚴重ナル制裁ヲ要求スルナリ。

(二) 軍法會議 軍人ノ犯罪ハ通常裁判所ノ管轄ニ屬セズ、軍法會議ニ於テ其ノ裁判權ヲ有ス。軍人ニ付キ此ノ特別裁判所ノ制ヲ設クルハ軍隊ノ特殊ノ性質ト軍紀ノ嚴格ヲ保ツノ必要アルニ基クモノナリ。

軍法會議ノ權限ハ主トシテ犯罪者ノ身分ニ依リテ定マリ、例外トシテ其ノ身分ヲ有セザル者ノ犯罪ニ付テモ裁判權ヲ有スルモノアリ。陸軍軍法會議法(大正一〇法律八五)ニ依レバ陸軍軍法會議ノ裁判權ニ屬スルモノ左ノ如シ。

(イ) 身分ニ基キ軍法會議ノ裁判ニ服スル者ハ(1)陸軍ノ現役ニ在ル者但シ未ダ入營セザル者及歸休兵ヲ除ク(2)召集中ノ在郷軍人(3)召集ニ依ラズ部隊ニ在リテ陸軍軍人ノ勤務ニ服スル在郷軍人(4)前二號ノ外現ニ服役上ノ義務履行中ノ在郷軍人(5)志願ニ依リ國民軍隊ニ編入セラレ服務中ノ者(6)陸軍所屬ノ學生、生徒(7)陸軍軍屬(8)陸軍ノ勤務ニ服スル海軍軍人(9)陸軍用船ノ船員(10)以上ノ外尙陸軍ノ部隊ニ屬シ又ハ從フ者(11)俘虜ナリ。此等ノ者ハ其ノ身分發生前ノ犯罪ニ付テモ軍法會議ノ裁判ニ服ス。此等ノ何レニモ屬セザル在郷軍人ガ陸軍ノ制服着用中ニ犯シタル罪ハ陸軍刑法ノ罪ニ限リ軍法會議ニ於テ裁判權ヲ有ス。

(ロ)身分ニ拘ラズシテ軍法會議ガ裁判權ヲ有スルハ、戒嚴ノ宣告其ノ他戰時事變ニ際シ特殊ノ必要アル場合ニシテ(1)合圍地境ニ在リテ軍人ト共ニ犯シタル同一又ハ別個ノ罪(2)合圍地境ニ於ケル陸軍刑法、海軍刑法、軍機保護法、其ノ他軍事ノ必要ニ因リ特ニ設ケタル法令ノ罪(3)合圍地境ニ於ケル普通刑法ノ罪ニシテ戒嚴令(條一)ニ依リ軍法會議ノ權限ニ屬セシメタルモノ(4)合圍地境内ニ於ケル軍事ニ係ル民事事件(5)合圍地境内ニ裁判所ナク又其ノ管轄裁判所ト通路斷絶シタル場合ニ於テハ其ノ地境内ニ於ケル一切ノ民事刑事事件(6)戰時事變ニ際シ軍ノ安寧ヲ保持スル爲必要アル場合ニ於ケル刑事事件是ナリ。

海軍軍法會議ノ權限モ亦略之ニ準ズ(大正一〇法律九一 海軍軍法會議法)。

軍法會議ハ之ヲ常設ノモノト必要ニ因リ特設スルモノトニ分ツコトヲ得。(イ)常設軍法會議ハ陸軍ニ在リテハ高等軍法會議及ビ師團軍法會議(朝鮮軍法會議、臺灣軍法會議、關東軍法會議モ之ニ準ス)ノ二級トシ、海軍ニ在リテハ高等軍法會議及ビ東京軍法會議、鎮守府軍法會議、要港部軍法會議ノ二級トス。(ロ)必要ニ因リ特設スルモノハ陸軍ニ在リテハ軍法會議、獨立師團軍法會議、獨立混成旅團軍法會議、兵站軍法會議、合圍地軍法會議、臨時軍法會議ノ六種トシ、海軍ニ在リテハ艦隊軍法會議、合圍地軍法會議、臨時軍法會議ノ三種トス。

軍法會議ハ國家刑罰權ノ機關ニシテ、憲法上ノ特別裁判所ノ一種タリ、固ヨリ軍統帥權ノ機關ニ非

ズ、其ノ構成ガ法律ヲ以テ定メラルルモ此ノ理由ニ因ルモノナリ。然レドモ軍法會議ガ通常裁判所ト分離セラルルハ主トシテ軍隊ノ規律ノ特ニ嚴重ナルコトヲ要スルガ爲ニシテ、其ノ裁判ハ軍隊ノ規律ト密接ノ關係ヲ有シ、隨テ軍法會議ノ構成ハ二ノ點ニ於テ著シク普通ノ裁判所ノ構成ト異ナリ。

一ハ軍法會議ノ長官ト裁判機關トガ分離セラルルコト是ナリ。軍法會議ノ長官ハ高等軍法會議及ビ東京軍法會議ニ在リテハ陸軍大臣又ハ海軍大臣トシ、其ノ他ニ在リテハ總テ其ノ部隊又ハ地域ノ司令官トス。軍法會議ノ長官ハ其ノ裁判官ヲ定メ、除斥其ノ他ノ事由アル場合ニ於テ裁判官ヲ變更シ、豫審官及檢察官ヲ命ジ竝ニ公訴及搜查ヲ指揮スルノ權ヲ有スト雖モ、自ラ裁判ニ關與スルコトナシ。換言スレバ長官ハ自ラ軍事司法權ヲ行フノ機關ニ非ズシテ司法機關ヲ統轄スル機關ナリ。陸海軍大臣又ハ軍隊ノ司令官ガ軍法會議ノ長トナルハ軍法會議ガ通常裁判所ノ如キ完全ナル獨立ノ機關ニ非ズシテ、同時ニ軍ノ規律ヲ維持スルガ爲ニ存スル機關ナルコトヲ示スモノナリ。

一ハ其ノ裁判官ガ專任ノ裁判官ノミヨリ成ラズシテ大部分ハ陸海軍將校ヲ以テ任ズルコト是ナリ。軍法會議ノ裁判官ハ判士及法務官ヲ以テ組織シ、判士ハ陸海軍將校(被告人ト同等以上ナルコトヲ要ス)ヲ以テ之ニ充ツ。法務官ハ判事ト同様ノ資格ヲ有スル者ヲ以テ任ズル專任ノ司法官ニシテ、終身官タル身分ヲ有スルコトハ判事ニ同ジク、唯其ノ任用及懲戒ニ關スル規定ハ法律ニ依ラズ、勅令ヲ以テ定メラル。軍法會議ノ裁判ハ五人ノ合議裁判(特設軍法會議ハ三人ト爲スコトヲ得)トシ、高等軍法會議ハ判士三人、法務官二人ヲ以テ、其ノ他

書庫

ハ判士四人法務官一人ヲ以テ裁判官トス。即チ専門ノ裁判官ノ裁判タルヨリハ寧ロ主トシテ同僚裁判タル性質ヲ有ス。

軍法會議ニ於ケル訴訟手續ハ舊陸軍治罪法海軍治罪法ノ規定ニ反シテ、新法ニ於テハ著シク普通ノ刑事訴訟手續ニ近似スルニ至レリ。裁判公開主義、口頭辯論主義、檢證等ニ關スル原則亦大體ニ於テ普通ノ刑事訴訟ニ同ジ。唯特設軍法會議ニ於テハ被告人ニ辯護人ヲ附スルコトヲ得ズ、又其ノ判決ニ對シ上訴ヲ爲スコトヲ得ズ。常設ノ軍法會議ニ在リテハ下級審ノ判決ニ對シ高等軍法會議ニ上告スルコトヲ許ス、但シ事實ノ認定ニ付キ控訴ヲ爲スコトヲ許サズ。

行政法撮要 終

大正十三年六月十一日初版印刷
 大正十三年六月十五日初版發行
 昭和七年九月廿七日改訂第三版印刷
 昭和七年九月三十日改訂第三版發行

行政法撮要下卷 附
 定價金四圓六拾錢



著 者 美 濃 部 達 吉
 發 行 者 江 草 重 忠
 印 刷 者 佐 藤 駒 次 郎

發 行 所

東京市神田區一ツ橋通町五番地
 電話九段八〇三
 東京市本郷區湯川町八〇番地

有 終



社 會 式 株 刷 印 東 日 所 刷 印

美濃部博士著述目錄

米國憲法の由來及特質	日本憲法 第一卷	類集續行政法判例	類集行政法判例	行政法撮要 各下論卷	行政法撮要 總上論卷	憲法精義	憲法撮要
全假一册綴	全本一册綴	全本一册綴	全本一册綴	全本一册綴	全本一册綴	全上一册綴	全本一册綴
定價金壹圓貳拾錢 郵税金八錢	定價金五圓五拾錢 郵税金貳拾貳錢	定價金壹圓零拾錢 郵税金拾四錢	品切	定價金四圓六拾錢 郵税金貳拾貳錢	定價金壹圓六拾錢 郵税金貳拾貳錢	定價金五圓 郵税金貳拾貳錢	定價金四圓 郵税金貳拾貳錢

終

